

平成25年度 学力向上に関する緊急会議

義務教育課

日時：平成25年10月2日

午後2時～4時30分

場所：自治会館200

201会議室

次 第

- 1 開会の挨拶  
宮城県教育委員会 教育長 高橋 仁
- 2 講話  
「現在の子どもの状況について」  
宮城県子ども総合センター 所長 本間 博彰
- 3 説明 義務教育課  
(1)「宮城県の全国学力・学習状況調査結果について」  
(2)「宮城県の学力向上への取組」
- 4 講話  
「宮城県の児童生徒の学力について」  
宮城教育大学大学院教育学研究科 教授 相澤 秀夫 様  
  
\* \* \* \* \* 休 憩 \* \* \* \* \*
- 5 事例紹介  
「大河原町の学力向上への取組」  
大河原町教育委員会 教育長 齋 一志 様
- 6 意見交換  
座長 教育庁教育次長 熊野 充利
- 7 まとめと閉会の挨拶  
教育庁参事兼義務教育課長 鈴木 洋

平成25年度学力向上に関する緊急会議 参加者名簿

番号	氏名	所属	職名
1	本間博彰	子ども総合センター	所長
2	相澤秀夫	宮城教育大学大学院	教授
3	齋一志	大河原町教育委員会	教育長
4	佐々木勝美	大河原町教育委員会	学校教育専門監兼指導主事
5	佐々木賢司	宮城県PTA連合会	会長
6	岡本リマ	宮城県PTA連合会	副会長
7	菅原正功	宮城県小学校長会	副会長
8	有見正敏	宮城県中学校長会	会長
9	伊藤常春	宮城県小・中学校教頭会	副会長
10	桂島晃	大河原教育事務所	所長
11	樫村恵三	仙台教育事務所	所長
12	中島順也	北部教育事務所	所長
13	吉木修	北部教育事務所栗原地域事務所	所長
14	星豪	東部教育事務所	所長
15	大沼透	東部教育事務所登米地域事務所	所長
16	佐藤佳彦	南三陸教育事務所	所長
17	佐々木清光	総合教育センター	副所長
18	本郷和也	大河原町立大河原小学校	教諭(教務主任)
19	山上真紀子	名取市立増田小学校	主幹教諭
20	三崎浩	富谷町立成田中学校	主幹教諭
21	加勢幸美	大崎市立古川第一小学校	教諭(研究主任)
22	清野邦則	大崎市立古川中学校	主幹教諭
23	庄司岳	栗原市立宮野小学校	教諭(教務主任)
24	及川隆行	石巻市立釜小学校	主幹教諭
25	高橋秀憲	登米市立佐沼小学校	教諭(研究主任)
26	河原正樹	南三陸町立志津川小学校	教諭(研究主任)
27	高橋仁	宮城県教育委員会	教育長
28	熊野充利	教育庁	教育次長
29	鈴木洋	教育庁	参事兼義務教育課長
30	高橋剛彦	教育企画室	室長
31	松坂孝	スポーツ健康課	課長
32	三浦正之	生涯学習課	課長
33	布田秀一	義務教育課	課長補佐(総括担当)
34	丸山千佳子	義務教育課指導班	指導主事
35	岩間孝一	義務教育課指導班	指導主事
36	鎌田鉄朗	義務教育課指導班	指導主事
37	千葉睦子	義務教育課指導班	指導主事
38	早川知宏	義務教育課指導班	指導主事
39	船迫邦則	義務教育課指導班	プリフェクチュラルコーディネーター

## 現在の子どもの状況

～東日本大震災が子どもの発達や注意集中力に及ぼした影響について～

### I 被災地の子どもに見られる問題

1. 震災による心の問題は時間の推移とともに変化する／年齢によって問題の表れ方が異なる。

#### (1) 初期の心の問題

最も多く発現した問題が急性ストレス障害

①特に年齢の小さな子ども・発達に問題のある子どもに多く見られた。主たる症状  
(この問題を被った幼児は次々と小学校に入学して学齢児になる)

- ・多動や興奮
- ・地震・津波遊び
- ・不安(赤ちゃん返り、分離不安、家から出ない)
- ・回避・乖離(ボーっとしている)

②ある程度の発達レベルに達した学齢児(言語的に自分の体験をある程度表出できる)は、不安や恐怖感を言葉で発することができていた。怖い、また地震が来たらどうしようなどと訴えていた。

③いずれも驚愕、不安、恐怖、混乱状態に対する心の反応である。多くの子どもでは時間とともに消失するが、子どもたち全般に共通することとして、今でも地震や大雨などの自然の驚異に対して警戒心が容易に発動するということだ。子どもの中には、この急性ストレス障害から PTSD や他の精神障害(行為障害など)に増悪している。いずれにせよ、子どもたちは自分の発達や学習に使うエネルギーの多くを警戒、不安、恐怖感などの対応に使わざるを得ない状況にあった。

#### (2) 後期の心の問題

①この時期は PTSD および PTSD 関連障害を主にして様々な問題が出現した。震災の影響により、不登校や心身症、強迫神経症、不安障害およびうつ状態など様々な心の問題が出現した。また受容しきれない感情は怒りなどの攻撃的な感情として発現されるが、子どもによっては怒りや不全感のコントロールが利かないために物を壊す、他児への乱暴などの破壊的な問題行動が出現していた。

PTSD (心的外傷後ストレス障害) の子どもが示す症状・行動

1. 再体験症状: 悪夢や苦痛な夢を繰り返しみる。ちょっとした出来事を怖がる。

「311」の驚愕記憶が繰り返し出てくる。一人になった時に恐怖を感じる出来事に襲われる、時に、幻想/幻覚が出現する。

2. 回避症状: 将来について考えられない、「311」に関連する状況や思考を避ける。学校の必要な活動に興味を持たない、参加しない。周囲の人から孤立する。学校生活でボーっとした時間が多くなる。感情が薄っぺらになる、感情を表出しなくなる。

3. 過覚醒亢進症状: 過度の警戒心、刺激に対する過剰反応、睡眠障害、イライラ

今現在でも、心の中がぐちゃぐちゃな状態の子どもは少なくない。

- ②これまでの取り組みでは心の問題とはされなかったが、イライラを示す子どもは少なくない。ほとんどの被災地の学校で耳にする徴候である。これは一つは過覚醒状態と言われる症状で、部分 PTSD を示す。ボーっとした子ども、反応の悪い子どもが散見されるが、これは回避あるいは解離（鈍麻）の症状である可能性が高い。二つ目は、それぞれの年齢の発達課題にうまく取り組めない状態から発する、あるいは親や地域的なサポートが得られていない状況を反映した心の問題である。目の前の課題に取り組むことができないためにイライラしているのである。

現在の被災地では、家庭の力が大きく失われ、子どもの精神面のサポートができない。親の経済的・精神的な問題、さらには先の生活の見通しを持ってない状態が子どものメンタルヘルスに大きく影響を与えている。被災地の学校関係者の多くは、家庭環境の悪化を背景とした子どもの問題に接することが多くなり、どこまでが震災の影響なのかといふかしがらる。こうした災害の余波はこれからますます増えてゆくであろう。

- ③多くの子どもたちはいまだに高ストレス状態にある。ストレスによる緊張は交感神経系の興奮をもたらすが、精神的なアンバランスや疲弊の原因になる。その結果は睡眠に反映しやすく、睡眠障害をきたす。睡眠が十分でなければ、不機嫌や集中力低下につながり、長時間の授業に耐えられなくなる。睡眠状態は常に把握しておきたい。
- ④保健室を利用する子どもが増えている。外科、内科の他、「ちょこっと利用」を含めて多くの子どもが保健室を利用するようになった。ちょっとした怪我も心の不安定さや注意集中力の低下が要因となっている可能性もある。その意味は、自分の話を聞いてほしい、自分では担いきれないほどの重い想いを察して欲しいという心理から「ちょこっと利用」が多くなっているのであろう。
- ⑤復興が進むことで、ダンプカーなどの工事車両の往来が多くなり、通学路や生活の場で地鳴りに似た揺れを感じる子どもが少なくない。緊張感、警戒感、不安が発生し、「3.11」の記憶が引き出される。大人はフラッシュバックという形で外傷記憶が引き出されるが、子どもは言語ではなくもっぱら感情のレベルで引き出される。
- ⑥災害後期はいつまで続くか？阪神淡路大震災の経験では、心の問題は三年目に多くなると指摘されたが、その理由の一つは震災直後に実に多くの子どもが心の外傷による症状としての解離症状（状態）を呈していたにもかかわらず、ほとんど気づかれることなく見過ごされていたが、この時に把握されなかった子どもが次第に目立つ症状を出すようになり、こうした子どもが目立ち始めたからと考えられる。もう一つの理由は、震災の影響によって多くの親や家族がダメージを受け、この家族機能の低下が子どもに影響し、心の問題を有する子どもが増えたためであろう。震災余波によっても増えているのである。子どもは復興のバロメータのような役割をしている。

災害後期は生活の足場が整うまでは続く。少なくとも仮設住宅を出る時期までは

続くのである。仮設住宅は子どもが家庭学習などの自己活動に取り組める場にはなれない。特に長期の休暇の時期は学校という場を何で補うか。

## 2. 孤児遺児の心の問題

### (1) H25年4月時点での小中学生の孤児・遺児

被災の激しかった6市町村について (H25/04/01)

	小学生	中学生	小計
孤児	16	21	37
遺児	137	92	229

A市：116名、B市：59名、C市：32名

現段階では、驚くほどの模範生（明るく、何事もがんばる健気な生徒として受け止められている生徒が少なくない。悲嘆のプロセスの過程にある可能性が高い。ひたすらがんばることで悲しすぎる現実から目を転じているかもしれない。こうした子どもが、学校でのちょっとした失敗に際に驚くほどの混乱をきたして大泣きなど示すことがある。彼らへの配慮が必要であることには変わりはない。

## II 心に問題を持つ場合、心の状態が良くない場合、心の問題は子どもの発達に様々な影響を及ぼす。

### 1. メンタリティーの発達上の困難や支障をきたす（自分の世界が広がらない）

- (1) 気を使う出来事や対象が多くなる。警戒状態や不安状態になるたびに精神的なエネルギーを使わざるを得なくなる。心がへとへとになってしまうのである。心の問題を持つ子どもは日常的にエネルギーを奪われることが多くなり、自分の発達のために使うべきエネルギーが不十分になる。
- (2) 子どもが成長発達をするためには、多くのエネルギーを必要とする。自分自身の発達上の葛藤、仲間との軋轢、競争などの処理対応のためには多くのエネルギーを要する。自分の外側に問題があると、例えば心配になるような親がいる場合、子どもは親を心配することに多くのエネルギーを使わざるを得ず、発達上の様々なテーマに取り組めなくなり、不活発、消極的、学業の低下などの問題を抱え込む。自分の展望を切り開くための課題に取り組めなくなってしまう。
- (3) 子どもたちの発達のためには、子どもは外の世界に脅威や不安を抱くのではなく、外の世界の出来事や与えられる課題に興味を持ち、それをより現実に即して自分の中に取り入れるメンタリティーが不可欠である。メンタリティーの不十分な子どもたちは目の前の現実や課題に対して不安や脅威を抱きやすくなり、その結果、回避的、逃避的な行動をとりやすくなる。あるいは思い込みに縛られてしまうであろう。

### 2. 思考や知的発達に支障をきたす

#### (1) 思考と注意集中能力に影響を与える。

思考にはあるレベルの注意力が必要になる。注意とは、関係ない刺激を無視して活動の焦点を絞り込むことである。授業であれば、適度の注意力があれば周囲の物音などの刺激を無視してでも（注意力により）与えられた課題に取り組むのである。

注意には二種類ある。一つは感覚が反射的に行うもの。ぱっと動くものを視線がとらえようとするのは、こちらの注意に属する。もう一つは精神 (mind) を意図的に対象に向けるものである。学びには注意集中が必要である。注意とはその時の活動に不要な刺激を排除する能力である。注意を妨げる要因の多くは不安定な精神状態から発生するものである。

例として、①不安/ ②迷い/ ③うつ/ ④不全感/ ⑤空虚感/ ⑥余分な強い刺激  
これらの問題は被災地の子どもにしばしば出現している問題である。

(2) 注意集中力は報酬系と呼ばれる脳の機能を反映する。報酬系に働きかけることにより注意集中力が高まる。注意欠陥多動性障害 (ADHD) の治療では薬剤の服用が必要であり、使用される薬剤は脳の報酬系回路を活性化し、その結果 ADHD の子どもは注意集中力が高まり、学習に参加できると考えられている。

(3) それでは薬剤以外の方法によって注意集中力を引き出すためには何が必要か？

①子どもにとっての報酬は？

ほめられること、褒美をもらうこと、評価をされること、などなどいっぱいある。大人になるにつれ、報酬の内容は変化してくる。給料に反映される、地位に反映される、社会的な評価に反映する。他者からの評価が得られないと、多くの人々の注意集中力は下がる。

②学習について

思考に対する報酬系は、・・・「既知感」と、それに関連する「馴染み感」は、ちょうど視覚が見ることに不可欠であり、嗅覚が匂うことに不可欠であるのと同じように、学習に不可欠な要素となる。(見たことがあるから見えるのである、嗅いだことがある臭いだから匂うのである。前に少しでも習ったことがあれば、既知感が刺激され、知っている！、面白いと報酬系が刺激される)

既知感は自尊心をくすぐることが多い。既知感は「わかった！」「知っている！」という自信を生む。新しい考えや独自の考えをすることへの報酬とはなんだろう。知ること自体の快感を指摘する人もいる。その場合、得ようとしている知識が本物の正しい知識であると前提しなければならない。「勉強したって何の意味があるんだ？」という疑問は、思考への報酬系のスイッチが切れたことを示す言葉にほかならない。

### Ⅲ 心の問題を抱えた子どもに対する今後の対応について

1. 子どもの心のケアの体制の点検が必要である

(1) 子どもの心の実態把握

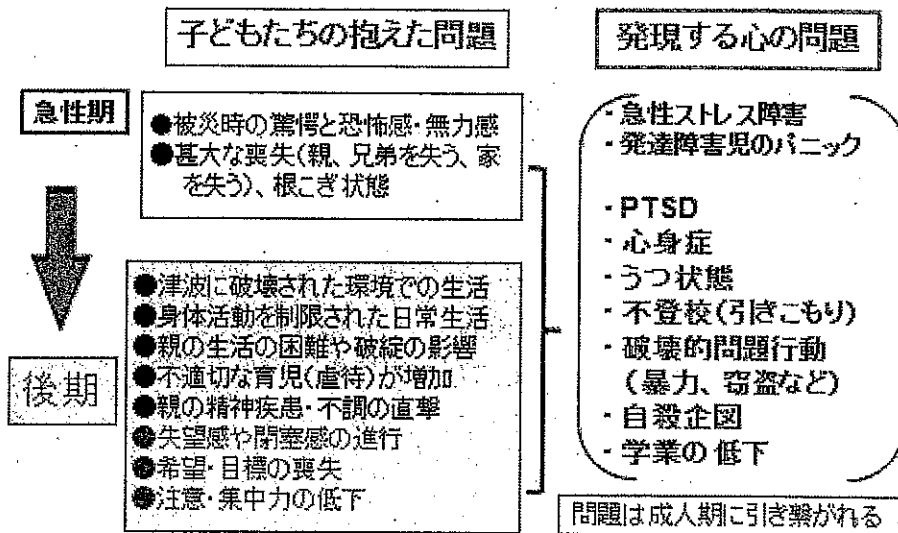
メンタルヘルスの状態の調査が急がれる。継続的に子どもの心の状態についてモニタリングをすべきである。また学力に影響を与える注意集中力について、どの程度影響を受けているか調査をすべきであろう。

2. 災害後期は学齢時については学校が心のケアの重要な場になる。今まで以上に学校のメンタルヘルスを高める取り組みが必要になる。

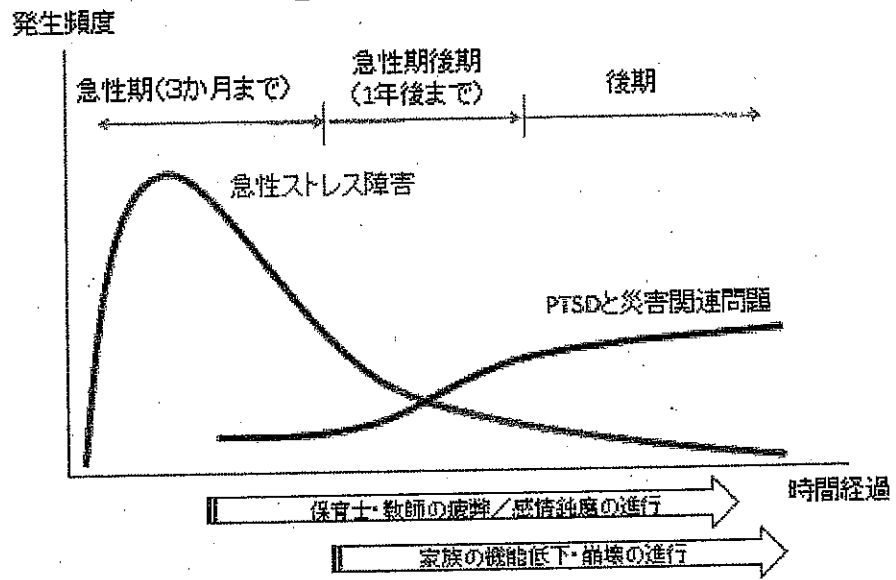
- (1) 学校保健の体制を点検。
- ① 学校保健がより必要となっている学校には体制の強化を。養護教諭の二人制を維持。
  - ② 災害のステージに合わせた知識や技術の習得のための研修
- (2) 神戸市が執った震災担は、学校業務からフリーになって子どもへの対応をして、その効果は大きかったと言われている。
- (3) 仮設住宅で長期の生活を強いられる子どものサポート、勉強や遊びの場作り。

参考資料)

### 震災後期にかけて発生する子どもの心の問題



# 心の問題の時間経過





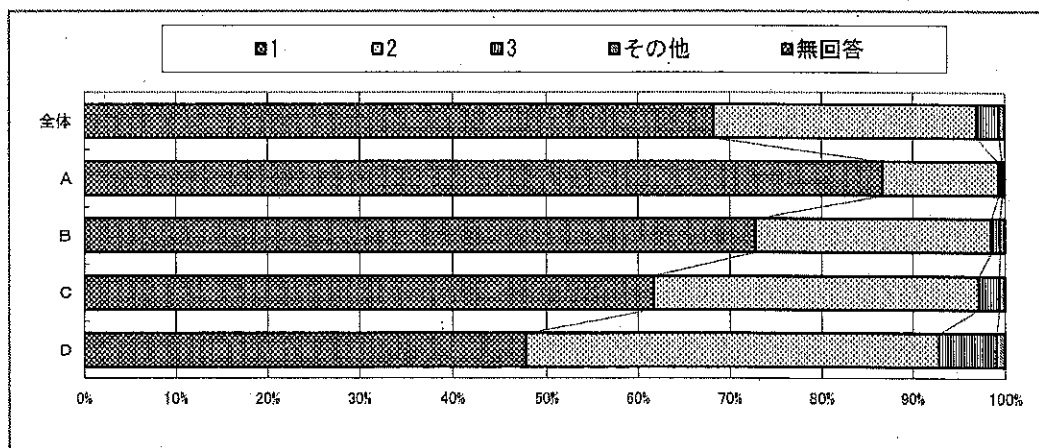
## 平成25年度全国学力・学習状況調査における 児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査結果と正答率のクロス集計の結果について

### 1 分析の方法

- (1) 児童生徒質問紙及び学校質問紙の回答結果と各教科における正答率をクロス集計している。
- (2) 正答率の区分については、正答率の高い順に、その人数を25%刻みで4つの層に分けている。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層とした。
- (3) 選択肢については、■1：当てはまる、▨2：どちらかという当てはまる、▩3：どちらかという当てはまらない、▧4：当てはまらないであるが、それ以外の選択肢の場合は改めて示している。
- (4) 下のグラフは、児童質問紙の質問67における集計結果の例である。最後まで解答を書こうと努力した児童の方が、国語Aの正答率が高い傾向が非常に顕著に見られる。このようなケースは「傾向が非常に顕著に見られる」とした。

質問67：今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか。

※児童生徒質問紙はⅠ～Ⅲの3種類あったが、質問紙Ⅰの番号を示している。



- 選択肢
- 1.最後まで解答を書こうと努力した
  - 2.途中であきらめたものがあった
  - 3.書く問題は全く解答しなかった

## 2 分析の結果

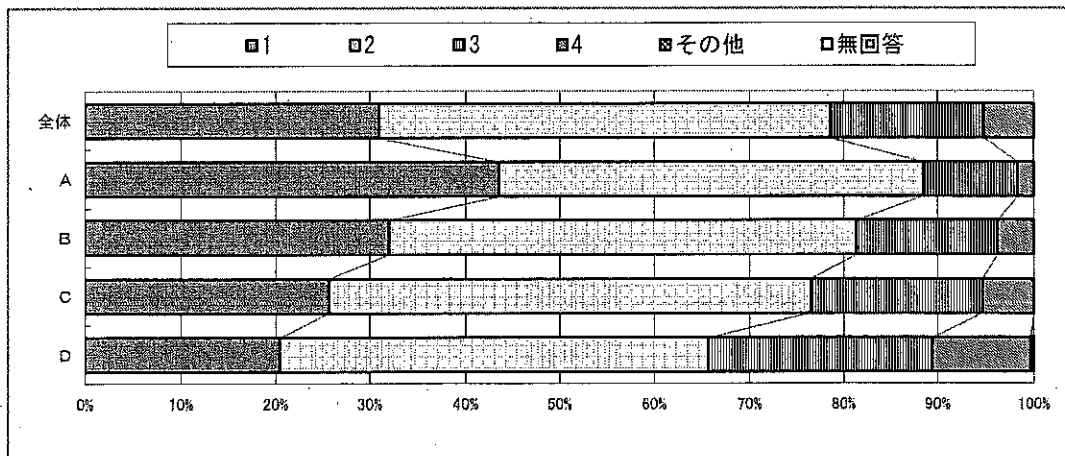
### (1) 児童生徒質問紙

#### ① 学習に対する関心・意欲・態度について

○ 国語、算数・数学のどの教科においても、授業の内容がよく分かる児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

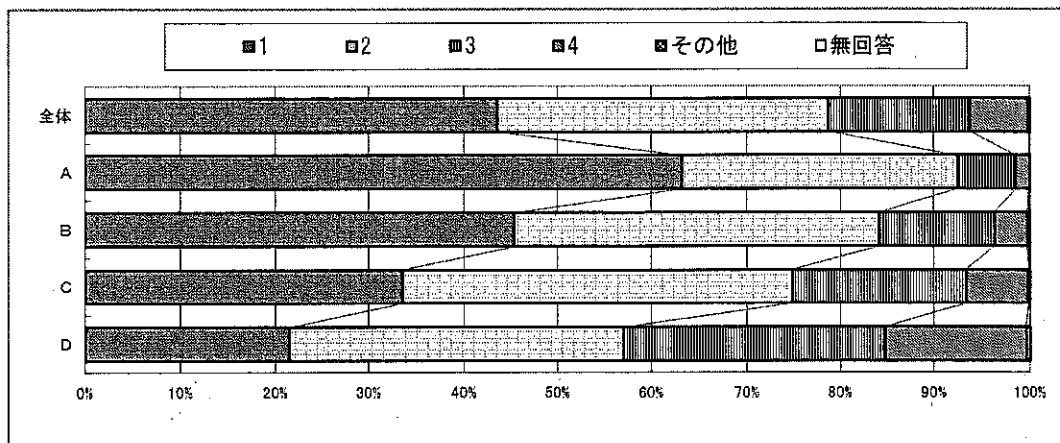
○国語の授業の内容がよく分かる児童生徒の方が、正答率が高い傾向が顕著に見られる。

(例) 「質問55：国語の授業の内容はよく分かりますか。」と小学校国語Aとのクロス集計結果



○算数・数学の授業の内容がよく分かる児童生徒の方が、正答率が高い傾向が非常に顕著に見られる。

(例) 「質問75：算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。」と小学校算数Aとのクロス集計結果

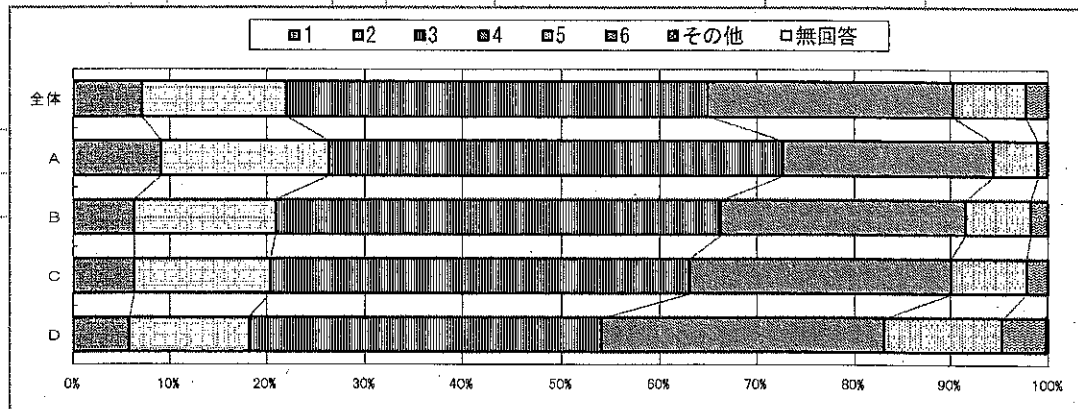


② 学習時間について

○ 国語、算数・数学のどの教科においても、平日の1日当たりの学習時間が長い児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

○ 平日の家庭学習時間が長い児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

(例)「質問15：学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)」と小学校算数Aとのクロス集計結果



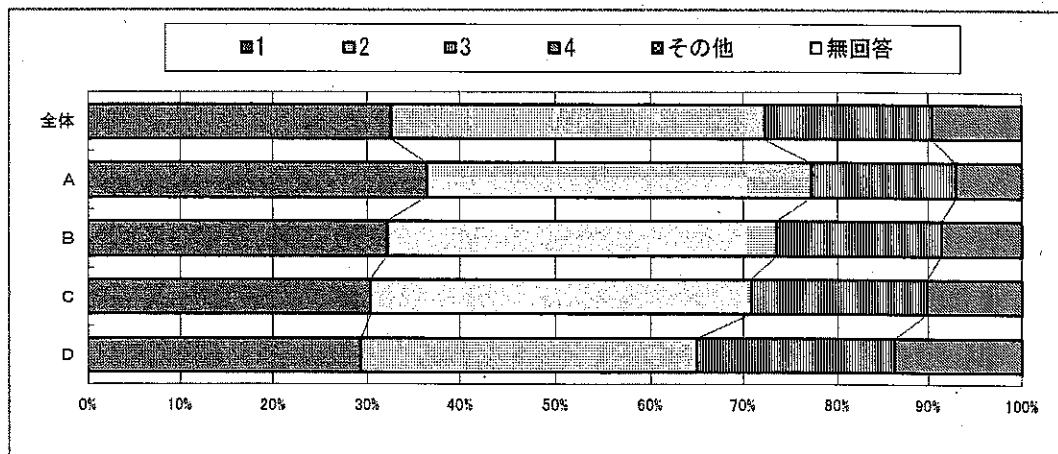
選択肢

- 1. 3時間以上
- 2. 2時間以上, 3時間より少ない
- 3. 1時間以上, 2時間より少ない
- 4. 30分以上, 1時間より少ない
- 5. 30分より少ない
- 6. 全くしない

③ 自尊意識・規範意識について

○ 国語、算数・数学のどの教科においても、自分には、よいところがあると思う児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

(例)「質問6：自分には、よいところがあると思う。」と小学校算数Aとのクロス集計結果

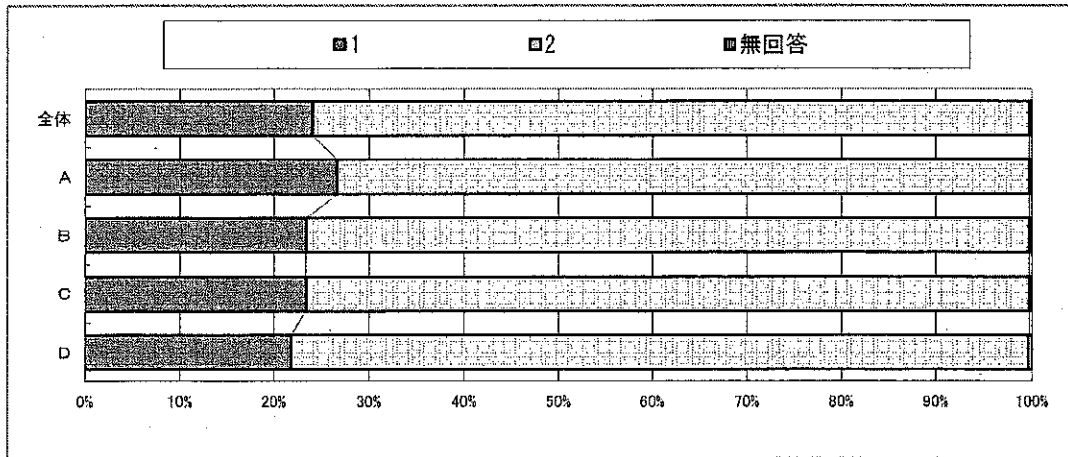


## (2) 学校質問紙

### ① 地域人材・施設の活用について

○ 国語，算数のどの教科においても，職場見学や職場体験活動を行っている児童の方が，正答率が高い傾向が見られる。

(例) 「質問90：職場見学や職場体験活動を行っていますか。」と小学校算数Aとのクロス集計結果



選択肢

1. している

2. していない

## 宮城県の学力向上への取組

H25.10.16

義務教育課

### 1 市町村教育委員会学力向上パワーアップ支援事業

- 本県の課題である学力向上に主体的かつ積極的に取り組む市町村教育委員会に対して支援を行い、その取組の一層の活性化と促進を図り、県と市町村とが連携して学力向上に取り組むことにより、児童生徒の学力向上を図る。
- 平成25年度 9市町が実施  
白石市、角田市、岩沼市、松島町、大崎市、大河原町、塩竈市、七ヶ宿町、栗原市

### 2 学力向上研究指定校事業 **新規**

- 地域や学校及び児童生徒の実態や課題を踏まえ、児童生徒に基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うために、教員の指導力向上のための実践研究を推進し、その成果の普及を図ることにより、児童生徒の学力の向上を図る。
- 平成25年度推進地区：9市町：9校  
白石市：白石第一小学校      丸森町：丸森中学校      塩竈市：塩竈第二小学校  
富谷町：東向陽台中学校      大崎市：古川第一小学校      栗原市：若柳中学校  
石巻市：須江小学校      登米市：佐沼小学校      気仙沼市：条南中学校

### 3 学力向上サポートプログラム事業

- 全国学力・学習状況調査の結果等を踏まえ、学力向上のための学校改善に取り組む小・中学校を県教育委員会の指導主事等が継続的、個別的に直接支援することにより、教員の教科指導力の向上と児童生徒の学力向上を図る。
- 支援校  
平成25年度 89校  
小学校63校（国語28，算数35）中学校26校（国語9，数学17）

### 4 調査結果を受けた研修会

- 小学校学習指導要領の算数科の趣旨の理解を深め、算数科の指導改善のための視点を明らかにし、各学校の教員の指導力向上と児童の確かな学力の向上に資する。
- 講師  
平成24年度 12月 文部科学省初等中等教育局 磯部 年晃 調査官  
2月 宮城教育大学 田端 輝彦 教授  
平成25年度 8月 山梨大学 中村 亨史 教授

### 5 検証改善委員会報告書「今日から活用できる指導改善のポイント」作成

- 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、「指導改善のポイント」「校内研修の活性化」「学習習慣の形成」「教育環境基盤の充実」の面から今後の改善の方向性をまとめ、各学校に配布した。

## 6 「みやぎ単元問題ライブラリー」作成

○ 学習内容の定着を図るために作成した小・中学校全学年の国語、算数・数学の単元ごとの問題集。

○活用状況（平成23年10月実施のアンケートより）

□調査対象 小学校307校 中学校148校（仙台市を除く）

□活用校数の前年度との比較

平成22年度 小学校 275校（88.1%） 中学校48校（32.4%）

平成23年度 小学校 251校（81.8%） 中学校82校（55.4%）

□学校におけるその他の活用方法

・単元や年度末のまとめとして活用 ・まとめて印刷しておき、必要なときに活用

・中学校が小学校の復習として活用 ・避難所での学習で活用（山元町立中浜小）

□活用していない学校の主な理由

・活用時間がとれない 小学校27校（8.8%） 中学校41校（27.7%）

・問題が児童生徒の実態に合わない 小学校3校（1.0%） 中学校16校（3.4%）

## 7 学び支援コーディネーター等配置事業（平成23年度中途～）（市町村委託）（別紙）

○ 被災地における児童生徒の放課後や週末、長期休業等の学習支援を行おうとする市町村教育委員会に、学習活動のコーディネート等に従事する人材を配置し、児童生徒の学習、交流を促進することを通じ、地域コミュニティの再生に資する。

○ 市町村が設置した学びの場で、県内及び県外の大学生等が学び支援員として児童生徒に寄り添い、一人一人の自学自習を支えていく。

(別紙)

学び支援コーディネーター等配置事業について

義務教育課

1 平成25年度委託市町村 : 24市町村 ( H24年度委託市町村 : 19市町村 )

- (1) 大河原教育事務所管内 : 9市町〔白石市, 角田市, 蔵王町, 七ヶ宿町, 柴田町  
川崎町, 大河原町, 村田町, 丸森町〕
- (2) 仙台教育事務所管内 : 5市町村〔塩竈市, 多賀城市, 松島町, 大和町, 大衡村〕
- (3) 北部教育事務所管内 : 5市町〔大崎市, 加美町, 色麻町, 涌谷町, 美里町〕
- (4) 北部教育事務所栗原地域事務所管内 : 1市〔栗原市〕
- (5) 東部教育事務所管内 : 2市〔石巻市, 東松島市〕
- (6) 東部教育事務所登米地域事務所管内 : 1市〔登米市〕
- (7) 南三陸教育事務所管内 : 1市〔気仙沼市〕

2 平成24年度の学習会等の開催回数・参加児童生徒数・支援員数

(1) 開催回数 : 3,815回

- ①塩竈市 964回 ②気仙沼市 537回 ③川崎町 527回 ④石巻市 470回  
⑤南三陸町 361回

(2) 参加児童生徒数 : 小学生 45,432人 中学生 24,258人 合計 69,690人

- ①塩竈市 17,130人 ②気仙沼市 9,043人 ③石巻市 8,055人 ④川崎町 5,195人  
⑤大河原町 4,384人

(3) 支援員数 : 県外大学生 1,251人 県内大学生 988人 大学生合計 2,239人

- 大学生以外合計 22人 (高専9人, 専門学校2人, 高校生11人)  
支援員合計 (延べ人数) 2,261人

3 平成24年度の学習会等の実施状況

(1) 長期休業中に学習会を実施した市町村

1) 夏季休業 16市町村

小学生 10,692人 中学生 8,165人 合計 18,857人

2) 冬季休業 14市町村

小学生 3,226人 中学生 1,928人 合計 5,154人

3) 学年末休業 2市

小学生 373人 中学生 266人 合計 639人

(2) 平日の放課後に実施した市町村 19市町村

小学生 30,177人 中学生 10,855人 合計 41,032人

(3) 土・日曜日に実施した市町村 4市町

小学生 745人 中学生 86人 合計 831人

(4) 常時実施した市町村 1町

小学生 219人 中学生 2,958人 合計 3,177人

4 平成24年度の大学生支援員の活用

(1) 延べ200人以上を活用した市町村

- ①南三陸町 686人 ②大河原町 229人 ③気仙沼市 219人 ④角田市 208人

(2) 延べ100人以上の協力があつた県内外の大学

- ①早稲田大 545人 ②仙台大 330人 ③宮教大 142人 ④青山学院大 142人  
⑤東北大 138人 ⑥東北学院大 121人 ⑦東北福祉大 110人 ⑧慶應大 105人

# 算数科における授業づくり ～ 授業改善の視点 ～

義務教育課

## 1 授業の進め方

### 第5学年算数科学習指導案

平成25年8月22日(木)

指導者 中村 享史

(山梨大学教職大学院)

#### 1. 題材名

きまりを見つけて 一図、表、式を使って考える一

#### 2. 本時の目標

- ・ 図や表から対応する数値の規則性を見つけ、様々な解決方法を考える。
- ・ 正方形の数と棒の本数との間にある関係を式で表したり、式を読んだりする中で関数的な見方を知る。

#### 3. 題材について

本題材は1時間の特設である。教科書では2時間で扱っているが、1時間に集約する。

本時の問題は正方形の形に並んでいる棒の本数を求めるものである。子どもは、かかっている正方形の図から棒の数を数えれば本数を簡単に求めることができる。しかし、正方形が増えても、棒の本数を求めることができるという式による解決することのよさを子どもに知らせたい。そこで、正方形の数が限定されているとき、正方形の数と棒の本数との関係を捉えさせたい。正方形に並んでいる棒のどこに目をつけることで、解決方法は様々な式になる。その式の意味や式で表現することのよさについて、比較検討の場で扱いたい。

本時の中心問題は、正方形が5個並んでいる時の棒の数を求めるものである。正方形が5個のときには、棒の数が16本になる。これは、子どもが実際に図をかいて数えれば簡単に本数を求めることができる。答えを出してから、求め方の工夫を考えるのである。算数は答えが出てから始まることを子どもに意識させたい。

そこで、正方形が5つの場合の式について、式を図に表したり、式の意味を言葉で説明したりする。そのことが、正方形の数が増えても棒の本数を求めることにつながるからである。式表現を丁寧に見直すことによって、数理的に処理することのよさに気づき、一般的な場合にも活用することができることを子どもに理解させたい。

棒の本数を求める式は、次のものが考えられる。

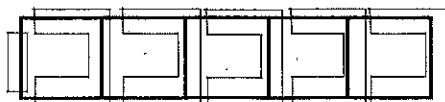
(ア)  $1 + 3 \times 5 = 16$

(イ)  $4 \times 5 - 4 = 16$

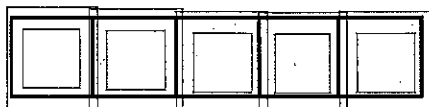
(ウ)  $5 \times 2 + 6 = 16$

これらの式は、5つの正方形を次のように見て考えていることが分かる。

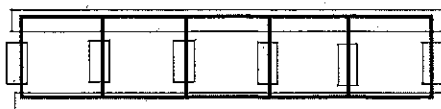
(ア) 3本をひとまとまりとして見て、始めの1本を加えた見方である。



(イ) 4本をひとまとまりとして見て、重なった部分を引いている見方である。



(ウ) 上下の5本をひとまとまりとして見て、真ん中の本数を加えた見方である。



根拠を明らかにし筋道を立てて体系的に考える。



図に表したり、言葉でその意味を言ったりすることで、解決の仕方を詳しく知ることができる。その活動が、正方形の個数を多くしても棒の本数を求めることができることに繋がる。

そこで、次への発展として、正方形の数が30個の場合を考える。これは、5個の場合と同様に次のような式で求めることができる。

- (ア)  $1 + 3 \times 30 = 91$
- (イ)  $4 \times 30 - 29 = 91$
- (ウ)  $30 \times 2 + 31 = 91$

本時は、式に表すよさに気づかせたいので、式は分解式ではなく、総合式でかくようにさせたい。

本時では、子どもがお互いのアイデアを交流することで、新たな考えをつくり出したり、自分の考えを見直したりすることを大事にしたい。また、誤答が出てきたら、それを丁寧に扱って、そこで用いているアイデアを明らかにする。相互の話し合いによって、誤答を正答にする手立てを明らかにする。これらの話し合いをすることが、お互いの考えを学び合い、伝え合うことになる。それが、算数を学習することの価値であり、数理的に考えるよさであることを味わわせることになる。

#### 4. 本時の展開

主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点
<p>1. 問題の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正方形に並べた棒の図の構造を知る。</li> <li>・正方形が1個、2個と横にどんどん増えていくことに気づく。</li> <li>・正方形がたくさん並んでいる時の、棒の本数の求め方を考えようとする。その際、正方形が30個の棒の本数を求めることを最終的なねらいとする。</li> <li>・正方形の個数が簡単な場合について考えることで、正方形が増えなくても求められることに気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題の提示は袋などから正方形の形に並んだ棒を出していく。</li> <li>・正方形が増えることで、棒の本数も増えることに気づかせ、そこにきまりがあることを意識させる。</li> <li>・正方形の個数が増えた時の棒の本数を求める際、正方形がいくつぐらいならば、求められそうかを意識させる。</li> <li>・簡単な場合の本数を式で表し、正方形が多くなっても求められることに気づかせる。図や式に表すことを意識させる。</li> </ul>
<p>正方形が5個の時、棒の本数は全部で何本ですか。式や図、言葉で表しましょう。</p>	
<p>2. 根拠を問う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正方形が5個の時、棒の数が全部で16本になることが分かる。</li> <li>・正方形が5個の場合について、解決の仕方を図や式で表す。</li> <li>・一つの方法ができた場合は、他の式で求めることができないか考える。</li> <li>・自分の解決の仕方の根拠が何かを明らかにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを様々な表現方法で表す。</li> <li>・正方形が5個の時、誤答として<math>4 \times 5 = 20</math>と解決する子どもが出てくる。この考えは、解決に大事なアイデアを含んでいるので、授業の表面に登場させる。</li> <li>・解決が難しい子には、正方形が5個並んでいる様子を図にかかせて、棒を数えたり、いくつかのかたまりで囲ませたりする。その状況を式に表すようにさせる。</li> </ul>
<p>3. 解決の多様性・共通性を問う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・求め方を式に表す。</li> <li>(ア) <math>1 + 3 \times 5 = 16</math></li> <li>(イ) <math>4 \times 5 - 4 = 16</math></li> <li>(ウ) <math>5 \times 2 + 6 = 16</math></li> <li>(エ) <math>4 + 3 \times 4 = 16</math></li> <li>・式を図などに表して、表している数字の意味は何かを知る。</li> <li>・式を図に表したり、言葉で説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正方形が5個の時を見直して、式に表したり、図で表したりする。そこから、正方形の数を変化させても、関数的な見方を用いて解決の方法を探る。</li> <li>・(ア)(イ)(ウ)の解決は、式を読み取ると同時に図で表現させる。また、総合式で表現するようにさせる。</li> <li>・お互いの式がどのような意味を表しているかを意見交換させる。意見交換の際、</li> </ul>

問題（課題の明確化）

ノート指導

根拠を明らかにし筋道を立てて体系的に考える。

自分の考えを言葉、数、式、図などを用いて記述する。

ノート指導

言葉や数、式、図、表、グラフなどの相互の関連を理解し、それらを適切に用いて問題を解決する。

自分の考えを分かりやすく説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合う。

多様な表現の行き来

他者の解決を解釈する。

したりする。

- ・式に表されている数で、正方形の数が増えたとき、変化するものと変化しないものがあることに気づく。
- ・自分が考えつかなかったアイデアのよさを知り、そのアイデアを次の解決に生かそうとする。
- ・誤答は、そこで用いている考えを尊重して、正答にするための手立てを考える。
- ・互いの解決方法で似ている点を知る。

図から式、式から図、言葉などと表現方法を変える。

- ・式で表すことで、簡潔に数量の関係を表すことができることに気づかせる。
- ・疑問点や分からないことは質問できる雰囲気を作る。
- ・20本という誤答が出てきた場合、図などに表して重なるの部分に気づかせる。重なっている4本を引けば、求められることを話し合いから知らせる。

自力の考えと友達のことを比較検討し、自分の意見を加えて記述する。

ノート指導

同じことを違う表現方法で表す。

#### 4. 一般性を問う

正方形が30個の時、棒の本数は全部で何本ですか。式で表しましょう。

- ・式を使って解決する。
- (ア)  $1 + 3 \times 30 = 91$
- (イ)  $4 \times 30 - 29 = 91$
- (ウ)  $30 \times 2 + 31 = 91$
- (エ)  $4 + 3 \times 29 = 91$
- ・どの式でも正方形の個数が増えても棒の本数を求めることができることが分かる。
- ・5個のときと式に比べて、どの数がどのように変わったかを知る。
- ・授業をふり返って学習感想を書き、本時のまとめをする。

- ・誤答として96本という解答がある。これは、正方形の個数が6倍になったから、本数も6倍になると考えて  $16 \times 6$  とするこの考えが出たときは数量の変化の仕方に着手させる。
- ・残り時間が少なくなったときは、式表現だけをさせて、答えは各自が求めるようにさせる。
- ・学習感想は、子どもの数学的な考え方の自己評価を行うためである。子どもの記述の中に、授業の何に興味関心を持ったかを知ることもできる。

自力解決ができていない子供に他者の考えを参考にさせることで分からせる。

いつでも使えるか検討する。

よりよい表現に高める。

学習感想を継続的に記述し、自己評価に用いる。

ノート指導

#### 5. 本時の評価

- ・正方形が5個の時、棒の本数を求めることができたかを授業での子どもの解決の仕方から知る。
- ・式を読んだり、表したりする活動を通して、式の表すよさに気づいたかを学習感想の記述から読み取る。

「学習感想」の役割  
 <子どもにとって>  
 自己の考えをふり返る(自己評価)  
 自分と他者の考えの異同を知る  
 <教師にとって>  
 授業理解の様相  
 思考力の評価

「学習感想」の段階  
 第一段階：授業についての具体的な記述はなく、自分の気持ちを書く。  
 第二段階：授業の内容について書く。  
 第三段階：自分の考えだけでなく、他人の考えについてどのように思ったかを書く。  
 第四段階：自分の考えを見直す。

### ノート記述の内容(Myノート)

- 問題(課題)を明確に書く。
- 自分の考えを言葉、数、式、図などを用いて記述する。
- 他者の考えを解釈し、自分の意見を加えて、記述する。
- 学習感想を継続的に記述し、自己評価に用いる。

### 書く活動の意味

- 自己との対話  
自分の考えを客観化して、考えを見直し、深めること(自己評価)
- 他者の意識  
他者を意識しながら、伝えやすい表現を用いること(内なる他者)

第86回 のびる

問題  
AとBの2本のゴムがあります。  
どちらがのびるといえるでしょうか。

	のびる前の長さ	のびた後の長さ
A	12cm	15cm
B	5cm	7cm

自分の考え  
\*すくくから1は木、分数に直します。  
A=15に12よりB=7に5よりもこれではくらべられないので、分母をそろえます。  
A=15に12よりB=7に5よりも、Aのゴムのほうがのびると言えます。  
文ののびた後の長さからのびる前の長さをわかると、これだけののびたかが出るので、出し、A=15-12で3cmののびた、B=7-5で2cmののびたということになるので、Aのゴムのほうがのびると言えます。

友だちの考え  
A君の15-12=3 (Aののびた長さ) 7-5=2 Bののびた長さ  
B君) 分数で出す  
A君 3と2をどういう意味?どこから?  
|| 11をどうして通分?  
B君 等 のびた後の変わる15か7か?  
B君) 同じ長さで測る。12と5の公倍数60  
A 60 ÷ 12 = 5 B 60 ÷ 5 = 12  
もとの長さより元の理由は?  
C君) のびる率を比べる

田川) 単位をそろえてあげよう  
C君) 1と16ものをそろえる  
D君) 長さを分けておいてそろえる  
もとの長さを同じにして、のびるものか……  
松井) A 12 ÷ 15 = 0.8 のびた後の2倍  
B 5 ÷ 7 = 0.714 …… 11 0.7倍  
藤井) 12 ÷ 5 = 2.4  
AとBの何倍か  
15 ÷ 7 = 2.14 …… のびた後のAはBの何倍か?  
A < B  
A君) のびる前の長さが違うからそろえる  
A 小島) 同じ重さをつるす 15と7の公倍数105  
A 105 ÷ 12 = 8.75  
B 105 ÷ 5 = 21  
鉄木ののびた後を1とするのびた前は  
A 12 ÷ 15 = 4/5 = 0.8  
B 5 ÷ 7 = 5/7 = 0.7

学習感想  
私は2つの方法でやってみたらAののびた率とBののびた率と1つだけかなり1つだけ、びっくりした。  
私が考えたかな、たぶん考えを持っている人がたくさんいるので、びっくりしました。みんな、1人ずつの考えをみんなの前で発表もAとBにかなり1つだけと異なりました。私の考え方は、1つは正しい、2つは鉄木君と同じでした。

III 板書の工夫  
板書の内容を意図的に配置する。

# 3年 10000より大きな数

② 10倍した数と10でわった数

1 1本20円のあめを10本買うと、  
代金はいくらになりますか。

2 20を10倍した数はいくつになるか考えよう。



$20 \xrightarrow{10倍} 200$

- ・導入は数の構成から
- ・子どもに図をかかせる
- ・かけ算の意味の確認
- ・図→計算→位取り
- ・ $20 \times 10$ から $25 \times 10$ へ

10/5  
10本のあめ  
の代金50円  
10( ) 5+5  
10( ) 25+25  
12-2

感想

1本20円のあめを10本買うと  
代金はいくらになりますか。

10倍

十	一	一
	2	0
2	0	0

25×10

十	一	一
	2	5
2	5	0

20×10=200  
2005→100  
2→20

20×10=200  
2005→100  
502→10

## 授業を通した人間形成

- じっくり考え続ける自制  
(分かるようになりたいと努力する)
- 自分の考えを表出する勇気
- 間違いを認め、ふり返る知的正直さ
- 他者から自己を知る省察

23

## 教師の役割

- 教材研究の充実
- 問いの明確化, 具体化
- 計画性のある板書
- 子どもの考えの背景を探る
- 子どもの考えの価値づけと評価

22

※この資料は、平成25年8月22日に、県内小学校の研究主任等を対象に県庁で行った研修をもとにまとめたものです。

「学力向上に向けた学校の取組」

学校名	
校長名	
1 学校課題	
2 学校課題の改善に向けた取組	

3 現状と目標

ア 授業の内容 が分かる児童 生徒の割合	教 科	現 状	目 標
①	国 語	%	%
②	算数・数学	%	%

イ 家庭学習の 時間		現 状	目 標
① 平日	(小学校第6学年:1時間以上, 中学校第3学年:2時間以上)	%	%
② 休日	(小学校第6学年:2時間以上, 中学校第3学年:3時間以上)	%	%

## 1 目的

各学校が、平成25年度全国学力・学習状況調査結果の分析から学校課題を明確にし、課題の改善に向けた取組を重点化することによって、学校全体として児童生徒の学力向上につなげることを目的とする。

## 2 記入の仕方

## (1) 「1 学校課題」について

全国学力・学習状況調査の結果を分析し、明らかになった学校の課題をお書きください。

## (2) 「2 学校課題の改善に向けた取組」について

課題を踏まえ、改善に向けた取組を具体的にお書きください。

## (3) 「3 現状と目標」について

現状は今回調査を受けた小学校6年生または中学校3年生の数値、目標は平成25年度末に達成すべき数値を記入してください（検証は、次年度の全国学力・学習状況調査結果となります）。

## 「ア 授業の内容が分かる児童生徒の割合」について

## 「① 国語の現状」について

児童生徒質問紙の「国語の授業の内容はよく分かりますか」という問いに、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた割合を記入してください。

<参照>児童生徒質問紙とその番号

	質問紙Ⅰ	質問紙Ⅱ	質問紙Ⅲ
小学校	(55)	(54)	(64)
中学校	(55)	(54)	(65)

## 「② 算数・数学の現状」について

児童生徒質問紙の「算数の授業の内容はよく分かりますか」または「数学の授業の内容はよく分かりますか」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた割合を記入してください。

<参照>児童生徒質問紙とその番号

	質問紙Ⅰ	質問紙Ⅱ	質問紙Ⅲ
小学校	(75)	(64)	(74)
中学校	(75)	(64)	(75)

## 「イ 家庭学習の時間」について

## 「① 平日の現状」について

児童生徒質問紙の「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。）」という問いに、小学6年生は「1時間以上」、中学3年生は「2時間以上」と答えた割合を記入してください。

<参照>児童生徒質問紙とその番号（小学校・中学校ともに同じです。）

	質問紙Ⅰ	質問紙Ⅱ	質問紙Ⅲ
小・中学校	(15)	(13)	(23)

## 「② 休日の現状」について

児童生徒質問紙の「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。）」という問いに、小学6年生は「2時間以上」、中学3年生は「3時間以上」と答えた割合を記入してください。

<参照>児童生徒質問紙とその番号（小学校・中学校ともに同じです。）

	質問紙Ⅰ	質問紙Ⅱ	質問紙Ⅲ
小・中学校	(16)	(14)	(24)

\* 「現状と目標」の項目については、「教科に関する調査」における各教科の正答率が、授業理解度及び家庭学習の時間と相関していることに着目し、改善状況を知るための指標として設定しました。

四月に実施された全国一斉の学力調査や教育三法の改正、教育再生会議の第二次報告等、矢継ぎ早に、教育の改革が実現されつつある。こうした中において、教育の当事者として児童生徒の教育に直接かかわっている者は、いたずらに振り回されまいという覚悟を新たにすべきであろう。

改革のうねりの中で、教育課題と新しい教育の在り方を見据えつつ、学校経営や指導の改善を図ることは大切なことである。しかし、過剰に反応したり表層的に状況を把握して拙速に対応することは避けるべきであろう。



1949年宮城県生まれ。公立立中学校教育指導主事、文部省教科調査官及び海外子女教育専門官等を経て、現職。専門は国語科教育。編著書に、『新中学校国語科経営講座6巻』『生活科・総合的な学習評価ハンドブック』など。

## 「教育実践者」としての「誇り」と「責任」を

宮城教育大学教授

相澤秀夫

国が実施した「学力調査」についても同様である。この調査が、「学力コンクール」とは異なり、学校教育の質の向上を図ることを目的にしていることは理解できる。しかしながら、結果の公表となると、その数値や平均点等が単純に比較され、学校の優劣が論じられることも容易に想像できる。

こうした時に求められるのは、冷静に受けとめることであろう。学力調査とは言え、そこで把握される学力は、限定的なものであること。数値は意味づけられて初めて価値をもつことや教師も問題を解いてみることで、設問そのものに内在する問題や課題も検証でき、また指導の問題も明らかになること。さらには、学力調査の結果と日頃の評価とを重ねてみることで、数値の背後に見える児童生徒や学校、個々の教師の問題や課題を察知できることなどである。

こうした改革の最中において、教師は改めて、「教育実践」の仕事の重さと「教育実践者」として誇りを再確認することが求められる。我が国には、「教育実践」と言い「授業実践」と称して、教育における「実践」という言葉をことさらに大切にしてきた歴史がある。

「教育実践」並びに「教育実践者」に問われるのは、次の五点である。

(一) 児童生徒に確かな力(生きる力から教科学力まで)を付けること。

(二) ささやかな手だてや工夫、まめやかな営みを大切にする。

(三) 時々立ち止まって、実践してきたことや理解していることを確かめること。

(四) 常に二つの眼差しを大切に、問い続けていくこと。その一つは、「〇〇とは何か」という眼差し(問い掛け)であり、もう一つは、「〇〇とは、どのようにすることか」という眼差しである。

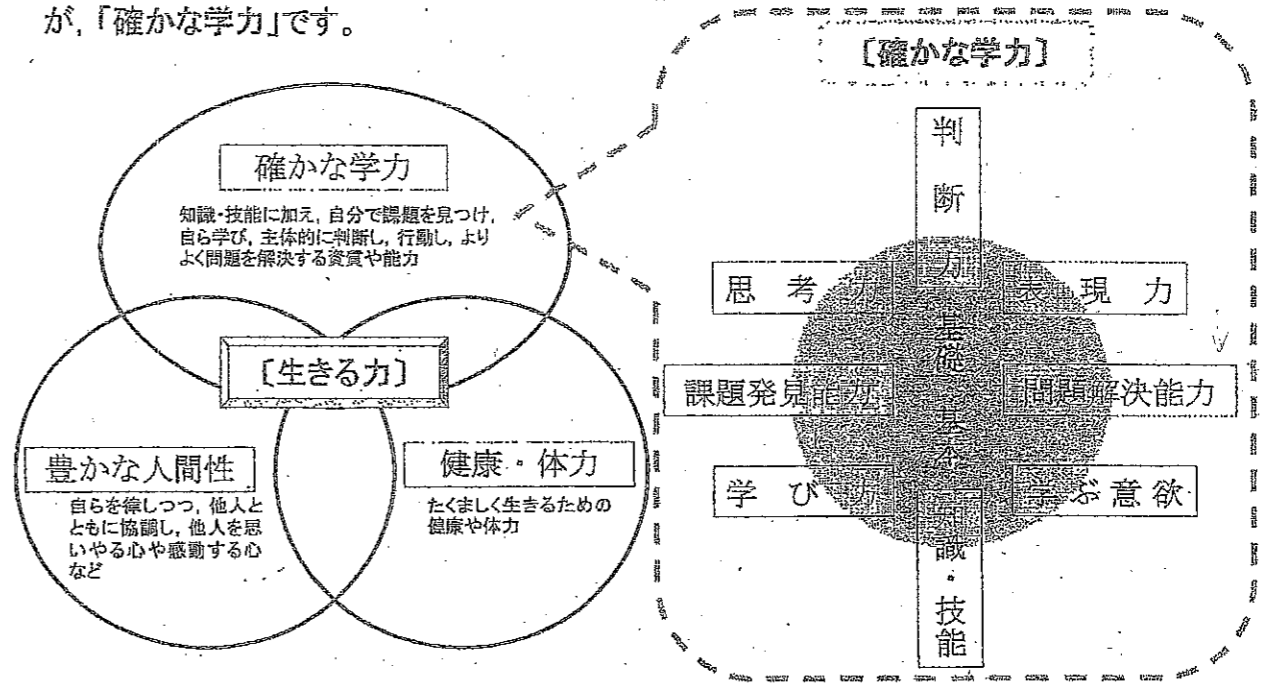
(五) 教育実践を支えるのは、教育という営みにかける学校や個々の教師の思いとそれを支える教育技術や教育環境にあること。

我が国の教育実践は、世界に冠たるものがある。それは先人が築いてきたものであり、我々が継承しつつあるものである。教育改革の渦に巻き込まれないためにも、今こそ教育実践者としての誇りと責任とを再確認したいものである。

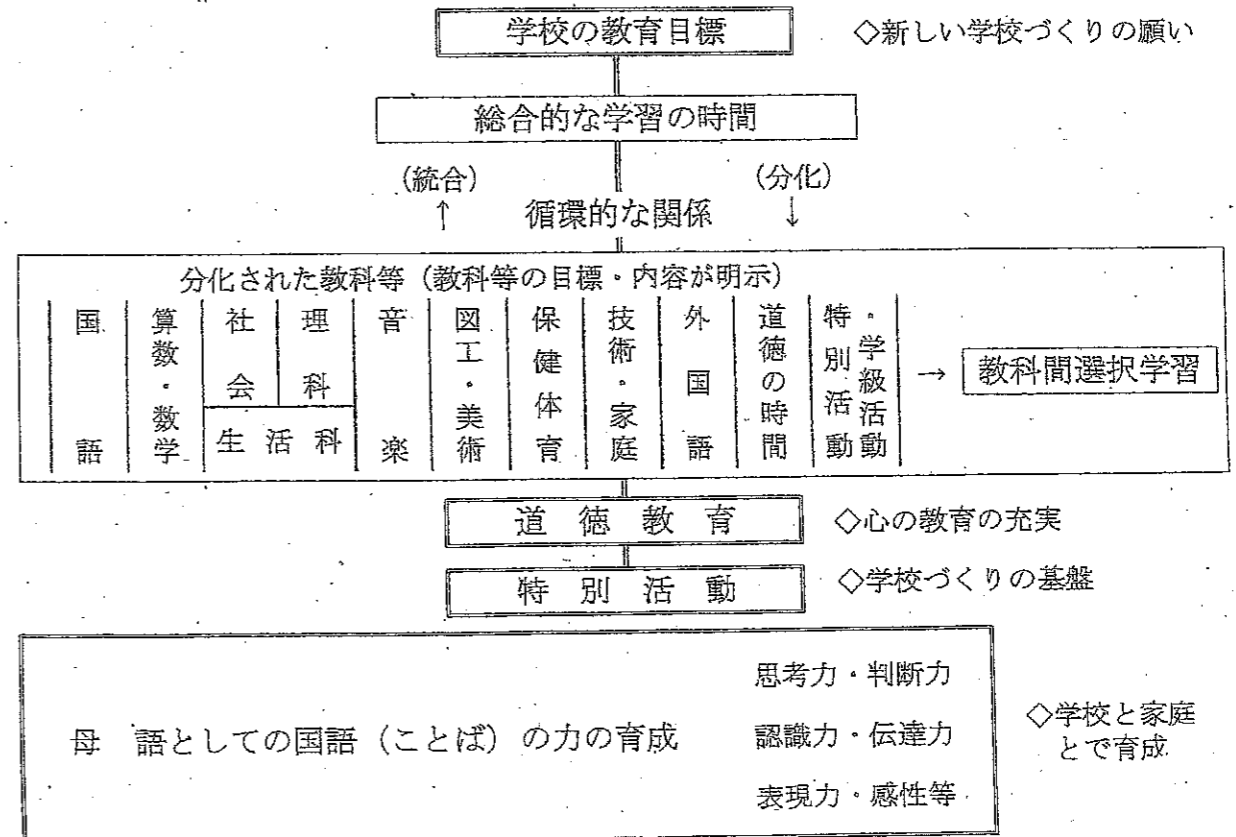
## 初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について(答申)

2003年10月7日  
中央教育審議会

学校では、完全学校週5日制の下、子どもたちに基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせ、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」をはぐくみます。この「生きる力」を「知」の側面から見たものが、「確かな学力」です。



## 教育課程における「総合的な学習の時間」の位置づけ(相澤案)





# 書くことの意義

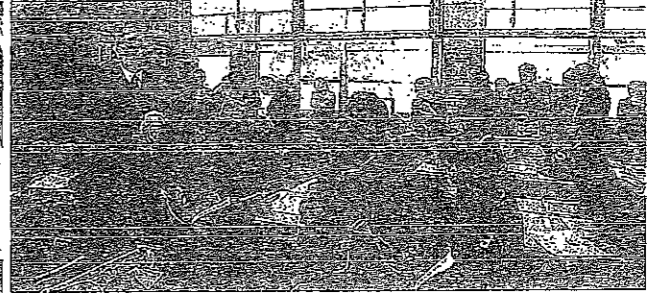
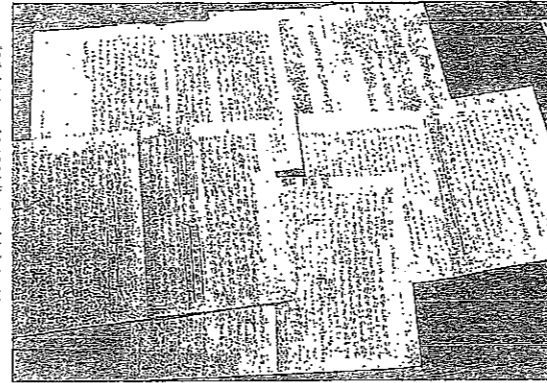
- ① 立ち止まって、自分と向き合うこと。
  - ② 自分を確かめること。
  - ③ 優れて考えること。
  - ④ 感性を豊かにする。
  - ⑤ 一過性の体験を一生の財産にして、経験に高める力がある。
- (国語、算数・数学、道徳はノート作りの徹底を！)
- ⑥ 自分の存在を他に示すことである。



# 道徳 子に問い大人も学ぶ

尾道・御調西小、特別講師招く

児童たちが授業中に使ったノート。文章がびっしり書かれている



児童たちがノートに書く文章を写して、回る相沢教授(左)。教師や地域の人たちも見守った尾道市御調町丸門田



尾道市立御調西小(同市御調町丸門田)が3月中旬、5、6年生を対象に特別講師を招いて道徳授業を実施した。記者も授業を参観、地域の人たちと一緒に「道徳」について学んだ。

5、6年生約40人を対象に公開授業があった。講師は、国語科教育が専門の宮城教育大学院の相沢秀夫教授(64)。吉原順子校長(60)も3月末付で定年退職し、や父母、学校を支援する地域教育支援推進委員会のメンバーら約40人が見守った。

## 書くー自分と向き合う

- 冒頭、相沢教授はまず点呼をとった。子どもたちの返事の声をはめる。授業に集中させ、子どもたちの性格をつかみ取るためだ。教材は6年生の教科書に
- 図「書くことの意義」
- ①立ち止まって自分と向き合うこと
  - ②自分を確かめること
  - ③より深く考えること
  - ④感性を豊かにすること
  - ⑤一過性の体験を一生の財産にして、経験に高めること
  - ⑥自分の存在を他に示すこと。ノートの言葉は子どもの分身

相沢教授とは以前、このコーナーの取材で出会い、久しぶりの再会だった。「教授、どうして道徳なの？」と問うと、「明確な答えが返ってきた。「道徳は一人一人を生かす全教科の授業の原形。そして子どもに問いながら教師も自らを振り返る大切な時間です」公開授業の前日、教職員と地域教育支援推進委員会

のメンバーら約20人が相沢教授を囲んだ。相沢教授は「子どもたちは親や祖父母から大切なことはすでに学んでいる。安易なまごめ、説教は通用しない。頭でわかっていても大人もできていないことを考えるのが道徳です」と話した。

子どもは想像力を信じ、自らと向き合わせるための問いを添えることが教師の

「授業は、できる子を高め、つまづいている子を引き上げる。学びは変わることで、大人も自らに言い聞かせたい」(甲斐優作)

ある、渡り鳥を題材にした「風切るつばき」。1、弱いやカララにえさを分けてあげるクルル。ある時、きつねに仲間が襲われ命を落とす、クルルのせいでとほかの鳥たちから責められる。クルルは心を閉ざしていき、それに対しカララは何もできない。

相沢教授は、大切な部分の文章を子どもたちに何度も読ませて聞いた。「カララはどんなことを考えていたんだろう。ノートに5行から8行で書いて」

子どもたちが書き始める時、教授はノートの書き込み、「カララの本音」に迫る文章を見つけては、「わかるねえ。いいこと書いてるね」といいながら、メモをしていく。一大人でも書けない文章ですよ」と、父母らにもノートを見回るように促した。

この時、相沢教授は子どもの発表順を考えていたという。日頃の発表しない子どもから当てていった。

そして、二つめの質問。弱ったクルルは群れから取り残され死を覚悟する。1羽だけ戻ってきて何も言わずに寄り添うカララ。

「カララが伝えたかったことは？」と相沢教授。カララになりきった言葉が子どもたちから相次いで、「二度と後悔はしたくないから」「最後ぐらいい一緒だ。死ぬ気だ」「深さ……」。相沢教授は「深い考えだね」とその都度、その言葉を肯定した。

授業時間は45分。父母の中には涙ぐんで子どもの意見を聞く姿もあった。どの子どもも、ノートに書いた文章は、4、5分に及んでいた。「よく考えてくれたね。先生は感動しました」と相沢教授は授業を締めくくった。最後に吉原校長は涙に言葉を詰まらせながら「みんなの学び姿が先生の宝物。いいプレゼントをいただきました」とあいさつ。

授業を受けた坂本菜美さん(12)は「色んな意見を聞くことができた。みんなすごい」。地域の河内公民館長の古田栄さん(61)は「仲間の助け合いの大切さをひしひしと感じた。一緒に学ばせてもらった」と話した。

### 書くことと「やさしさ」

沙見 聡幸

母の日

わたしのおかあさんのなまえは  
やえ子  
としはきよねとおんなじ

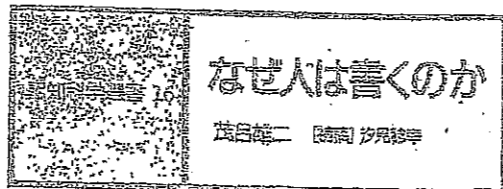
目をみると  
おかあさんの顔が見える。  
おかあさんは  
もうとしをとりました。  
おかあさんは  
ちえ子が小さいときやさしかった。  
先生がくれた赤いカーネーション  
おかあさんのおほかにあげた。  
おほかの石がつめたかった。  
カーネーションが雨にぬれた。  
あまちゃんかきだまって  
かさをさしかけてくれた。

やのつくことば

やえ子  
やえ  
やさしい  
やのつくことばのなかで  
ちえ子が一ばんにかいたのはやえ子  
やえ子  
やさしかったな  
ちえ子はやのじが大すき  
お母さんは  
ちえ子にやさしかったな

### なぜ人は書くのか

茂呂 雄二 監修 沙見 聡幸



# 学力向上と

## 評価の基礎・基本

～学習指導と評価の問い直しを～



宮城教育大学教職大学院  
教授 相澤 秀夫

繰り返し理解し周知徹底するとともに、学校として、その具現化のためにどのような方策を講じていくかを考える必要がある。

### 2. 問われるのは 授業づくりの基礎・基本

学力の確実な定着を図るためには、校長を先頭に、改めて学習指導と評価の基礎・基本を確かめることが求められる。校長のリーダーシップのもとに学校全体として指導力の向上のための要件を明らかにし、授業実践力を各教師が身につけつつ授業改善を行っていく必要がある。学力向上で問われるのは個々の教師の授業づくりの基礎・基本だからである。

授業は、教師の様々な働きかけ(教授活動)と、それらによって展開する子どもの反応(学習活動)によって展開される。そうした教師の働きかけや学習活動の一つ一つを、この機会に点検・吟味する必要がある。

日々の授業の中で、「自明のこと」として問わなくなっている教師の働きかけや児童生徒の学習活動、学習形態などが「形だけのもの」になっていないか、魅力的かつ学習意欲を喚起・持続させうる発問や課題が用意されているか、「主体的な学び」と称して教師の指導性が弱くなっていないかなどを学校全体で再確認することが求められる。学力の確実な定着は学校経営・学校運営の第一の目標であり、実践課題である。各教師の責務でもある。

各教科等の存在意義や指導の目的・方向、児童生徒に身につけさせるべき資質・能力は何か、教材や題材を見極めつつ魅力的な発問

や課題を見いだす教材研究の力、教材研究をもとに授業構想(指導過程に発問や課題、指示等を適切に配置すること)できる力、個々の児童生徒の学びを的確に評価し価値づけるとともに、意図的に引き出して発表させ、どの児童生徒にも学びの実感や自尊感情などをもたせることのできる適切な机間指導などの力である。以下、学校全体で再認識すべき授業づくりの基礎・基本の主な観点を示す。

#### (1) 授業づくりの原理

- ・「授業」とは何か。授業における教師の本来の役割は何か。
- ・各教科等の存在意義は何か。各教科でどんな力をつけるのか。
- ・授業における評価とは何か。学習評価と評定は、どこが、どのように異なるのか。

#### (2) 授業技術の習得

- ・学習集団を鍛えているか。学級は学習集団として機能する。学習環境としての学級づくりの方法や手段は、学校全体として共有したいものである。特に互いの言葉をしっかりと受けとめ合い、それらをもとに考えや見方を広げ深めることのできる学級を4月から育てる必要がある。
- ・学習指導や評価に机間指導をどのように生かしているか。机間指導は個々の児童生徒の学びを支えるとともに学習評価の絶好の機会である。学校として机間指導のやり方について、どのようなことを共通のこととして実施しているか。
- ・教科の特質や特性に応じた板書やノート指導をどのように工夫しているか。
- ・ペア学習やグループ学習の目的や意図についてどのように共通理解を図っているか。

### 3. 学習指導と 評価における配慮事項

言うまでもないことであるが、学力向上に資する学習指導と評価を行う際には、いくつかの配慮すべきことがある。

その一つは、「各教科等の目標」を的確に理解することである。育成すべき資質・能力が示された目標の文言に即しつつ、構造的にとらえることが必要である。例えば、国語科の目標に示されている「伝え合う力」とは言葉でわかり合える力であることなどである。育成すべき資質・能力を端的かつ構造的に示した各教科等の目標は、見方を変えれば、評価の規準でもあるからである。

その二は、学習指導も評価も一義的に「個々の児童生徒の力(可能性)を引き出し、伸ばす」ためになされることを銘記することが大切である。これらの認識が希薄であると、「活動あって学びなし」の授業や「評価のための評価」になってしまう。

その三は、学習指導も評価も簡素であることが肝要だということである。簡素であることが学びの豊かさを生み出す土壌となる。

その四は、学習評価の三つの本質を踏まえることである。学習評価は、個々の学びを的確に把握するとともに後の指導に生かすことが眼目である。また、学習者を励まし、支え、伸ばすことが大切である。さらには、最終的に評価する者が評価されるということである。

「指導と評価の一本化」ということが言われ続けてきたが、それは個々の学習者に寄り添い、確かな学力を培う学習指導並びに学習評価をいうのである。

Edu News 九州

東京教育研究所九州分室

〒810-0022 福岡市中央区薬院 1-17-28

TEL 092-741-2646

第9号 発行 2010年12月12日

# 『考えさせる発問』（田中久直著）

## まえがき

思考力の養成ということが長いこといわれてきたし、今後もいわれ続けるにちがいない。ところが思考力の養成は学習指導のあらゆるところに結びついており、きわめて広いしごとである。したがってこれを実際のしごととして実現していくためには、具体的な場をひとつひとつとらえ、その中で方法化を図っていくことが必要であろうと思われる。その具体的な場を今回は発問の中にとらえてみた。発問法は学習指導においてだれにも用いられているもののひとつであり、そして改善の余地も少なくない。そういうところから接近することによって、思考力の養成ということの方法化のためにいくらかは役たつことがあろうと思うからである。

こういうことで「考えさせる発問」という主題を設定したのであるが、これを解きあかすために三つの観点からあわせて二十の命題を用意した。そして二十の命題のそれぞれにおける実際面の論述を試みた。このことから、一般にいう「発問」の内容から少し広がったところもある。重複しているとみられる箇所がいくらかないわけでもない。それから、その命題自体を強調しようとしたために、一見くいちがついていると受けとられる点も一部にはあるかも知れない。しかし真意を読みとつてもらえば一貫した考えかたはとらえられるはずである。そこでそれぞれの内容を一応資料的に読みとり、具体的な実践に即して傾斜をかけて必要にかなった組み立てをしてほしいと思う。実際のしごとは本の中ではなく教室の中にあるのである。

なお、この本は江部満さんのおすすめと励ましによってできたものである。このことについてとくに謝意を表したい。

昭和四十五年一月

田中久直

## もくじ

### まえがき

#### I 考えさせる内容

- 1 それを考えさせることは学習上価値があるのかどうかを吟味してかかる必要がある。その生徒たちの学習の段階からして、考えさせるまでもないことや考えさせても新しい発見に到達させにくい内容は、いくらしつこく発問してもかれらの発達を促進することにはならない。 ★1
- 2 その発問によってどういうことを考えさせようとするのか、その「どういうこと」が具体的に意識されている必要がある。そのためには、指導の目標や内容が分析的におさえられており、明らかにイメージのえがけるものになつていなければならない。 ★3
- 3 学習者が、それを考えようとする意欲をかきたてられるような内容の発問であることがたいせつである。そのために、学習者がそれを考えることの価値を自覚することができ、また考えることができるという自信のもてるような内容であることが必要である。 ★6
- 4 指導のねらいの本質に連なる内容は落ちなく考えさせるように発問しなければならない。学習活動の表面的なうごき気に気をとられ、考えさせるべき内容を考えさせないでいたら、決して意味のある授業にはならない。 ★9
- 5 発問の内容は、学習者の興味や関心を開発するようなものであることがたいせつである。そうでなければ、発問の集積によって学習水準を高めていくことはむずかしい。 ★13
- 6 発問は、その場で考えて応答させるというだけでなく、さらに、そのことについて引続いて考え深めていこうとさせるようなものであることが理想的である。 ★15

#### II 考えさせる方法

- 1 その発問に応じてどのような応答の出ていることを予期しているか、出てきた応答のいちいちについてそれをどのように取り扱うことにするか、あらかじめ考えている必要がある。 ★18
- 2 応答が思うように深まらないときに与える助言を、段階的に用意しておくことが必要である。最初の発問だけをくりかえし、押し問答をしていても、生徒の考えは決して深まっていけない。 ★21
- 3 考える手がかりを適切に含んでいる発問であることがたいせつである。どこからどのように考えはじめたらよいかを生徒がとらえられないようであると、その発問は価値に乏しい。 ★24
- 4 発問は中核的なものとその補助的なもので適切に組みたてられている必要がある。羅列的な内容による小発問の濫発は、生徒をほんとうに考えさせることにはなりにくい。 ★28
- 5 生徒が考え深めやすいように、発問の技術はたえずくふうされ改善されなければならない。 ★31
- 6 生徒個々の考える力に即して考えさせていくことができるように発問は組織されることがたいせつである。したがってまた、発問は生徒個々の考えかたを診断するといふはたらきをもつものであることが望ましい。 ★34
- 7 能力の低い生徒に発問を通してどう考えさせるかは特に配慮が必要であり、このことは全体的・総合的に検討される必要がある。 ★37
- 8 発問は誠意に満ちたものでなければならない。生徒を鼻先であしらうような発問は、かれらの考えようとする熱意を冷却させる。 ★41

#### III 考えかたの育成

- 1 発問は、基本的な考えかたを定着させることをめざして行なわれなければならない。 ★44
- 2 発問は、それによって考えた結果だけでなく、むしろ考える過程に目をむけて行なわれることがたいせつである。 ★47
- 3 新しい考えかたを開発するような発問はたいせつにされなければならない。型どおりの考えかたをくりかえさせる発問だけでは生徒の発達は期待しにくい。 ★50
- 4 発問が生徒の独立して考えることをたすけるものとして行なわれたとき、考えかたの育成は促進される。 ★53
- 5 生徒みずからが学習課題を設定し得るよう発問することをくふうする必要がある。 ★56
- 6 生徒がたがいに考えかたを学び合う活動を促進するような発問であることがたいせつである。 ★59

相澤 秀夫 氏 宮城教育大学教職大学院教授  
 1949年宮城県生まれ。国公立中学校教諭、指導主事、文部省教科調査官及び海外子女教育専門官等を経て、現職。専門は、国語科教育。著書に、「新中学校国語科経営講座6巻」「生活科・総合的な学習評価ハンドブックなど」

# 相澤教授の指導を受けての授業づくり

言葉にひたる授業を目指す 「読みひたる・書きひたる・聞きひたる」

**読みひたる【音読】**  
 ⇒45分間の授業の中で、音読が15~20分間あるとよい。  
 ⇒何よりも音読を大切にす。  
 (だんだんとしぼって読ませ、焦点化を図る)

なぜ、授業の中で「書く活動」を取り入れるのか…  
 ⇒自分や友達の考えを書くことにより、考えを整理させるため。  
 ⇒自信を持って表現させたり、自分自身の思考の流れが見えて、学びの高まりや定着を実感させたりするため。



**書きひたる【しっかり書かせる】【じっくり考えさせる】**  
 書くことは、まさに考えることである  
 ⇒安易にプリントで逃げない。  
 ⇒ノートに書かせる時には、具体的な行数を提示する。  
 \*「ノートは思考の運動場、表現力を鍛えるトレーニング場である。」

**「書く活動」の意義とは…【「書く活動」を取り入れる意義】**

- ①立ち止まって、自分と向き合うこと
- ②自分を確かめること
- ③優れて考えること
- ④感性を豊かにすること
- ⑤一過性の体験を一生の財産にして、経験に高めること
- ⑥自分の存在を他者に示すこと

**聞きひたる【はっきり話させる】**  
**話合いは3段階で進める【学び合い】【ペア学習】**

- ①自力で学んでいる時には、机間指導で教師が認める
- ②ペアや班で交流する
- ③全体で確認する

\*友達の意見と名前は赤ペンでノートに書きこむ。

**意図的な授業づくりを…【座席表の準備】**  
**できるだけ多くの児童に発言させる**

⇒座席表を活用する。  
 ⇒学びが深まるように意図的指名も取り入れる。  
 ⇒児童が思考している段階で発言順をイメージする。

**発問を厳選する【教師はしゃべりすぎない】**

- ①短く
- ②具体的に
- ③ぶれない
- ④タイミング

何よりもテンポよく！  
 (すべての児童ができるまで待たない)

**教師の肯定的な声かけや励まし【声かけ】**  
**名前をたくさん呼んでやるのが大切。**  
 例 「言葉に響きがあったね」「言葉に表情があったね」「うれしくなるね」「この言葉気に入った。さすが!」「他にも考えられるね。あと3・4行書き足そう!」

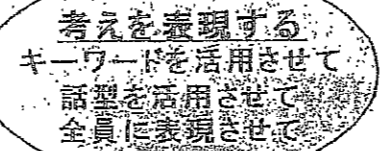
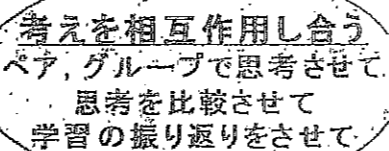
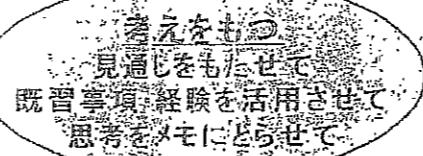
# 三次版「授業モデル」

## 授業改善の視点

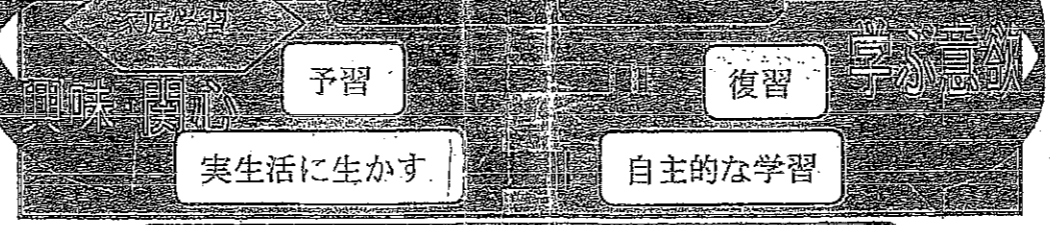
### 思考力・判断力・表現力等の育成



### 「みよし授業モデル」



### ノート指導を通して



### 「めあて」「振り返り」と「板書計画」

#### 授業に見通しを！

具体的な目標が立てられていますか

- めあては、1時間につけたい力を明確に板書し、児童・生徒ともに確認し、授業に「見通し」をもたせるものです！  
(～が・・・にできる。～が・・・わかる。～を解く方法を見出す。)
- 振り返りは、  
・本時のめあてに対する児童・生徒の主体的な振り返りを「ノートに書かせる」指導をする  
・「何が分かり」「何が分からないか」を明記させる
- 板書は、思考の流れが分かる構造的なものにする

### 意図的・計画的な発問の準備を！ (めあて-発問-まとめの三位一体)

発問に対する児童・生徒の反応を予想して授業を組み立てていますか

- 深い教材研究、発問の吟味と構造化を図る
- 発問に対する児童・生徒の発言、行動を予想する(主要発問)
- 答えられない、活動できないことが予想される場合、補助発問、ヒントなど手立てを用意する

### 児童・生徒の意欲を引き出す活動に！

発表しないのはなぜでしょうか  
発表させるにはどうすればよいのでしょうか

- 「発表の仕方と評価」を再考する  
→発表の仕方は分かっているのか  
→自分の考えはもっているのか  
→自信が持てる評価の言葉はかけているか

- 意図的に順序を考え、できるだけ多くの児童・生徒に発表させる

### 言語活動の充実

#### 記録、要約、説明、論述等で！

一つの授業で、効果的な言語活動を考えていますか

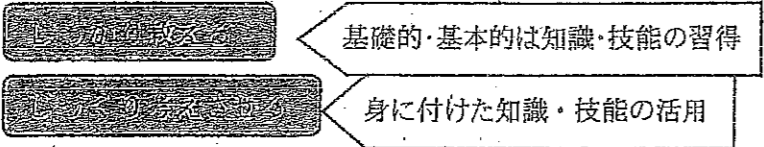
- 体験から感じ取ったことを表現する
- 事実を正確に理解し伝達する
- 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
- 情報を分析・評価し、論述する
- 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する
- 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

### 個人思考

#### 「考え方の指導」は、具体的方策を！

児童・生徒が前学年や他教科でどのような学習活動を行っているか把握できていますか

#### 「学習の系統性」を明らかにする



- 既習内容を想起させる指導
- 既習内容の活用の仕方を教える指導
- 過去の同様な体験を想起させる指導
- 比較・類推などの考え方の指導

### 集団思考

#### 「子ども主体の授業」に！

視点を明確にして話し合っていますか

#### 「考えの組織化」を構想する

- ・収束的思考 ・拡散的思考
- ・共感的思考 ・批判的思考
- ・反省的思考

- 学習形態・学習活動に変化をつけ、効果的で多様な学習活動を仕組む

### 机間指導

#### 目的を明確に！

次の授業展開に机間指導を生かしていますか

- 一人一人の学習状況・考えを把握する  
児童・生徒の表情、鉛筆の動きを見逃さない
- 見取ったらすぐ指導する  
つまずきを予想し、手立てを事前に用意する
- できているところはすぐ評価し、褒める  
目標に対応させ、具体的に評価する

## これからの授業づくりでみんなで取り組んでいく事柄

本校では、「学び合いのある授業」が、「主体的にかかわり合い、高まり合う子ども」を育成すると考えています。この「学び合いのある授業」を、子どもが自分の考えを持ち表現したり、自分の考えを伝え合い理解し合ったり、それぞれの良さを認め合い自分の学びに生かしたりする授業と仮定すると、これらは子どもの学びの様子であり、学びを深めたり高めたり広げたりする学び方でもあります。そのため、子どもの学ぼうとする意欲や知的好奇心、興味・関心などの情意面の支えが必要です。

また、一人ひとりの存在を受け止めることから、この「学び合いのある授業」は始まります。そこで、これらを高めていく教師の手段として、宮城教育大学 相澤秀夫先生の模範授業や講話、指導資料なども参考にして、今後の授業で以下のことを全員で実践していくよう提案します。

(泉田小学校研究推進委員会)

### 【授業づくりの基礎基本の充実のために】…全員がすぐに実践していくことから

- (1) 子どもの意欲を引き出すような言葉をかける。
- (2) 子どもの学びを引き出すような発問や指示をする。  
①短く ②具体的に ③おぼれない ④タイミン  
確認的発問はせず、授業の中で2～3つは広がり深まる誘発的な発問を心がける。
- (3) 一人一人の子どもの学びの状況を把握し、意図的に机間指導を行う。また、その結果から意図的に指名して、学びを深めたり広げたり高めたりする。(子どもがどんなことを考え、どんなことをノートに書いているか、「座席表」に赤ペンでチェックして回る。そのとき、「この子には、この場面で答えさせよう」とか、「何番目に語らせよう」を見通しを持つ。まずは全員に共有させたい考えや事柄からはじめ、それから、学びの実感を持たせるため広がりや深まりを持たせられる考えを発表させるのがよい。  
また、手を挙げた児童生徒にだけ発言が認められてしまうので、全ての子どもに平等に答えさせる(考えや思いを引き出したい)ためにも「はい、はい」と手を挙げさせない。  
④ デンボがある授業を心がける。何でも全員ができるまで待つということをしなない、潮時がある。問合いが大事(早くできた子には、「もっと書けるね」とか、次の指示を出して間をおかない。できる子どもはもっとできるように)

【子どもの学習量を充実させること】

### 【授業づくりの技能(スキル)の向上のために】…全員ができるだけ早く取り組むことから

- (1) 自分や仲間の考えを書くことにより考えを整理させ自信をもって表現させたり、自分自身の思考の流れが見え学習の高まりや定着を実感させたりするために書く活動を取り入れる。
- (2) 互いに認め合い、価値を実感し、信頼関係を築くためにもペアや班での学習活動を取り入れる。「学び合い学習」は、言語活動の中でも特に、教え合ったり意見交換をしたりする過程が重視される活動であり、そういった方を育てるのに適した方法と言える。

※ 裏面「研究の全体構想図」の視点1～3の<手立て>に◎で表示。

コミュニケーションの原点は対話である。ペアで対話し、学び合うことである。対話は人間関係の基本であり、感謝や思いが伝わる。そして、対話したら誰からどんなことを教えてもらったか赤ペン(学習の足跡を知る)で記録させる。このように、学んだ相手を大事にし、相手の名前も記録することで自尊心の育成にも好影響が生ずる。  
(宮城教育大学 相澤秀夫 先生の言葉より)

「活かしあい、磨きあい、響きあう、新たな時代の担い手づくり」

〔平成25年度～29年度〕

# 大河原町 教育振興 基本計画 概要版



## 目指す姿

☆学校・家庭・地域の協働のもと、自分や周りの人々を大切にし、志を持ち、心豊かでたくましく生きる子どもたちを育てます。

そして、人々が生涯にわたる学びや交流の中で、活かしあい、磨きあい、響きあいながら、新たな時代の担い手として生きる、生きがいのある平和で豊かな地域社会を形成します。

平成25年4月 大河原町教育委員会

# ～ 学校教育，生涯学習に関する基本理念 「活かしあい」

## ☆ 『大河原町の教育の姿』 学習機会の



大河原町観光キャラクター  
さくら、きー♡

### ◇教育を取り巻く課題

- \* 基本的な生活習慣・学習習慣の確立
- \* 自尊意識や規範意識の醸成
- \* 思考力・判断力・表現力の向上
- \* 人間関係を築く力，コミュニケーション能力の育成
- \* 体力・運動能力の向上
- \* 児童虐待の未然防止
- \* いじめや不登校，暴力行為の解消
- \* 教員の資質向上
- \* 安全・安心な学校
- \* 子どもと向き合う時間の確保
- \* 家庭・地域社会の教育力の向上
- \* 生涯をとおして学び続けられる環境づくり

### ◆4つの基本的方向

#### 1. 子どもの姿

〔目標〕  
☆命を大切に，志をもち，たくましく生きる子ども

### ◆14の施策

- (1) 確かな学力を育む
- (2) 豊かな心を育む (こころ 志)
- (3) 健やかな身をつく
- (4) 特別支援教育の充実

#### 2. 学校・教職員の姿

〔目標〕  
☆家庭や地域に開かれた学校，信頼される教職員

- (1) 学校の組織力向上
- (2) 教職員の資質・指導
- (3) 教育環境の整備と，学校の推進
- (4) 情報発信する学校

#### 3. 家庭・地域の姿

〔目標〕  
☆自らの役割と責任を担い，互いに協働し，教育の向上に取り組む家庭・地域

- (1) 家庭・地域との協働推進
- (2) 家庭・地域の教育力
- (3) 家庭・地域での学び

#### 4. 生涯学習の姿

〔目標〕  
☆互いに磨き合い，共に生きる力を育む生涯学習

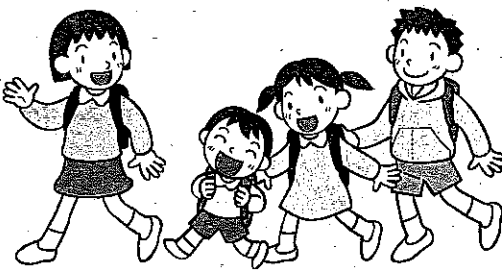
- (1) 地域づくり型生涯学習
- (2) 文化・芸術活動の振興
- (3) スポーツの振興



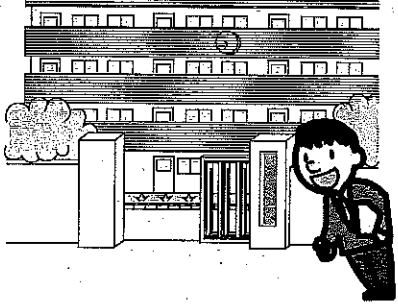
# 「磨きあい、響きあう、新たな時代の担い手づくり」～

## 充実を図り、質の高い大河原町の教育を推進します ☆


### ◆38の具体策


<ul style="list-style-type: none"> <li>教育の推進)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①社会の変化と今日的な課題に対応する各種教育活動の推進</li> <li>②基礎的・基本的な学習の充実</li> <li>③活用する力を育成する取組の推進</li> <li>④言語力の育成・言語活動の充実</li> <li>⑤国際理解教育、情報教育の推進</li> <li>⑥歴史や文化に関する教育の推進</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>教育の推進)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦命を大切にする教育の推進</li> <li>⑧夢を育む志教育の推進</li> <li>⑨人と関わる力を身に付ける活動の充実</li> <li>⑩読書活動の充実</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>食育の推進)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑪学校給食を中心とした食育の推進</li> <li>⑫体力向上の取組の推進</li> <li>⑬望ましい生活習慣の定着（はやね・はやおき・あさごはん）</li> </ul>	

⑭発達障がいも含めた特別支援教育の充実

<ul style="list-style-type: none"> <li>力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①創意と活力に満ちた特色ある学校づくりの推進</li> <li>②学校評価制度の充実</li> <li>③保・幼・小・中連携教育、校種間連携の推進</li> <li>④学習活動支援体制の充実</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心な</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑤町教職員研修会等の推進</li> <li>⑥校内研修の充実強化と実践的研究の推進</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心な</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦いじめ、不登校対策等の教育相談の充実</li> <li>⑧学校危機管理の充実</li> <li>⑨教職員が子どもと向き合う時間の確保</li> <li>⑩就学援助、育英金（奨学金）の充実</li> </ul>	

⑪ホームページや学校便り等の充実

<ul style="list-style-type: none"> <li>による教育の</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①PTAや地域による学校運営への協働と参画への体制づくり</li> <li>②親子会（子ども会）を中心とした地域ぐるみの子どもの健全育成</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③ボランティアの育成と活用</li> <li>④大学、企業、NPO等との連携拡大</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>の活動の支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑤コミュニティづくりと学習活動の支援</li> <li>⑥家庭教育支援の充実</li> <li>⑦PTA活動の活性化支援</li> </ul>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①町民が生涯にわたり楽しく学べる環境づくり</li> <li>②公民館、図書館を活用した地域の生涯学習拠点づくり</li> <li>③各年代のニーズに対応した講座等の推進</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>④文化財や伝統文化等の保存・継承</li> <li>⑤芸術文化に親しめる環境づくり</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑥スポーツ、レクリエーションの振興</li> </ul>	

# 大河原町教育振興基本計画について

## 1. 計画策定の趣旨

大河原町では、平成23年度大河原町経営計画（第5次長期総合計画）において、学校教育、生涯学習に関する基本方針を「活かしあい、磨きあい、響きあう、新たな時代の担い手づくり」とし、本町教育行政を中期的・総合的に推進するための今後5年間の指針としました。

社会を取り巻く状況が大きく変化している現在、解決すべき多くの教育課題に対応するため、国では平成18年12月に教育基本法を改正し、新しい時代の教育の基本理念を示すとともに、実効性のあるものとするために、教育三法等の関係法令の改正を行いました。

また、教育行政については、国と地方公共団体の役割分担と責任に係る内容を示すとともに、地方にも、地域の実情に応じて教育振興基本計画の策定に努めることを規定しました。

そこで、今後の大河原町の教育の発展のためには、これからの大河原町の教育を見据えた基本的な方向を明確にするとともに、その実現のために、どのような教育施策をどのように推進していくかを明らかにしていく必要があります。

これらのことから、地方教育の中心的な担い手である教育委員会では、「認めあい、支えあい、活かしあう、開かれた先進のまち、おおがわら」を基本理念とした、町政の施策に合わせた最適な教育施策を実施していくために、新しく教育振興基本計画を策定するものです。



## 2. 計画策定のねらい

大河原町の教育振興を図るためには、学校・家庭・地域・行政がそれぞれの役割を担いながら、お互いに連携・協働することが大切です。

このため、計画は、大河原町の教育の目指す基本的な方向と目標を明確にし、その実現に必要な施策を明らかにし、教育関係者はもとより、町民の理解と協力を仰ぐことをねらいとして策定するものです。



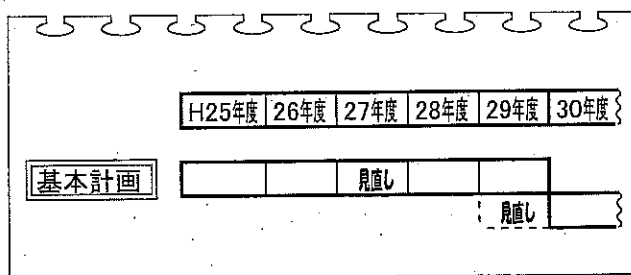
## 3. 教育委員会の充実

◇教育委員会は教育の政治的中立と教育行政の安定性を確保し、多様化している町民のニーズに応えながら、教育・文化の振興に努めるとともに会議の公開など、開かれた教育委員会をいっそう推進します。

また、教育委員会事務局においては、教育行政における基本方針や重点施策をふまえ、家庭・学校・地域への支援や教育環境の整備に取り組みます。さらに、事務の管理及び執行状況の点検・評価を的確に実施し、常に改善と充実に努め、信頼される教育行政を実現します。

## 4. 計画の実施期間

- ◇基本計画5年（毎年、PDCAサイクルによる進捗管理）
- ◇平成25年度から29年度



## 大河原町教育振興基本計画 概要版

平成25年3月発行

編集・発行 大河原町教育委員会

〒989-1295 宮城県柴田郡大河原町字新南19

TEL: 0224-53-2742 FAX: 0224-53-3818

http://www.town.ogawara.miyagi.jp

# 「確かな学力」を はぐくむために



一目千本桜

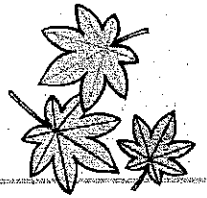


## 《大河原町教育基本方針》

- ・やさしさと学ぶ力が育つ学校
- ・心ふれあい学び合う地域
- ・芸術・文化を志向する町民
- ・運動を楽しむ町民

### 1. 基本なおさえ〔別紙参照〕

- ①学力向上の中核は「読解力の向上」にある
- ②学習意欲が向上するための評価を行う
- ③教育委員会が核となり、学校、家庭、地域（大学）の教育力を結集する



### 2. 教育委員会の学力向上対策

*教育振興事業*	*学習支援*	*心のケア*
*校長会 : 各校の学力向上への取組と検証 *教頭会 : 学力調査取扱業者選定委員会 : 教育委員会の事務の管理及び執行状況に関する点検評価への協力 *教務担当主任者会 : 先進校視察 *防災教育担当者会 : 町立学校防災マニュアルの作成 *研究主任者会 : 家庭学習の手引き作成 *学校運営等研修会 : 学校諸課題の解決	*教員補助者 ・小学校3校 8名 ・中学校2校 3名 *学校図書司書補助員 ・小中5校 2名	*在学青少年教育相談員 ・1名 *生徒指導推進協力員 ・小学校3校 2名 ※SC(県) ・小3校1名、中2校2名 ※SSW(県) ・小中5校 1名
○国、宮城県の指定事業等○		
○教育課程研究指定校事業〔伝統文化〕(H22~) ・授業に地域人材を活用 ○学校地域支援本部事業 ○志教育支援事業(H24) ・柴田農林高との体験学習を中心とした連携 ○市町村教委学力向上パワーアップ支援事業(H22~) ・標準学力調査(4月、12月)、問題データベース活用〔東京書籍〕 ・家庭学習の手引き ・言語教育改善研修会		(基礎・基本3原則) *読み→読書 ・朝読書 *書き→漢字テスト *算盤→計算テスト ・授業の5分間

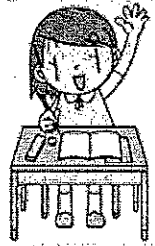
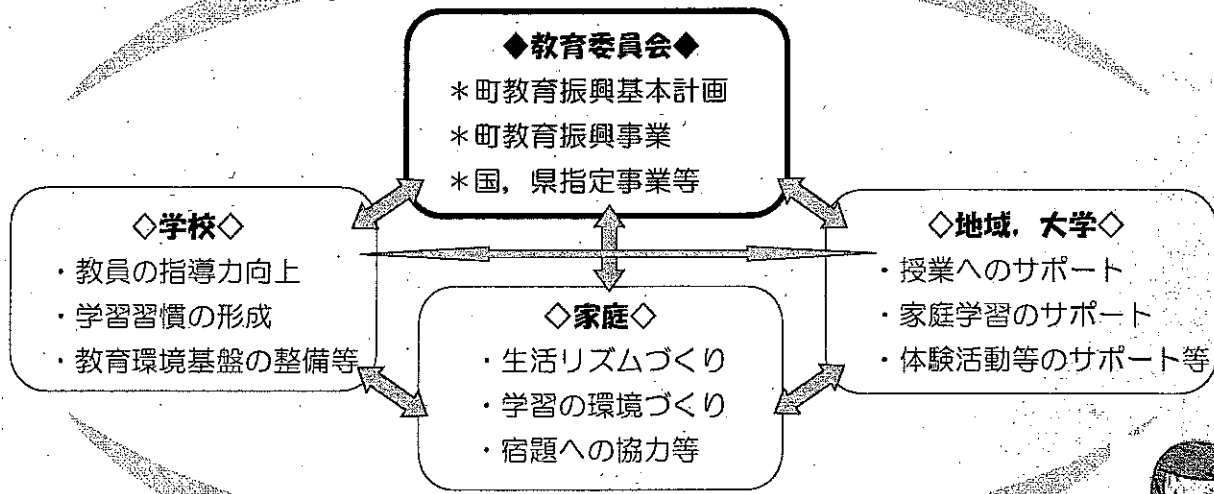


### 3. 各校の学力向上対策

学校名	内 容
◇大河原小 905名 30学級	*教材研究、研究授業を主体とした校内研究と教師間の学び合いによる分かる授業づくり *指導体制の工夫(一部教科担任制、少人数指導、理科専科、仙台大学生等) *伝統文化教育を生かした豊かな体験学習(体験ラティエバ1000人 H24年度)
◇金ケ瀬小 210名 10学級	*学習規律の徹底→不必要物は机の上に置かない、しっかり聴く・話す・書く・宿題をする *授業でのICT機器の活用(電子黒板等) *志教育に係る高校生との交流学习
◇大河原南小 252名 12学級	*基礎基本の定着のための漢字テスト、音読、計算練習、個別指導(漢字博士検定等) *自主的な授業公開や模擬授業の実施、ノート指導の研究 *効果をあげた指導方法の共有化(校内研修)
◇大河原中 637名 21学級	*学習=生徒指導 授業の決まり、約束事(凡事徹底)→意識化 *朝学習による国語力の向上(NIE:新聞記事を読み感想や要約をまとめる) *学力向上プロジェクトチーム→帰りの会学習タイム(数学1年10分、2年15分、3年30分)
◇金ケ瀬中 91名 5学級	*きめ細かい指導で賞賛の機会を多くし意欲づけと安心して学べる環境づくり(地域性) *短作文を書かせる機会を意識的に取り入れ、書く活動を充実 *漢字検定、英語検定、数学検定、歴史検定等の受験の推奨



☆児童生徒の確かな学力☆



参考資料

【家庭学習の手引き】

家庭学習の手引き 5・6年生用

家庭学習のめあて

- ① 時間を決めて毎日学習しましょう。
- ② 集中して学習しましょう。
- ③ バランスのとれた学習をしましょう。

学習時間のめあて

- 5年生→50分以上
- 6年生→60分以上

家庭学習をはじめる前に「やくそく」

- ① 学習をはじめ
- ② 学校からの
- ③ 親の上や身
- ④ よい姿勢で
- ⑤ (学習する
- ⑥ 最初に音読を
- ⑦ 次に自主集
- ⑧ 最後に明日

自主集読のめあて

- ① 自主集読のめあて
- ② 自主集読のめあて
- ③ 自主集読のめあて
- ④ 自主集読のめあて
- ⑤ 自主集読のめあて
- ⑥ 自主集読のめあて
- ⑦ 自主集読のめあて
- ⑧ 自主集読のめあて
- ⑨ 自主集読のめあて
- ⑩ 自主集読のめあて

クリアファイルに印刷し配布

【データベース】

問題データベース 小学校【算数】

この問題を解く 勉強しなくてはいけません

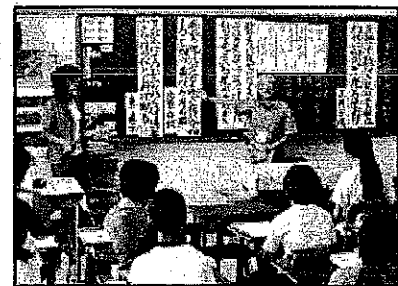
ダウンロード フリー 100マス

国語学力調査対応メニュー 国語 小学6年生

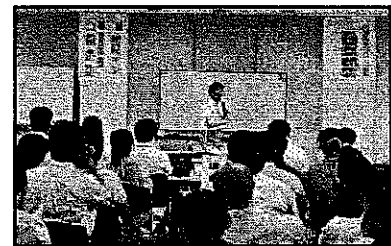
問題番号	問題内容	解答
1-1	...	...
1-2	...	...
1-3	...	...
1-4	...	...
1-5	...	...
1-6	...	...
1-7	...	...
1-8	...	...
1-9	...	...
1-10	...	...

国語、算数・数学

【授業、研修会】



短歌の授業



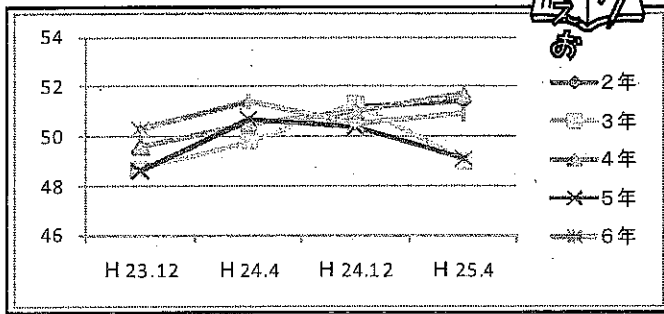
言語教育改善研修会

質の高い授業を目指して

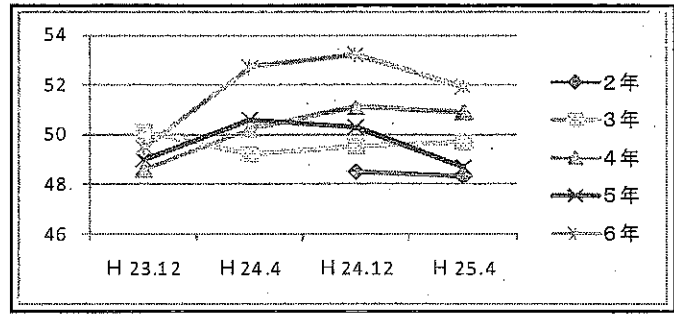
# I. 「標準学力調査（東京書籍）」による経年評価

## ◇小学校

〈国語〉

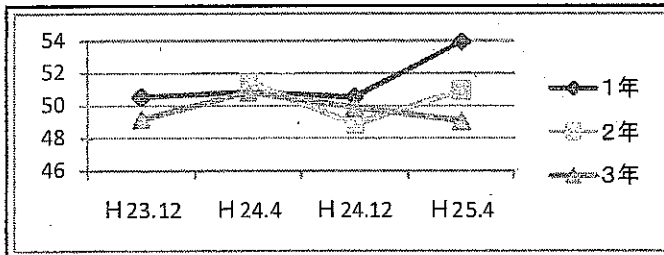


〈算数〉

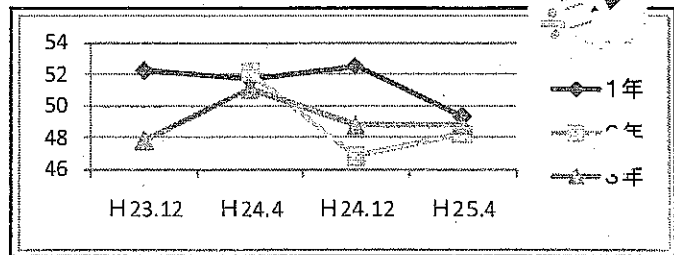


## ◇中学校

〈国語〉

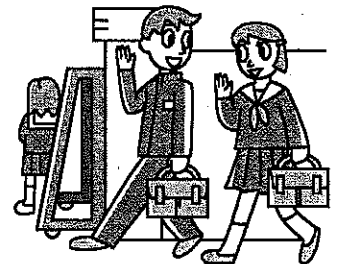


〈数学〉



# II. 大河原中学校の学力向上に向けた方策

1. 学力向上推進本部と学力向上プロジェクトチームの発足（7月）〔主幹教諭，研究主任，研究部，数学科〕  
\*これまでの取組成果と課題の掘り起こし及び新たな方策の検討と実施
2. 帰りの会学習タイム（9月から毎日実施）  
\*帰りの会学習タイム〔数学〕（1年：10分，2年：15分，3年：30分）
3. 木曜放課後学習会（毎週）  
\*数学専門の退職教員，大学生の活用
4. 指導主事の要請  
\*年3回（総合教育センター2回，教育事務所1回）
5. 志集会（10月）  
\*元大河原中学校長による講話 ～なぜ勉強するのか？，中学生時代の学習の意義～



# III. 平成25年度全国学力・学習状況調査（児童・生徒質問紙）による調査結果

※数値（％）について→各質問で4尺度の“1”を選択した割合

番号	内容	質問事項	小学校			中学校		
			町	県	国	町	県	国
4	自分	ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがありますか	70.9	69.9	71.0	61.9	69.6	70.1
47		人の役に立つ人間になりたいと思いますか	77.9	66.8	70.8	55.2	67.3	69.5
11	家庭	1日（月～金）あたりどれくらいテレビ（ビデオ）を見たり聞いたりしますか（4時間以上）	22.5	21.9	20.0	18.8	13.3	14.0
29		家で，計画を立てて勉強していますか	28.6	26.8	25.6	9.2	15.9	14.8
35	学校	学校に行くのは楽しいと思いますか	56.7	53.7	52.1	29.3	45.5	46.0
46	いじめ	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか	81.4	77.8	79.9	59.8	70.1	71.4
49	授業	普通の授業では自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか	40.7	43.1	46.0	23.0	34.7	33.4
76		小）算数の勉強は大切だと思いますか，中）数学ができるようになりたいと思いますか	70.6	69.9	72.0	64.0	73.0	73.2



【大河原町教育委員会】〒989-1295 柴田郡大河原町字新南19

TEL:0224-53-2742 FAX:0224-53-3818 <http://www.town.ogawara.miyagi.jp>



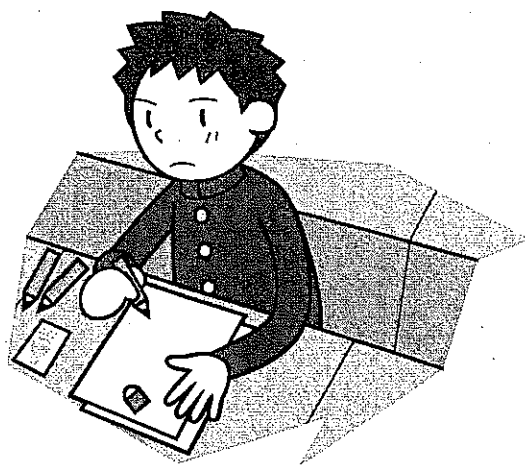
大河原町立小・中学校

平成24年度

# 学力向上の取組状況について

～その成果と効果、課題～

〔抜粋〕



大河原町教育委員会

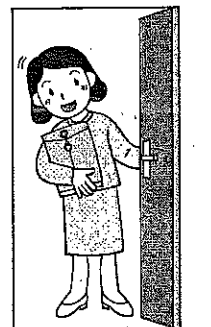


〔 項 目 〕

- ◇ 様式1. 「学力テスト」について
- ◇ 様式2. 「データベース」について
- ◇ 様式3. 「家庭学習の手引き」について

《補助資料》

*大河原小学校	————	P 4
*金ヶ瀬小学校	————	P10
*大河原南小学校	————	P18
*大河原中学校	-----	
*金ヶ瀬中学校	-----	





## 『発刊にあたって』

平成24年度、各学校において、児童生徒の学力向上のために様々な取組が行われました。また、町教委と連携のもと、次の3点の事業を実施しました。

### 1. 「学力テスト（年2回）」の実施

\* CRTを4月と12月に実施することにより、児童生徒一人一人の課題や変容をみることができ、個に応じた学習の支援を行ったこと

### 2. 「データベース」の活用

\* 新学習指導要領に対応し、学力テストと付随したインターネット配信の問題データベースをダウンロードし、プリントした問題を授業や放課後学習、家庭学習時に活用したこと

### 3. 「家庭学習の手引き」の配布

\* 全児童生徒に配布し、家庭とともに学習習慣の改善を図り、学習習慣を形成していったこと

この結果、少しずつではありますが、その成果が学力テストの数値、そして児童生徒の学習の姿、意欲等にあらわれています。

ここに、各学校の素晴らしい取組を1冊にまとめました。この取組を共有し、各学校で実践することより、さらに児童生徒の学力が向上することを期待しております。

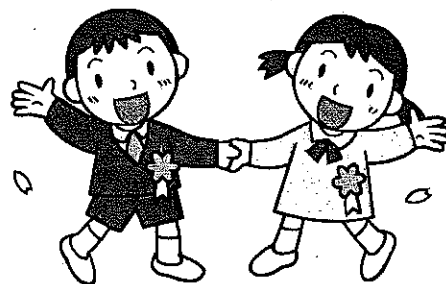
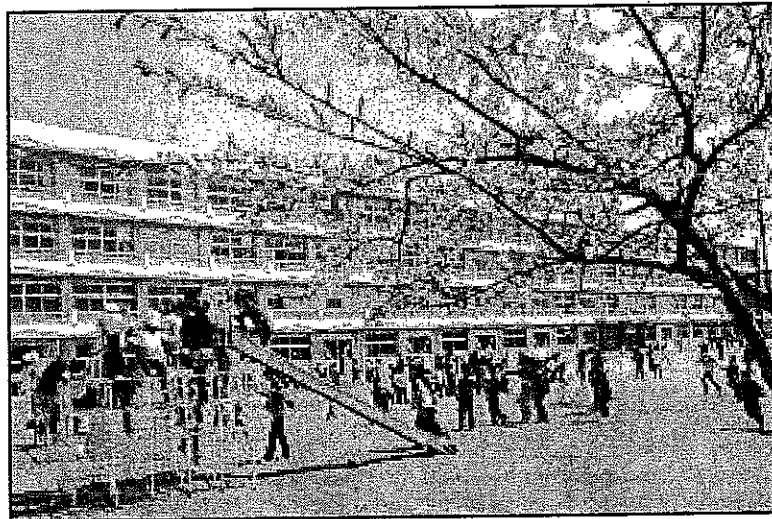
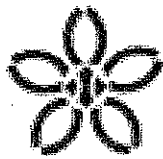
結びに、年度末のお忙しい中、ご提出いただきました先生方に心より感謝いたします。



平成25年3月

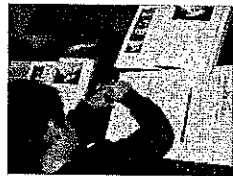
大河原町教育委員会

# 大河原小



〔様式1〕

平成24年度学校における学力向上の取組状況等について

大河原町立大河原小学校		職・氏名	主幹教諭・杉山 義隆
1. 「学カテスト（年2回）」について			
4 月 テ ス ト			
分 析	課 題	対 応 策	
<p>◇国語 全校の平均正答率が本調査目標値（以下目標値）を3.9ポイント上回る。また、学年毎の比較でも全学年で目標値を超えている。</p> <p>◇算数・数学 全校の平均正答率が目標値を6.2ポイント上回る。また領域別においても全ての領域で目標値を上回っている。</p>	<p>◇国語 領域別に見ると「読むこと」が目標値を下回り、「話す聞く」も目標値をわずかに超えるにとどまっている。</p> <p>◇算数・数学 領域別に見ると全領域で目標値を上回っているものの、「数と計算」「数量関係」では数値が低い。</p>	<p>◇国語 国語科の「読むこと」の領域を中心とした校内研究の推進を通して児童の読解力向上を図る。</p> <p>◇算数・数学 少人数指導（5年）や教員補助者を活用して個に応じた指導を図る。</p>	
成 果 と 効 果	<p>*国語科における校内研究の推進（事前・事後授業を含め全員が授業研究を行う、事前検討会で模擬授業の実施等）により、国語科の学力が少しずつ向上してきている。</p>		
1 2 月 テ ス ト			
分 析	課 題	対 応 策	
<p>◇国語 全校の平均正答率が目標値を4.3ポイント上回り、4月と比較しても数値が上昇している。</p> <p>◇算数・数学 全校の平均正答率が目標値を6.2ポイント上回っており、4月と同程度である。「数と計算」の領域で数値が上がっている。</p>	<p>◇国語 「読むこと」の領域は目標値を超えたものの、他の小行きと比較するとまだ低い状態である。</p> <p>◇算数・数学 領域別に見ると「図形」や「数量関係」において正答率の低い単元が見られる。</p>	<p>◇国語 読解力において「読みを深める」指導法の研修を進める。</p> <p>◇算数・数学 年間を通して毎週月曜日に全校で補充学習の時間を設定したり大学生ボランティアの活用を図ったりする。</p>	
成 果 と 効 果	<p>*国語科において、校内研究主題「正しく読み、読みを深める児童の育成を目指して」の中で、「正しく読み」という点については、各学年とも概ね達成されてきている。次年度は「読みを深める」という点と児童の意見交流のさせ方に付いて研究を深め、学力向上を図りたい。</p> <p>*算数科については、授業以外にも放課後に補充学習を行ったり大学生のボランティアを活用したことにより個に応じた支援を行うことができた。</p>		

大河原町立大河原小学校	職・氏名	主幹教諭・杉山 義隆
<b>2. 「データベース（東京書籍）」について</b>		
<b>(1) 取組状況〔活用方法〕</b>		
・年度当初に転入職員も含め全職員に対し、データベースの活用の仕方について担当から説明をした。		
・全ての学年において、授業、放課後の補充学習、宿題等で積極的に活用されている。		
<b>(2) 成果</b>		
・プリント数、問題数が共に豊富で、特に学習した内容を定着させる段階で有効に活用することができた。		
・国語、算数だけでなく時数の少ない社会、理科のデータベースも使用できるため、宿題や家庭学習にも活用することができた。		
・問題の内容が、習熟を図る「ドリル」、定着度合いをみる「たしかめ」、つまずいた問題を復習する「フォローアップ」、発展的な内容を学習する「チャレンジ」と多岐にわたっているために、個に応じた支援にたいへん使いやすかった。		
<b>(3) 課題</b>		
・特にない。		
<b>(4) その他</b>		
・次年度以降も、全ての学年の全ての教科（国語、社会、算数、理科）において使用できるようにしていただきたい。		



伝統文化教育研究発表会

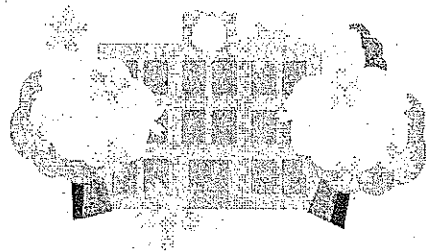


1学年 図画工作科 「おはなしだいすき」

〔様式3〕

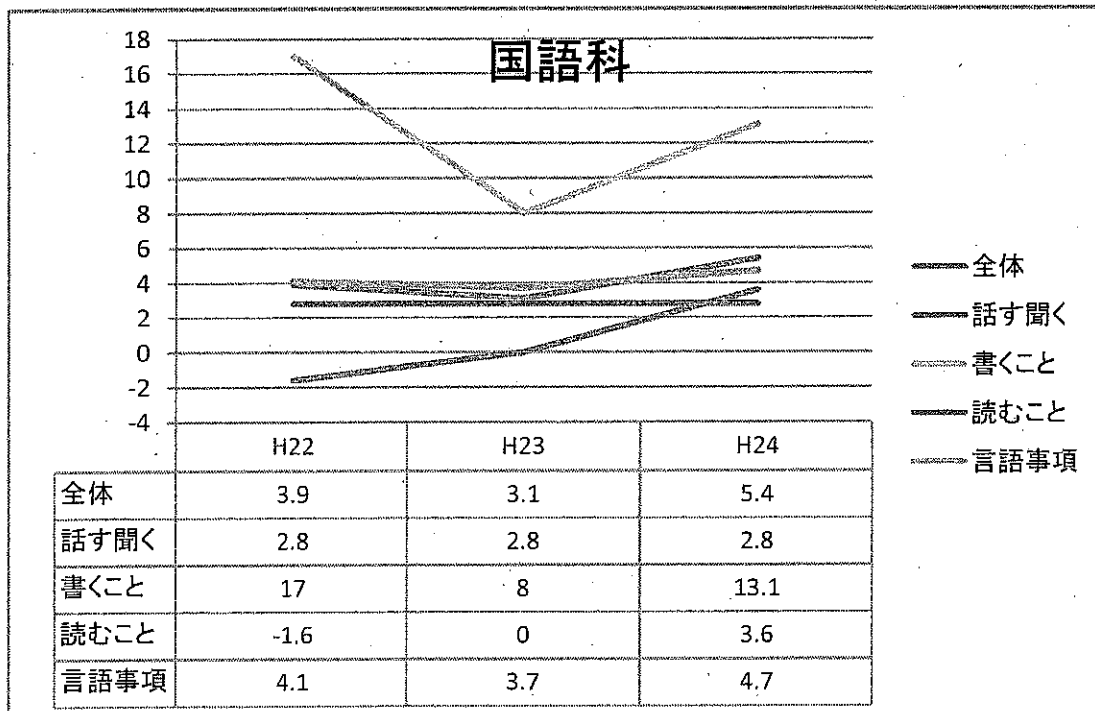
平成24年度学校における学力向上の取組状況等について

大河原町立大河原学校	職・氏名	教諭・坂本 謙
<b>3. 「家庭学習の手引き」について</b>		
<b>(1) 取組状況〔活用方法〕</b>		
・PTA懇談会等で保護者に「学習の手引き」について説明し、家庭での活用を促した。		
・低学年では、「かていがくしゅうのすすめかた」の部分を経験的な生活として指導に生かした。		
・中学年以上は、自主学習としてどんな内容の勉強をすればよいかを「学習の手引き」を基に参考に指導した。		
<b>(2) 成果</b>		
・低学年では、保護者と連携して帰宅後の基本的な生活習慣について指導することができた。		
・自主学習のメニューが「家庭学習の手引き」に具体的に示されているので、自主学習の内容に工夫が見られ、バランスよく学習を進めるようになった。		
<b>(3) 課題</b>		
・年度始めには「家庭学習の手引き」の積極的に活用していたが、年間を通した指導には少し差が見られた。		
<b>(4) その他</b>		
・「家庭学習の手引き」の有効な活用例の情報を収集したり、家庭での活用状況を把握したりして、今後の指導に生かしていきたい。		



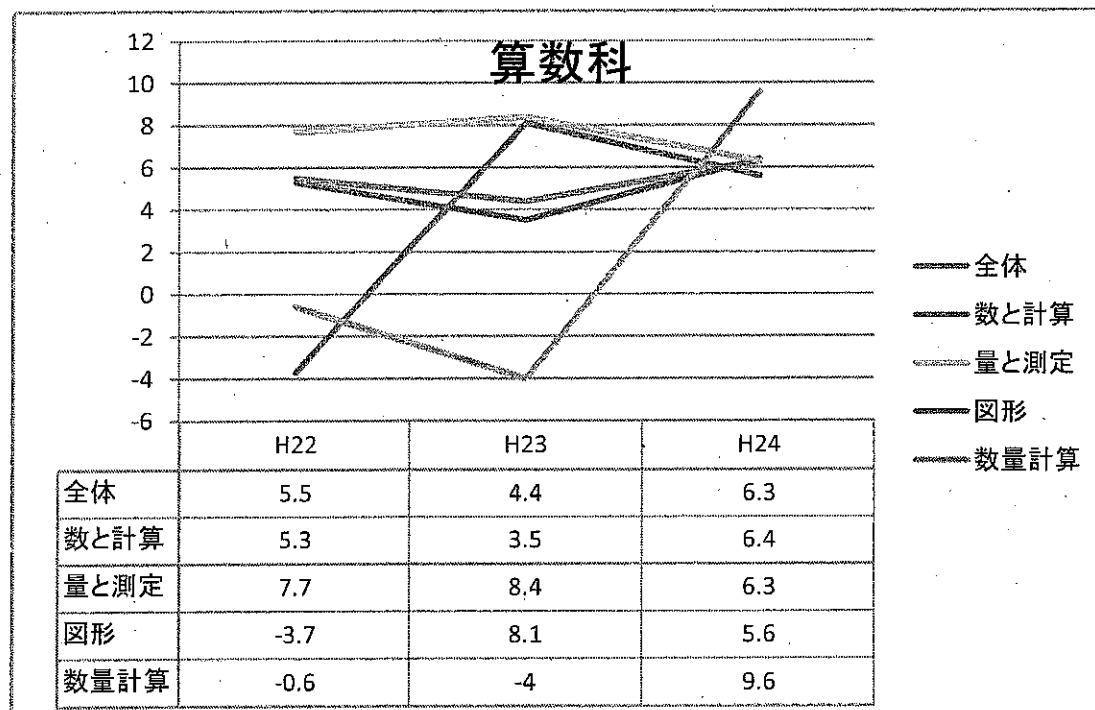
4学年 総合 「大河原に伝わる願い」  
～桜の木に寄せる人々の願い～

平成22～24年度（12月実施）における標準学力調査の  
校内平均正答率と期待正答率（目標値）との比較の推移



〈考察〉

校内研究で取り組んできた「読むこと」の領域は、3年間で確実に向上してきていることが分かる。全体としても、昨年度から今年度にかけては、2.3ポイント数値が上昇している。



〈考察〉

全体としては、昨年度から今年度にかけて数値が上昇しているが、「量と測定」「図形」の領域では下がっている。つまづいている問題を分析し個に応じた支援を行いながら学力の向上につなげていきたい。

平凡な教師は言って聞かせる。

よい教師は説明する。

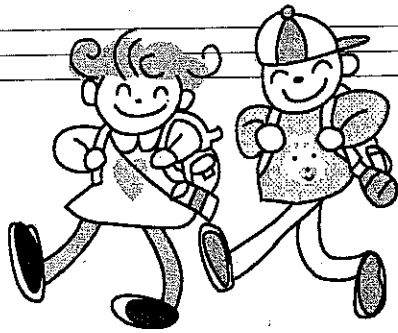
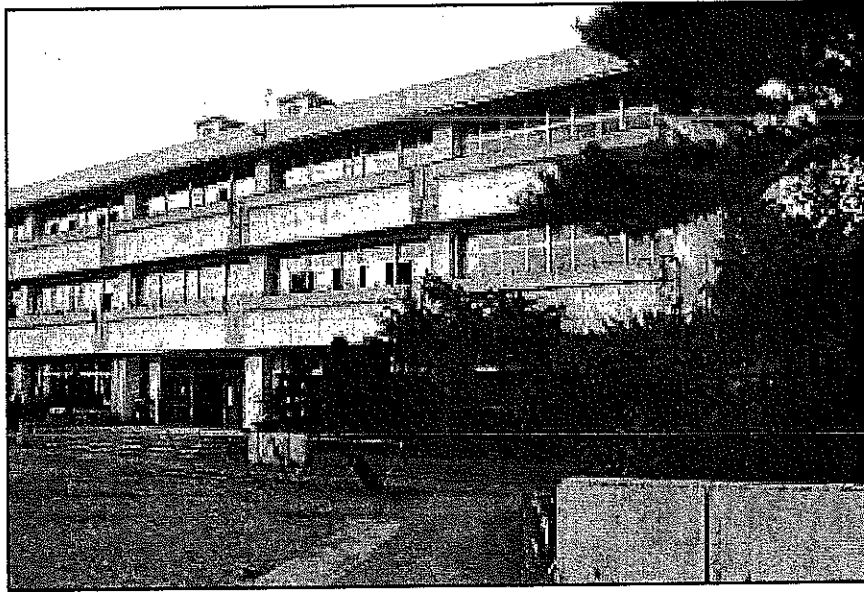
優秀な教師はやってみせる。

しかし最高の教師は子どもの心に火をつける。

ウィリアム・ウォード

教育学者（アメリカ）

# 金ヶ瀬小





〔様式1〕

平成24年度学校における学力向上の取組状況等について

大河原町立金ヶ瀬小学校		職・氏名	教諭・遠藤 成晃
1. 「学力テスト（年2回）」について			
4 月 テ ス ト			
分 析	課 題	対 応 策	
<p>◇国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年ともほぼ全国値と同程度である。3年生においては、3.9%全国値を上回った。</li> <li>・4年生では、「読むこと」「話すこと・聞くこと」が全国平均を5ポイント以上下回っている。</li> <li>・2年生では、「活用」「読むこと」で5ポイント以上全国平均を上回った。</li> </ul> <p>◇算数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年ともほぼ全国値と同程度である。</li> <li>・3年生の「図形」では、8ポイント以上全国平均を上回っている。</li> <li>・4年生において、昨年度の3年生当時と比較すると二極化の傾向が改善されてきている。</li> </ul>	<p>◇国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4,6年生において、「読むこと」「話すこと・聞くこと」に課題がある。</li> <li>・5年生では「活用」で5ポイント以上全国値を下回っている。</li> <li>・2年生では「書くこと」に若干の課題が見られる。</li> </ul> <p>◇算数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2,6年生では、「活用」「数学的な考え方」に課題がある。</li> <li>・3年生では、「数と計算」に課題がある。</li> <li>・4年生は、「図形」「数量や図形についての知識・理解」が苦手である。</li> </ul>	<p>◇国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日記や作文指導、朝のスピーチ、討論会、要約を充実させる。</li> <li>・視写の活動を取り入れ、読解力の向上の手だてとする。</li> <li>・長文読解の解き方や読み取りについて丁寧に指導する。</li> <li>・ドリル問題を活用し、文章読解力の育成を図る。下位群のできない問題を把握し、個別指導の充実を図る。</li> </ul> <p>◇算数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎から応用まで、または既習事項の反復など様々な問題に取り組ませる。</li> <li>・授業において、繰り返しを大切にする。</li> <li>・ノート指導の充実を図り、途中の計算や自分の考えをまとめ、問題を解いていく経験を積ませる。</li> <li>・課題解決的な学習を工夫していく。</li> </ul>	
成	*国語科においては、書く活動や学び合いを大切にしながら、読み取る力を高めるための工夫をした。内容を読み取る力やペア・グループ学習のさせ方を意識して各学年で実践と重ねることができた。		
効	*算数科においては、基礎・基本的な知識・理解は概ね良いが、思考力や応用的な問題にはまだ課題が残る。学力テストによって定着していない分野を把握し、復習や個別指導に生かすことができた。		

12月テスト

分析	課題	対応策
<p>◇国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生において、3.2%全国値を上回った。</li> <li>・「話す・聞く能力」において、2年生では4.6ポイント、5年生では7.9ポイント全国値を上回ったが、6年生では10.7ポイント下回った。</li> <li>・1年生では、「書く能力」が全国値を6.1ポイント下回っている。</li> <li>・4年生において、「書く能力」が4月と比較し、17ポイント下がった。「話す・聞く能力」は8.7ポイント向上した。</li> </ul> <p>◇算数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生が2.4%、2年生が2.8%、4年生が4.1%全国値を下回った。特に2,4年生では、全ての観点で全国平均を下回った。</li> <li>・3,5年生では、全ての観点において全国平均値を上回った。</li> <li>・「数学的な考え方」において、1年生が9ポイント、2年生が5.5ポイント、4年生が11.3ポイント下回っている。</li> </ul>	<p>◇国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年を中心に言語事項の充実を図る必要がある。</li> <li>・一人一人に課題があるので、今後も「読む能力」の充実を図りたい。</li> <li>・多くの学年で「話す・聞く能力」での向上が見られたが、6年生で大きく下回った。</li> </ul> <p>◇算数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「関心・意欲・態度」が低い学年は、他の観点も低い傾向にある。解き方が分からず意欲が低下している。</li> <li>・「図形の作図」に課題がある。計算のケアレスミスも多い。</li> <li>・4年生において、平均正答率30点未満の児童が約13%である。個別の支援をしてきたが十分でなかった。</li> <li>・正答率の分布に上位群、下位群の二極化が見られる学年がある。</li> </ul>	<p>◇国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しく聞き取るための観点の指導とともに、相手を意識した分かりやすい話し方を会得できるよう、体験を重視した指導を行う。</li> <li>・読書活動の充実、話し合い活動や表現活動、スピーチに積極的に取り組む。</li> <li>・漢字や言語事項の定着、読解力育成のためにデータベースを活用する。</li> <li>・自分の考えをしっかりと書き、伝え合う場面の設定を行う。</li> <li>・音読、漢字練習、意味調べなどを大切にして、継続していく。</li> </ul> <p>◇算数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・略図を書かせることで、数量の関係や文章題の内容を確実に捉えさせる。話し合い活動を行い、自分の考えをもつことを習慣づける。</li> <li>・TTや少人数指導を継続し、個別の支援を一層充実させる。</li> <li>・プリントを活用して基礎的な内容の確実な定着を目指す。また、課題解決的な学習を工夫していく。</li> <li>・計算の過程を大切にして、自分の言葉で説明させたり、表や式に表す体験を積ませる。</li> </ul>
<p>成果と効果</p>	<p>*分析と課題を踏まえた対応策を各学年で立てることができた。学級で「弱い観点や分野」をしっかりと把握し、毎日の授業に生かしていきたい。また、TTや個別指導をさらに充実させ、1年間のまとめに生かしていきたい。</p>	

〔様式2〕

平成24年度学校における学力向上の取組状況等について

大河原町立金ヶ瀬小学校	職・氏名	教諭・遠藤 成晃
<p>2. 「データベース（東京書籍）」について</p> <p>(1) 取組状況〔活用方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝スキル、宿題、授業中の演習問題としてよく活用している。</li> <li>・算数は単元ごとに整理されているので大いに活用できた。国語、社会は半分程度を授業や家庭学習で使用した。理科は7割程度。(4年生)</li> <li>・宿題プリントとして、ほぼ毎日活用した。単元のまとめや復習の際に使用した。</li> <li>・特に算数は、朝スキルや家庭学習で大いに活用できた。</li> </ul> <p>(2) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲付けや単元の復習として効果的である。学習の定着としても効果的であった。</li> <li>・各教科とも授業内容に合っているものが多く、使いやすい。</li> </ul> <p>(3) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の記述問題が少ない。また、修飾語(かざる言葉)など言語事項の問題が少なかった。</li> <li>・漢字の学習順に対応していないため、日常の漢字ドリルとしては使いにくい。</li> <li>・すでに購入してあるドリルを中心に取組んだため、十分活用できない面もあった。学年末のまとめとして一層活用していきたい。</li> </ul> <p>(4) その他</p>		



大河原町立金ヶ瀬小学校	職・氏名	教諭・ 遠藤 成晃
<p>3. 「家庭学習の手引き」について</p> <p>(1) 取組状況〔活用方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の目安時間を意識させて、取り組ませている。</li> <li>・4月に児童へのガイダンスを行い、学級懇談会でも内容を説明した。</li> <li>・あまり活用できていない。</li> <li>・おたよりファイルとして利用した。</li> <li>・低学年では、まずは宿題を定着させることを優先させた。何名かは自主学習として漢字練習や日記等に取り組んでいた。</li> </ul> <p>(2) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めの頃の意識付けとしては良い。</li> <li>・家庭での学習の仕方が分かりやすく書いてあり、参考になった。</li> <li>・家庭学習の進め方がよく分かり、新学期当初の指導の際に活用できた。家庭学習の定着はほぼ100%である。(3年生)</li> <li>・8割以上の児童が50分以上学習している。(5年生)</li> </ul> <p>(3) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主学習の具体的な取り組みせ方や苦手克服に向けた指導</li> <li>・毎日確認できるようファイル形式にしたが、約半数の児童は壊したり、なくしたりしてしまっているようだ。</li> <li>・より具体的な学習方法(ノートのまとめ方等)を指導した上で、やっと家庭学習ができるようになった。手引きの目指す自主学習の定着までは取り組めなかった。</li> <li>・時々全体で家庭学習の仕方について振り返る機会を設ければよかった。</li> </ul> <p>(4) その他</p>		



近年3年間の学力の推移 (H22~H24 12月実施学力調査)

平成22年度

<1年生>

【国語】	関心意欲	話す・聞く	書く	読む	言語
全国	88.7	86.9	82.6	72.9	92.1
金小	86.9	82.1	83.4	69.0	81.3
全国比較	≒	▼4.8	≒	▼3.9	▼10.8

【算数】	関心意欲	数学的	表現・処理	知識・理解
全国	74.1	83.7	89.7	89.4
金小	68.6	74.8	85.8	88.5
全国比較	▼5.5	▼8.9	▼3.9	≒

<2年生>

【国語】	関心意欲	話す・聞く	書く	読む	言語
全国	91.6	88.7	84.7	76.7	92.5
金小	91.7	88.6	86.4	76.1	90.9
全国比較	≒	≒	≒	≒	≒

【算数】	関心意欲	数学的	表現・処理	知識・理解
全国	69.0	74.1	84.5	81.5
金小	65.0	71.7	81.7	69.6
全国比較	▼4.0	≒	≒	▼11.9

<3年生>

【国語】	関心意欲	話す・聞く	書く	読む	言語
全国	74.8	72.7	64.6	60.2	73.1
金小	86.3	76.5	82.5	64.9	81.5
全国比較	▲11.5	▲5.2	▲17.9	▲4.7	▲8.0

【算数】	関心意欲	数学的	表現・処理	知識・理解
全国	47.1	57.5	78.8	69.0
金小	69.1	68.2	86.5	74.2
全国比較	▲22.0	▲10.7	▲7.7	▲5.2

<4年生>

【国語】	関心意欲	話す・聞く	書く	読む	言語
全国	67.2	61.8	63.5	68.5	69.3
金小	65.9	54.2	61.7	63.5	76.7
全国比較	≒	▼7.6	≒	▼5.0	▲7.4

【算数】	関心意欲	数学的	表現・処理	知識・理解
全国	69.7	67.1	82.6	74.3
金小	65.7	72.6	77.0	74.7
全国比較	▼4.0	▲5.5	▼5.6	≒

<5年生>

【国語】	関心意欲	話す・聞く	書く	読む	言語
全国	74.1	69.8	67.6	63.1	74.8
金小	78.2	71.8	73.1	66.3	77.1
全国比較	▲4.1	≒	▲5.5	▲3.2	≒

【算数】	関心意欲	数学的	表現・処理	知識・理解
全国	62.6	59.4	77.5	74.5
金小	62.5	54.0	80.0	75.2
全国比較	≒	▼5.4	≒	≒

<6年生>

【国語】	関心意欲	話す・聞く	書く	読む	言語
全国	87.4	85.0	84.1	73.3	75.2
金小	85.2	83.9	80.9	80.3	79.4
全国比較	≒	≒	▼3.2	▲7.0	▲5.8

【算数】	関心意欲	数学的	表現・処理	知識・理解
全国	56.0	63.2	76.5	78.9
金小	66.4	73.4	80.0	81.1
全国比較	▲10.4	▲10.2	▲3.5	≒

平成23年度

<1年生>

【国語】	関心意欲	話す・聞く	書く	読む	言語
期待値	77.1	81.7	76.3	67.5	87.1
金小	75.5	84.3	69.9	65.5	86.1
全国比較	≒	≒	▼6.4	≒	≒

【算数】	関心意欲	数学的	表現・処理	知識・理解
期待値	73.9	70.0	84.3	84.2
金小	79.0	72.9	86.4	88.4
全国比較	▲5.1	≒	≒	▲4.2

<2年生>

【国語】	関心意欲	話す・聞く	書く	読む	言語
期待値	77.1	73.8	76.3	74.7	81.7
金小	82.1	78.4	80.5	79.2	86.8
全国比較	▲5.0	▲4.6	▲4.2	▲4.5	▲4.9

【算数】	関心意欲	数学的	表現・処理	知識・理解
期待値	65.5	65.2	79.1	72.4
金小	60.5	57.7	81.9	70.4
全国比較	▼5.0	▼7.5	≒	≒

<3年生>

【国語】	関心意欲	話す・聞く	書く	読む	言語
期待値	67.1	62.5	63.5	63.0	71.2
金小	61.6	52.4	58.2	52.2	71.1
全国比較	▼5.5	▼10.1	▼5.3	▼10.8	≒

【算数】	関心意欲	数学的	表現・処理	知識・理解
期待値	64.0	60.4	73.1	70.9
金小	69.2	59.3	77.1	69.3
全国比較	▲5.2	≒	▲4.0	≒

<4年生>

【国語】	関心意欲	話す・聞く	書く	読む	言語
期待値	65.0	60.0	64.0	70.6	70.8
金小	68.1	63.6	64.9	72.1	77.5
全国比較	▲3.1	▲3.6	≒	≒	▲6.7

【算数】	関心意欲	数学的	表現・処理	知識・理解
期待値	55.0	61.6	70.4	62.0
金小	54.4	57.0	67.3	61.4
全国比較	≒	▼4.6	▼3.1	≒

<5年生>

【国語】	関心意欲	話す・聞く	書く	読む	言語
期待値	67.1	71.7	64.5	65.0	73.0
金小	81.2	84.3	81.4	64.3	78.6
全国比較	▲14.1	▲12.6	▲16.9	≒	▲4.6

【算数】	関心意欲	数学的	表現・処理	知識・理解
期待値	60.0	62.1	71.9	68.4
金小	60.6	62.5	81.4	72.1
全国比較	≒	≒	▲9.7	▲3.7

<6年生>

【国語】	関心意欲	話す・聞く	書く	読む	言語
期待値	73.6	78.3	72.0	70.6	75.2
金小	82.1	91.0	76.0	77.1	73.5
全国比較	▲8.5	▲19.2	▲4.1	▲6.5	≒

【算数】	関心意欲	数学的	表現・処理	知識・理解
期待値	52.0	62.1	70.1	64.8
金小	63.8	62.7	73.3	60.5
全国比較	▲11.8	≒	▲3.2	▼4.3

※ H23年度は「全国平均値」が記載されていないため、「期待値」で比較した。

平成24年度

<1年生>

【国語】	関心意欲	話す・聞く	書く	読む	言語
全国	83.3	87.5	82.2	66.6	92.5
金小	79.8	86.7	76.1	72.5	91.8
全国比較	▼3.5	≒	▼6.1	▲5.9	≒

【算数】	関心意欲	数学的	表現・処理	知識・理解
全国	81.5	75.0	89.6	86.9
金小	80.0	66.0	88.2	84.5
全国比較	≒	▼9.0	≒	≒

<2年生>

【国語】	関心意欲	話す・聞く	書く	読む	言語
全国	85.4	85.8	84.7	74.7	88.8
金小	87.8	90.4	85.7	76.3	87.5
全国比較	≒	▲4.6	≒	≒	≒

【算数】	関心意欲	数学的	表現・処理	知識・理解
全国	67.4	62.4	84.1	75.7
金小	60.6	56.9	80.7	69.9
全国比較	▼7.4	▼5.5	▼3.4	▼5.8

<3年生>

【国語】	関心意欲	話す・聞く	書く	読む	言語
全国	71.7	70.6	68.6	63.1	73.8
金小	79.1	72.8	78.8	69.0	80.3
全国比較	▲7.4	≒	▲10.2	▲5.9	▲6.5

【算数】	関心意欲	数学的	表現・処理	知識・理解
全国	65.9	66.1	77.4	72.1
金小	70.8	69.0	78.6	75.5
全国比較	▲4.9	≒	≒	▲3.4

<4年生>

【国語】	関心意欲	話す・聞く	書く	読む	言語
全国	63.3	60.8	63.1	67.7	72.0
金小	62.3	58.1	59.4	61.4	73.4
全国比較	≒	≒	▼3.7	▼6.3	≒

【算数】	関心意欲	数学的	表現・処理	知識・理解
全国	59.2	64.4	71.1	63.1
金小	44.6	53.1	61.2	54.4
全国比較	▼14.6	▼11.3	▼9.9	▼8.7

<5年生>

【国語】	関心意欲	話す・聞く	書く	読む	言語
全国	71.6	75.9	70.6	65.5	74.0
金小	72.5	83.8	69.0	66.7	75.3
全国比較	≒	▲7.9	≒	≒	≒

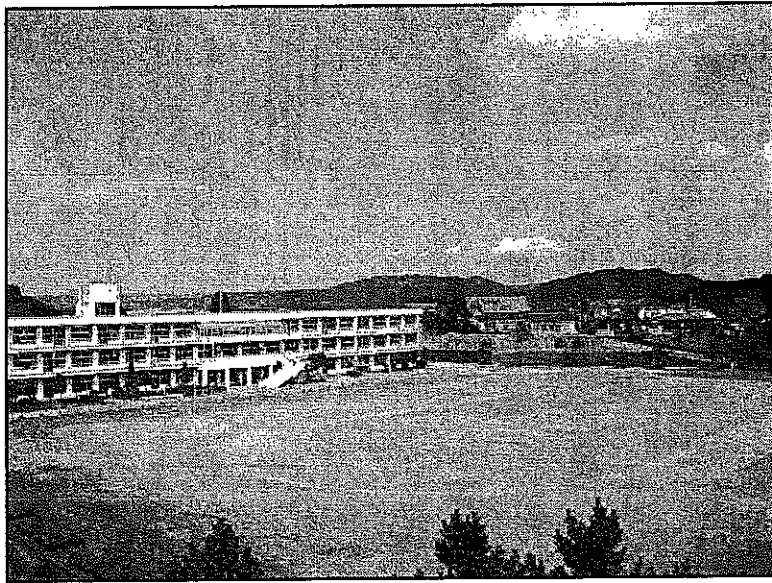
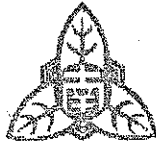
【算数】	関心意欲	数学的	表現・処理	知識・理解
全国	57.3	58.6	73.8	65.7
金小	65.9	65.9	79.5	69.4
全国比較	▲8.6	▲7.3	▲5.7	▲3.7

<6年生>

【国語】	関心意欲	話す・聞く	書く	読む	言語
全国	77.2	76.4	80.6	73.5	76.3
金小	74.3	65.7	79.9	77.0	75.4
全国比較	≒	▼10.7	≒	▲3.5	≒

【算数】	関心意欲	数学的	表現・処理	知識・理解
全国	61.5	60.8	74.6	64.7
金小	61.1	59.9	79.8	70.8
全国比較	≒	≒	▲5.2	▲6.1

# 大河原南小





〔様式 1〕

平成24年度学校における学力向上の取組状況等について

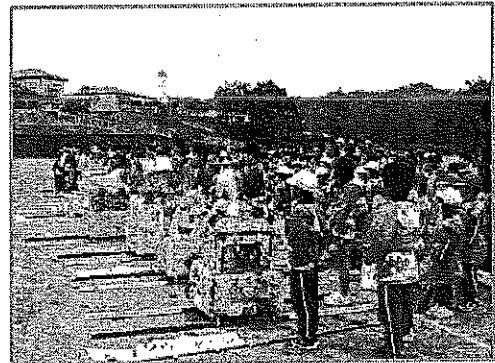
大河原南小学校		職・氏名	教諭・高橋恭子
1. 「学力テスト（年2回）」について			
4 月 テ ス ト			
分 析	課 題	対 応 策	
<p>◇国語</p> <p>・全学年ともほぼ目標値と同程度であるが、6年は、わずかに目標値を超え、2～5年は、わずかに目標値に達していない。</p> <p>◇算数・数学</p> <p>・全学年とも、ほぼ目標値と同程度であるが、5年は、わずかに目標値を超え、2～4年と6年は、わずかに目標値に達していない。特に中学年は「図形」の理解が不十分で、わずかに目標値を下回っている。</p>	<p>◇国語</p> <p>・「書く能力」「読む能力」の向上を目指し、「書く活動」「読む活動」をより工夫して授業の中に取り入れていく。</p> <p>◇算数・数学</p> <p>・「図形」や「量と測定」などでの測定ができるように、一人一人に指導していく。</p> <p>・特に、中学年児童に対して、つまずきに応じた指導をしている。</p>	<p>◇国語</p> <p>・授業の中に、感想や説明など書く活動をより多く取り入れていく。また、データベースの問題を活用していく。</p> <p>◇算数・数学</p> <p>・アタックタイムを活用し、算数への意欲付けを図る。</p> <p>・データベースを活用し、特に、図形の問題に慣れさせる。</p> <p>・習熟度別学習を実施し、一人一人の理解度に応じた指導をしていく。</p>	
成 果 と 効 果	<p>* 1学期に実施したことで、児童一人一人だけではなく、国語と算数に関する学級の傾向をとらえることができただけでなく、2学期以降の指導の参考となった。</p> <p>* 国語では、「書くこと」の領域で課題のある学年が、また、算数では、「図形」の領域で課題のある学年が多いことが分かったので、学級ごとに次回に向けて対策が立てやすくなった。</p>		
1 2 月 テ ス ト			
分 析	課 題	対 応 策	
<p>◇国語</p> <p>・低学年は、目標値を大きく上回り、他の学年も目標値とほぼ同等。一番低い学年も前年度の同時期より向上している。</p> <p>◇算数・数学</p> <p>・全学年とも、目標値とほぼ同等か目標値を上回っており、前回よりも向上。特に、少人数指導を取り入れた3～5年は、他学年より大きく向上している。</p>	<p>◇国語</p> <p>・「書くこと」の領域で成果が上がっているが、「話すこと・聞くこと」の領域での達成率が低い。</p> <p>◇算数・数学</p> <p>・特に「数と計算」の立式の決定や「量と測定」での操作活動で、一人ですべてまで課題に取り組みせていく。</p>	<p>◇国語</p> <p>・国語に限らず、普段の授業の中で、相手の話をきちんと聞く態度を育てていく。</p> <p>◇算数・数学</p> <p>・教えてもらうだけではなく、一人で問題に取り組むことができるよう意欲付けをはかり、今後ともデータベースを活用していく。</p>	
成 果 と 効 果	<p>* 1～6年の12教科中11教科で、目標値とほぼ同等か目標値を上回ることができた。</p> <p>* 前年度と比較して、2～6年の10教科中8教科で前年度を超えることができた。</p> <p>* 家庭学習（学年×10分+10分）に取り組んでいる児童が、目標値の80%を超え、87%に達した。また、算数の授業が「楽しい」と答える児童が、目標値の70%を超え90%に達した。</p>		

〔様式2〕

平成24年度学校における学力向上の取組状況等について

大河原町立大河原南小学校	職・氏名	教諭・高嶋 美香
2. 「データベース（東京書籍）」について		
(1) 取組状況〔活用方法〕		
・各学年の学習単元に合わせて、定着問題、習熟問題、家庭学習に取り入れるようにしてきた。また、アタックタイム（学力向上の取組）の問題として活用した。		
(2) 成果		
・ドリル、たしかめ、フォローアップなど、児童の習熟度に合わせてプリントを使用できるので、個々に合った学習ができ、定着が深まる。家庭学習に使用することで、家庭学習が習慣化してきた。繰り返し何度も使えるところも学習内容の定着につながっている。		
(3) 課題		
・算数は活用場面が多いが、それ以外の教科では、内容的に使いづらい面がある。特に、国語のプリントは言語事項のプリントが多く、読み取りの習熟などには使えなかった。		

もがり祭



和太鼓の演奏

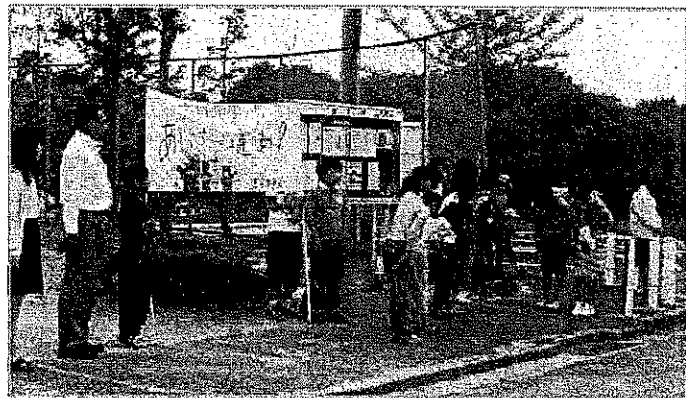
〔様式3〕

平成24年度学校における学力向上の取組状況等について

大河原町立大河原南小学校	職・氏名	教諭・高嶋 美香
3. 「家庭学習の手引き」について		
(1) 取組状況〔活用方法〕		
・4月の懇談会で各学年において「家庭学習の手引き」について説明したあとに配布した。児童は毎日プリントばさみとして活用し、いつも見ることができるようにしている。		
(2) 成果		
・毎日目にするので、家庭学習の意識づけとなった。また、保護者にとっても声かけをする時の参考になった。結果、各学年においての家庭学習の定着、学習時間の確保につながった。		
(3) 課題		
・「家庭学習の手引き」を自校化すると、クリアファイルとしての役目だけになってしまった。手引きは町の基本的な考え方としてとらえ、自校化したあとに配布した方が良い。より家庭学習に取り組みやすくするために、具体的な取組の紹介の仕方を工夫していきたい。		



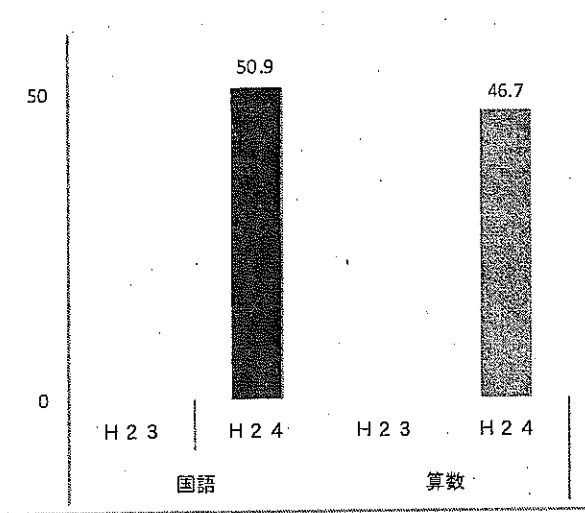
走れ！南小（体カづくり）



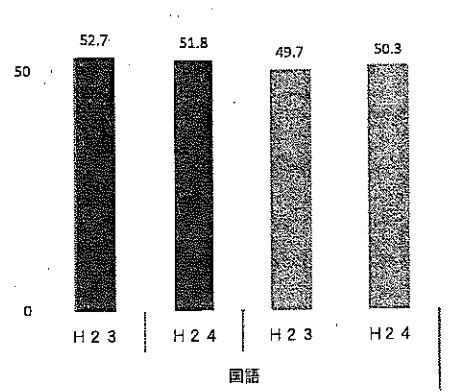
あいさつ運動

※過去3年間の同一集団の経年比較

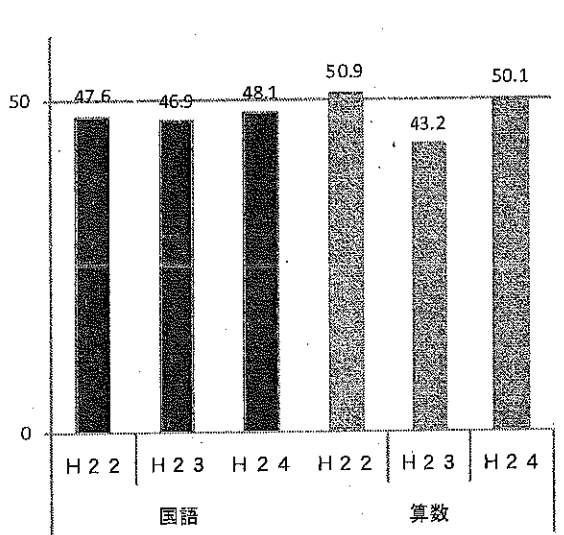
※全国値の正答率を50とした場合



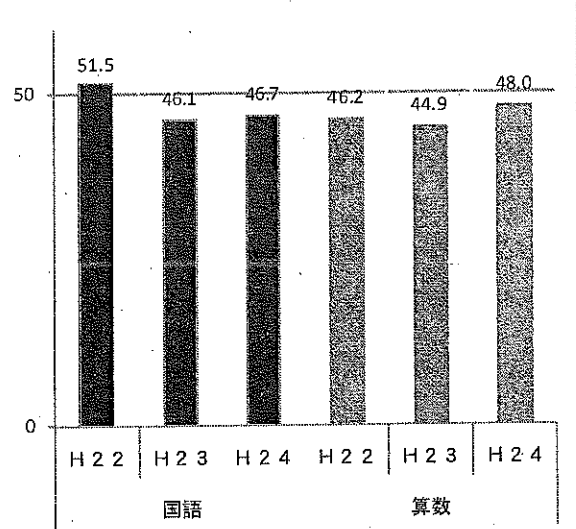
1年(H22,H23年度はなし)



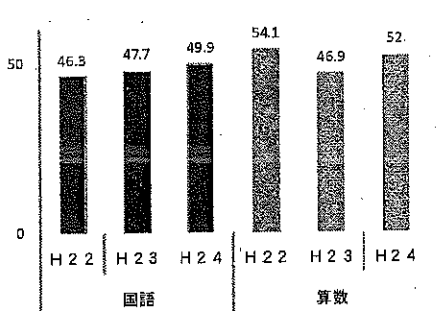
2年(H23年度はなし)



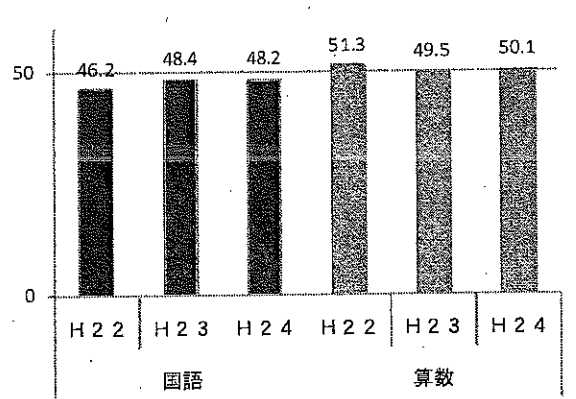
3年



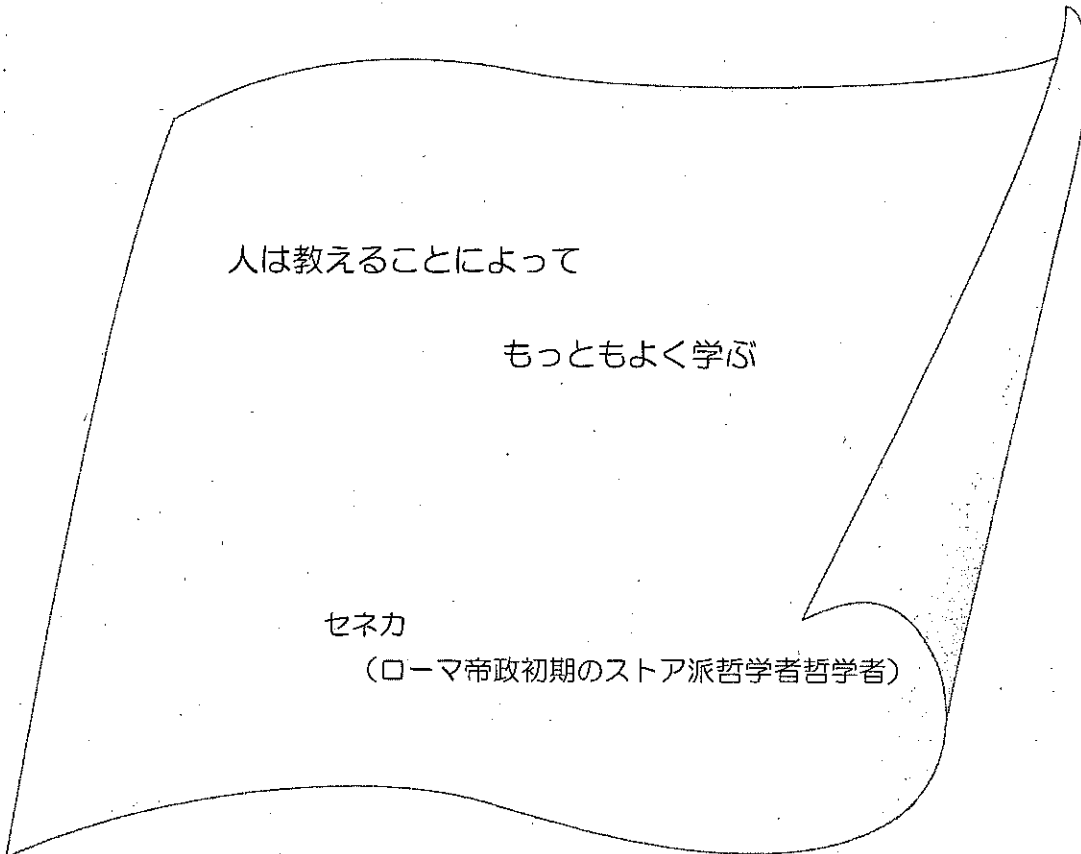
4年



5年



6年



人は教えることによって

もっともよく学ぶ

セネカ

(ローマ帝政初期のストア派哲学者哲学者)

# 《町民憲章》

ここに川がある  
おおらかなやま（川）がある  
ここに道がある  
たくましく未来へ続く道がある  
ここに桜が咲く  
人々が集い心を通わせる桜が咲く  
ふるさと大河原  
いにしえの ねくもりとともに  
青てよう ふれあいの町を

大河原町  
Ogawara Town Public Office



大河原町観光キャラクター  
さくらっき-♡

平成25年度 大河原町学力調査【4月】

# 結果の分析と今後の学力向上策

大河原町立大河原小学校

## 【学力調査の目的】

今年度学習した内容（国語科と算数科）について、児童一人一人の学習到達度を的確に把握し、その実態に応じた指導や授業改善に生かす。

- 児童は、学習した内容がどの程度身に付いているかを把握し、今後の学習の方向を見いだす。
- 教員は、児童一人一人について学習指導要領に示された基礎的・基本的な内容の定着状況を把握し、確かな学力を身に付けさせる指導の改善に生かす。
- 学校は、検査結果の分析を通して結果の要因や学校の課題を明確にし、授業改善を中心とした校内研究に生かす。
- 保護者は、自分の子の学力の実態を客観的に把握し、家庭学習や生活習慣の改善に生かす。

【実施日】 平成25年4月11日(木) 2校時〔国語〕 3校時〔算数〕

【実施学年】 2～6学年 761名  
〔2年 141名、3年 149名、4年 144名、5年 159名、6年 158名〕

- 1 平均正答率と目標値との比較〈基礎データ〉（2ページ）
- 2 学年別の目標値との比較（3ページ）
- 3 領域別の目標値との比較（4ページ）
- 4 基本問題と活用問題における目標値との比較（5～6ページ）
- 5 学年毎の評定分布（7ページ）
- 6 学年・学級毎の分析と対策（8～17ページ）
- 7 今後の成果目標と学力向上策（18ページ）

# 平均正答率と目標値との比較（基礎データ）

〈目標値との比較〉

+5以上

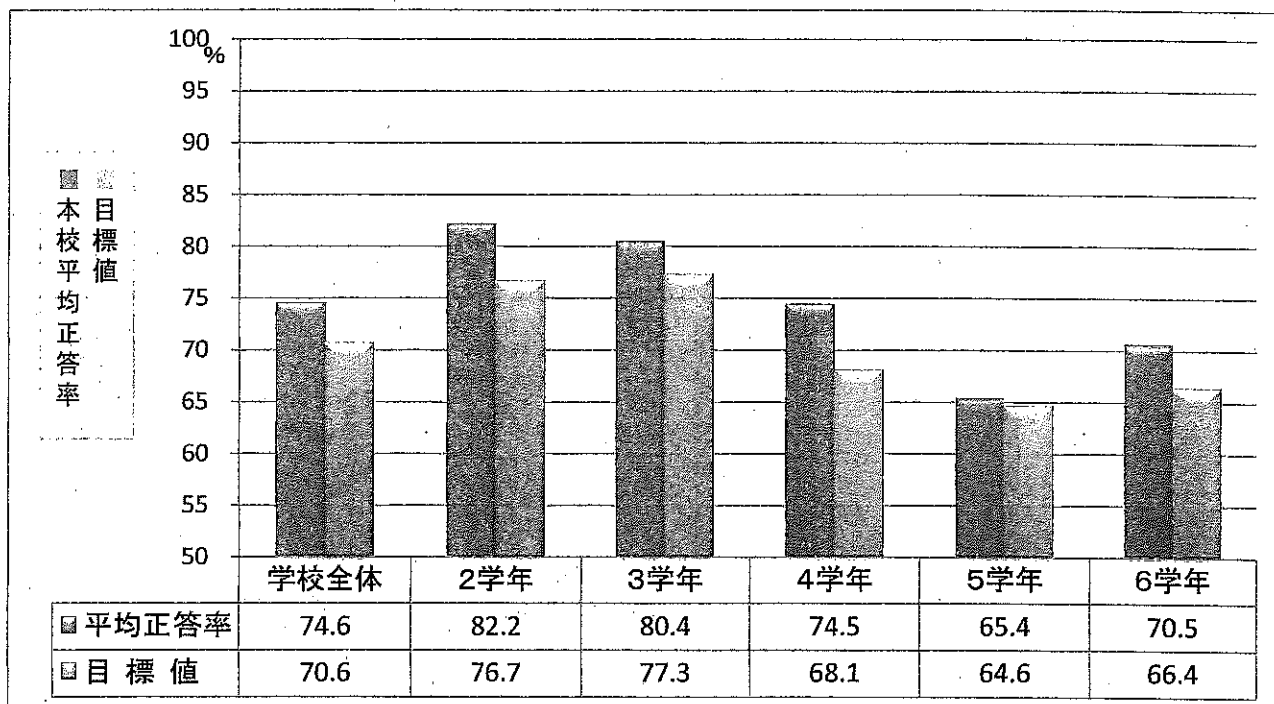
-5以下

		国語	国語領域別				算数	算数領域別			
			話す聞く	書くこと	読むこと	言語事項		数と計算	量と測定	図形	数量計算
2年	平均正答率	82.2	81.5	89.9	73.2	85.2	83.5	83.0	90.0	77.1	
	目標値	76.7	80.0	80.0	71.7	77.7	82.1	81.7	86.3	80.0	
	比較	5.5	1.5	9.9	1.5	7.5	1.4	1.3	3.7	-2.9	
3年	平均正答率	80.4	85.2	89.3	63.8	87.9	75.6	75.8	71.0	81.1	
	目標値	77.3	81.7	83.3	60.6	85.8	72.9	73.8	69.3	73.0	
	比較	3.1	3.5	6.0	3.2	2.1	2.7	2.0	1.7	8.1	
4年	平均正答率	74.5	89.9	78.2	63.9	76.4	74.8	78.4	75.1	79.9	56.7
	目標値	68.1	85.0	65.0	57.5	72.1	69.3	72.6	68.1	73.3	55.0
	比較	6.4	4.9	13.2	6.4	4.3	5.5	5.8	7.0	6.6	1.7
5年	平均正答率	65.4	48.7	75.7	64.4	66.9	67.0	75.3	66.4	43.4	54.7
	目標値	64.6	53.3	61.3	65.6	67.9	64.9	71.4	65.0	52.5	51.4
	比較	0.8	-4.6	14.4	-1.2	-1.0	2.1	3.9	1.4	-9.1	3.3
6年	平均正答率	70.5	65.6	85.4	65.3	70.8	76.6	78.1	76.9	73.0	69.9
	目標値	66.4	65.0	75.0	60.6	68.3	69.7	70.4	69.3	70.0	62.5
	比較	4.1	0.6	10.4	4.7	2.5	6.9	7.7	7.6	3.0	7.4

全校	平均正答率	74.6	74.2	83.7	66.1	77.4	75.5	78.1	75.9	70.9	60.4
	目標値	70.6	73.0	72.9	63.2	74.4	71.8	74.0	71.6	69.8	56.3
	比較	4.0	1.2	10.8	2.9	3.1	3.7	4.1	4.3	1.1	4.1

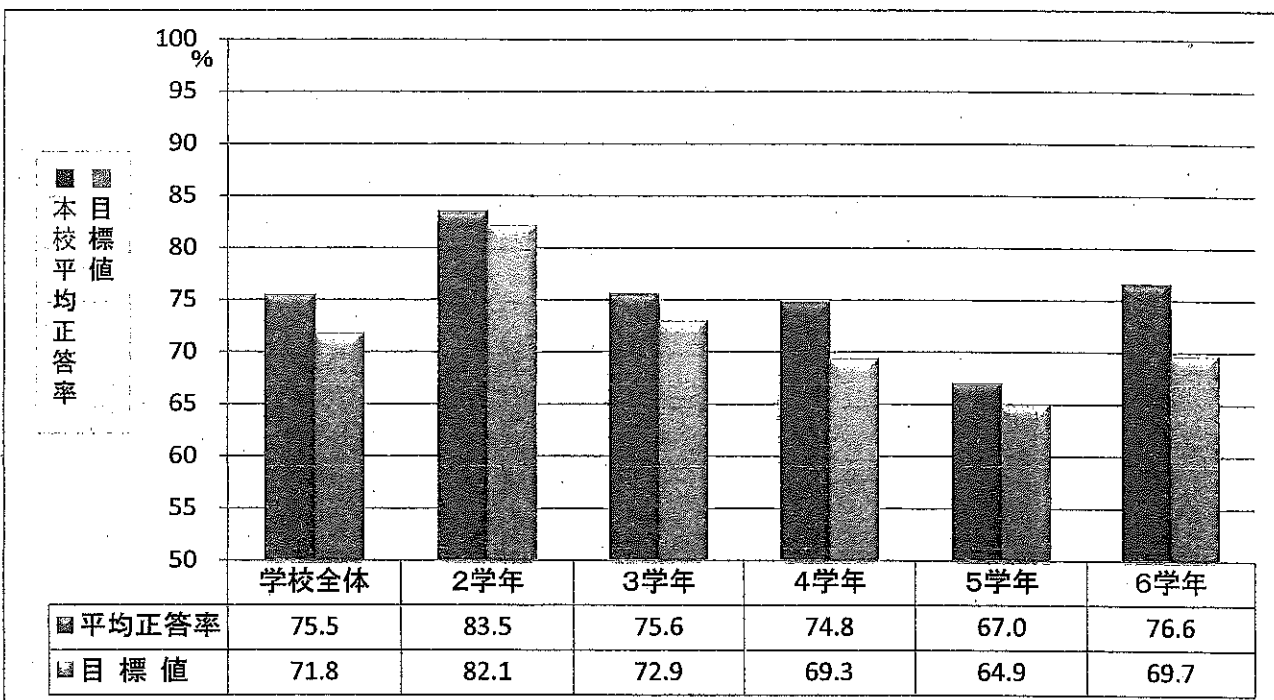


## 国語科【目標値との比較～学年別～】



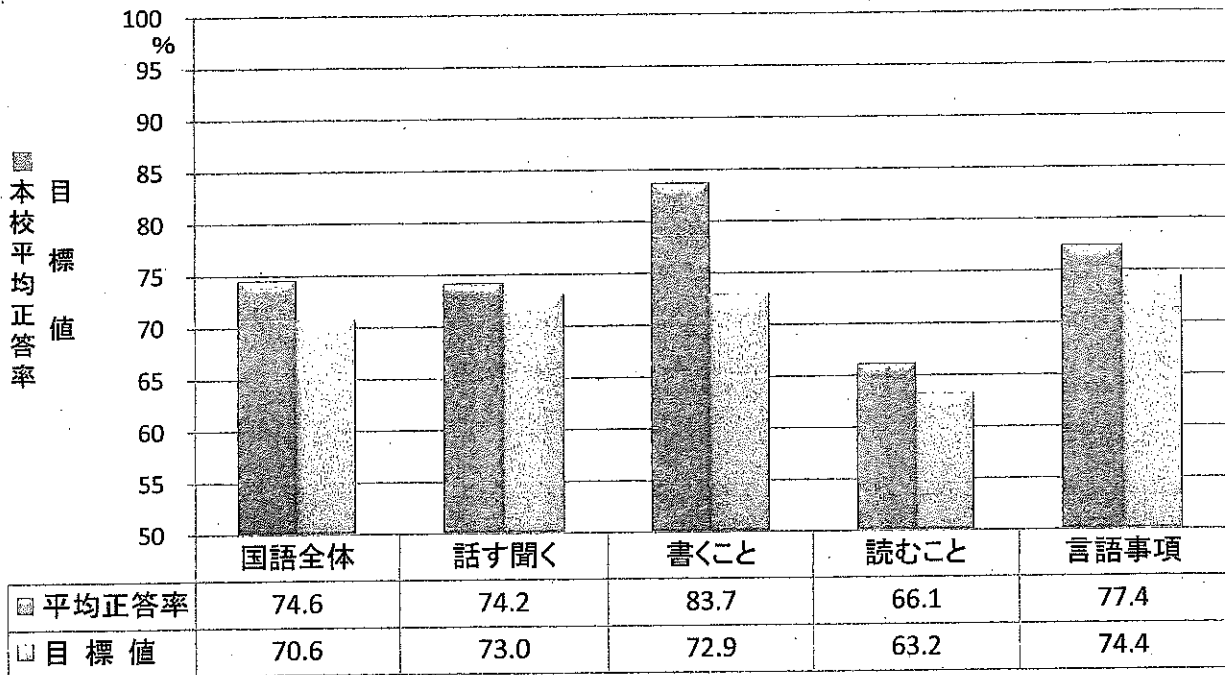
全校の平均正答率が本調査の目標値を4.0ポイント上回る。また、学年毎の比較でも全学年で目標値を超え、国語科の学力は、全校的に良好な状況にあると言える。しかし、5ポイント以上目標値を上回った学年は2学年と4学年のみである。今後、校内研究を柱にして指導の強化を図る必要がある。

## 算数科【目標値との比較～学年別～】



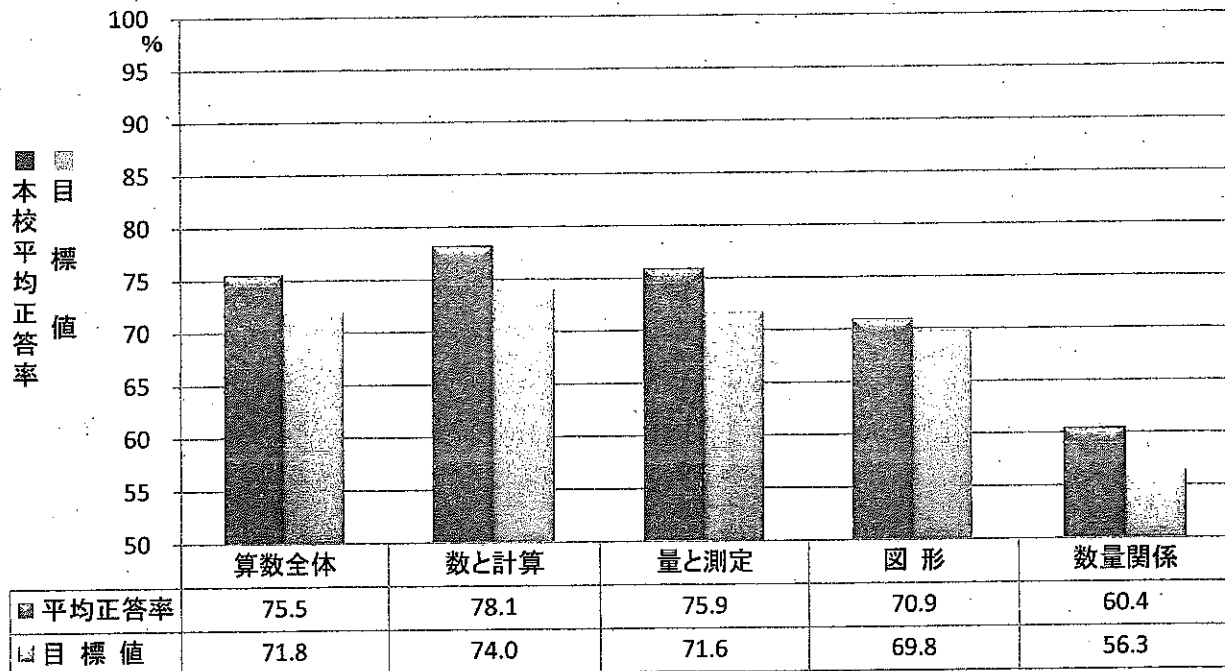
全校の平均正答率が本調査の目標値を3.7ポイント上回る。また、全学年で目標値を超えたことから、算数の学力も良好な状況にあると言える。しかし、5ポイント以上目標値を上回った学年は4学年と6学年のみで、他の学年は目標値を1.4～2.7ポイント超えるにとどまっている。今後、指導の工夫・改善を通してさらなる学力向上を図る必要がある。

## 国語科【目標値との比較～領域別～】



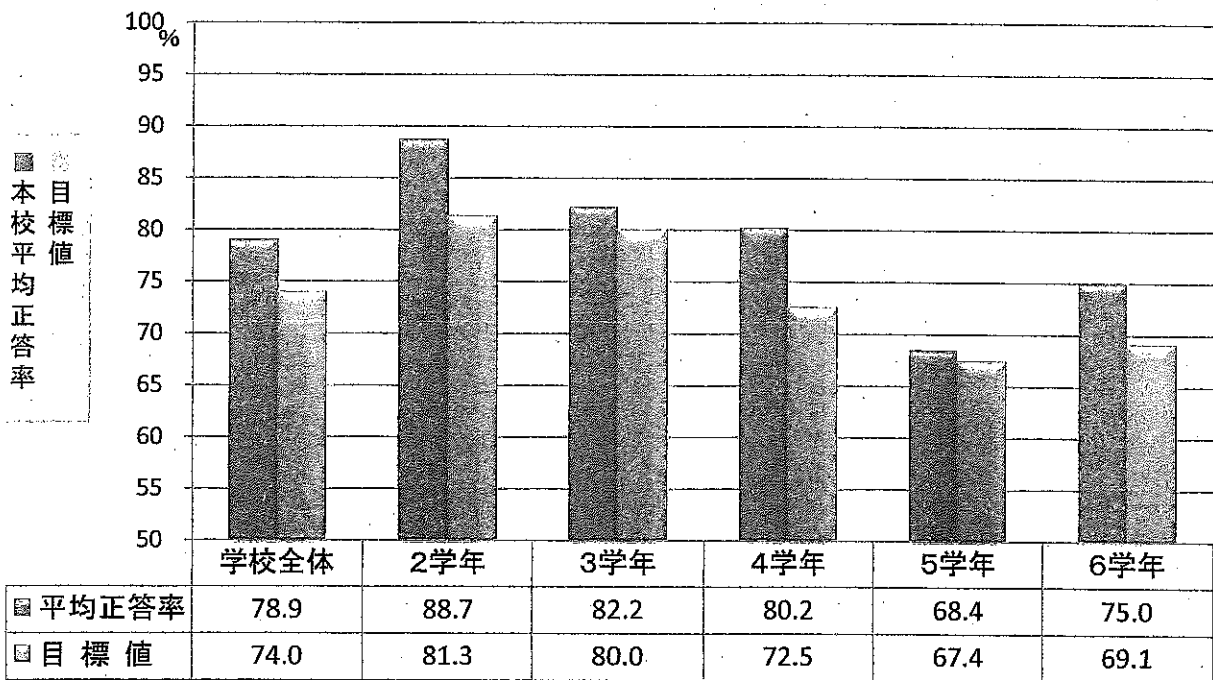
領域別に見ると「書くこと」で目標値を大きく上回っている。また、昨年目標値を下回った「読むこと」は、目標値を2.9ポイント上回ることができ、今年度は全領域で目標値を上回った。今後は、校内研究で取り上げている「読むこと」の領域を中心に指導改善を図りながら、全領域において学力向上を目指す必要がある。

## 算数科【目標値との比較～領域別～】



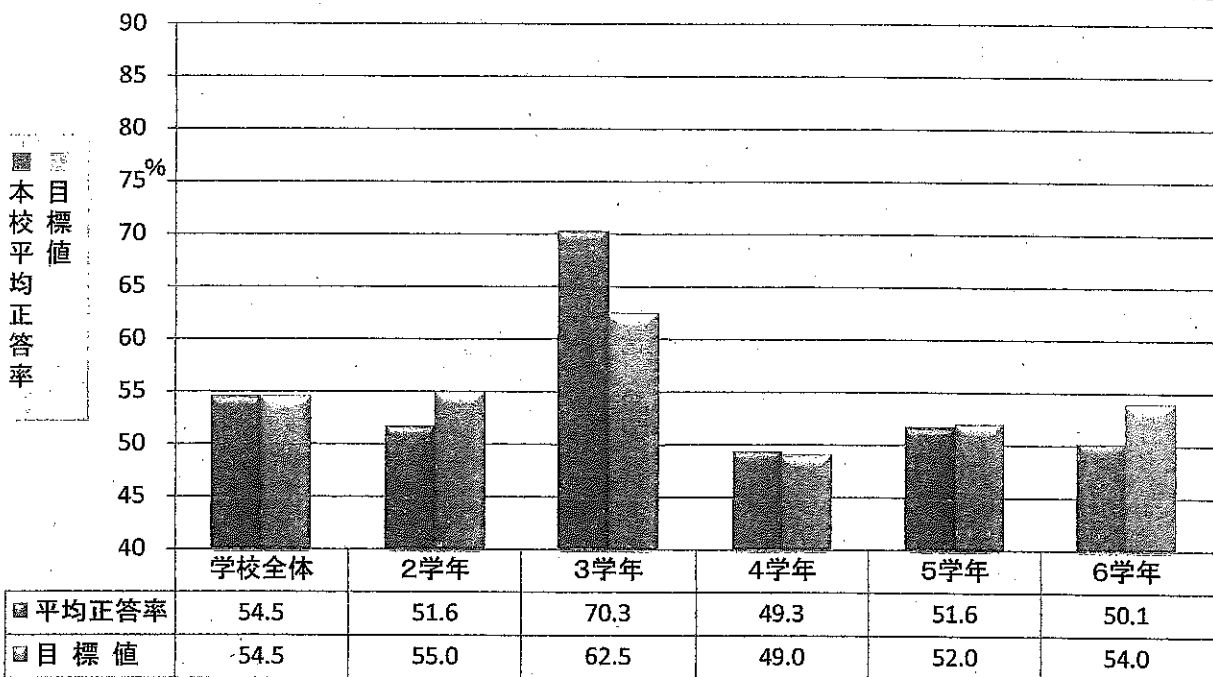
領域別では、全領域で目標値を上回り、算数の学力は安定していると考えられる。特に「数と計算」については、2ページの基礎データを見ると、学年があがるにつれて目標値との比較ポイントも上昇しており、指導改善の成果が表れている。「図形」では目標値を下回っている学年があるので、つまづいた問題の分析や個に応じた習熟のさせ方などの指導改善が今後の課題になる。

### 国語科【基本の問題における目標値との比較～学年別～】



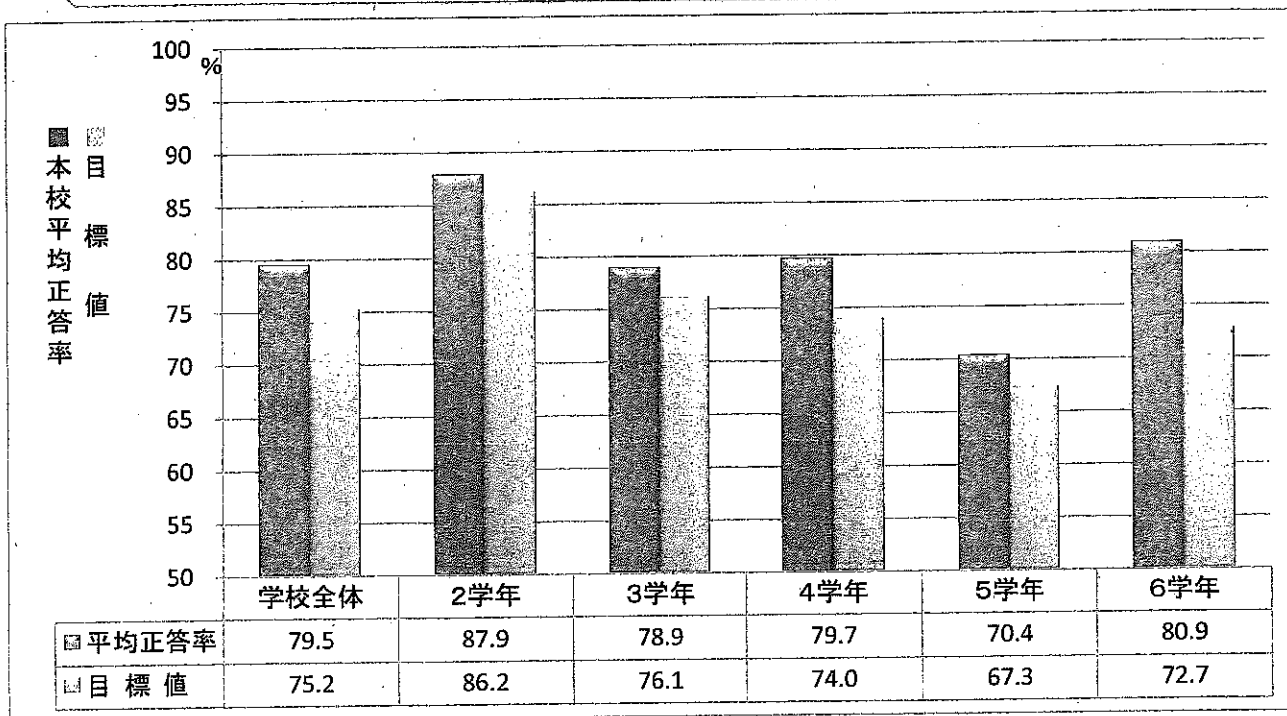
### 国語科【活用の問題における目標値との比較～学年別～】

本調査では、活用の問題を「思考・判断力」「表現力」の2つの指標で測っている。



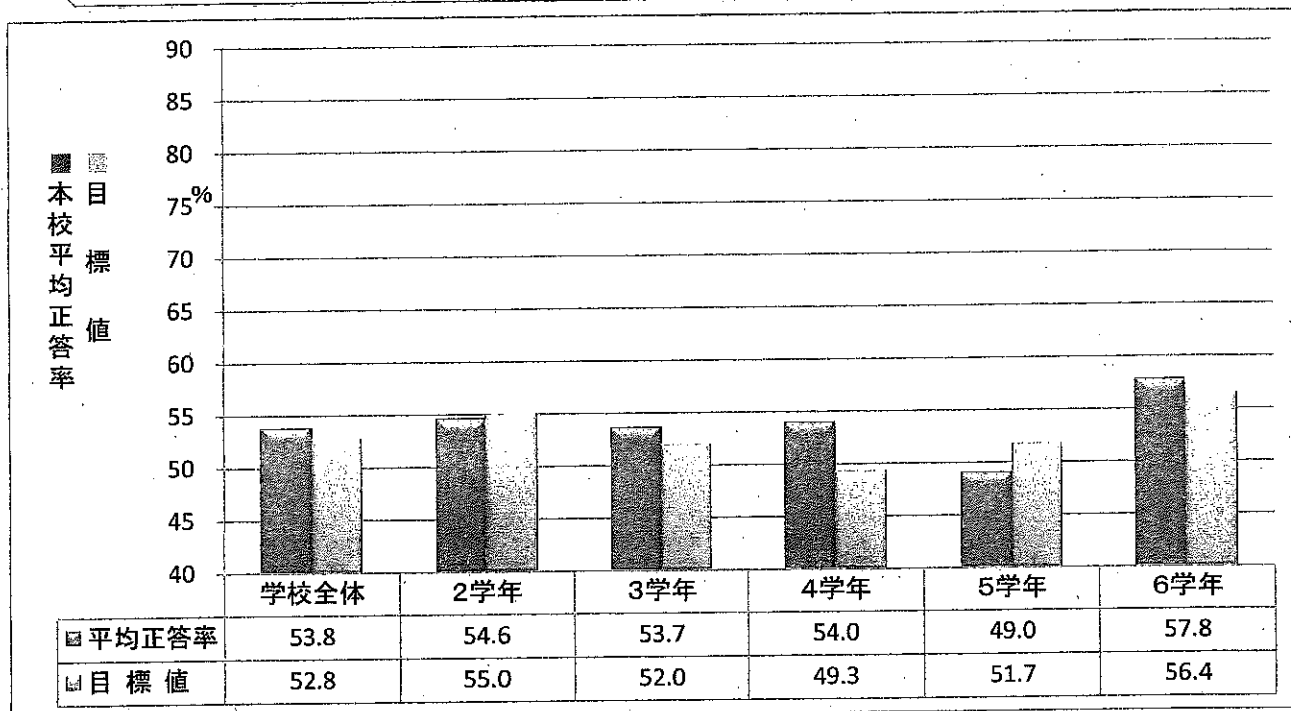
基本の問題については、全ての学年の平均正答率が目標値を上回っている。一方、活用の問題については、3学年が目標値を7.8ポイント上回っているものの、他の学年は目標値と同程度か目標値を下回る結果となっている。特に基本の問題でポイントの高かった2学年と6学年が、活用の問題においてはポイントが低い。本調査の「活用」の問題は、「思考・判断力」と「表現力」の2つの指標に基づいているので、問題の分析を進めながら活用する力を向上させる必要がある。

### 算数科【基本の問題における目標値との比較～学年別～】



### 算数科【活用の問題における目標値との比較～学年別～】

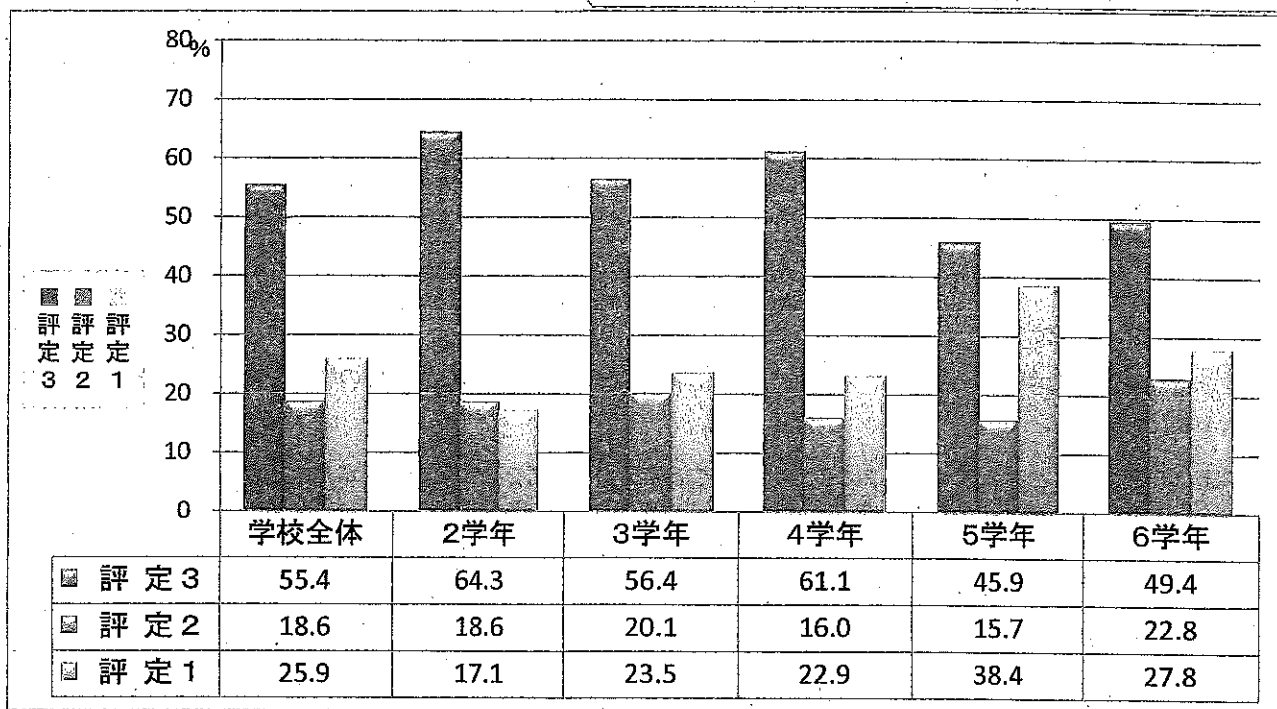
本調査では、活用の問題を「思考・判断力」「表現力」の2つの指標で測っている。



基本の問題については、全ての学年の平均正答率が目標値を上回っている。4学年以上では、目標値を3ポイント以上上回っている。しかし、活用の問題を見ると、学校全体の平均正答率は目標値を上回ったものの、その差は1ポイントと小さい。学年毎でも2学年は目標値を下回っている。国語と同様に活用する力の向上を考えていく必要がある。

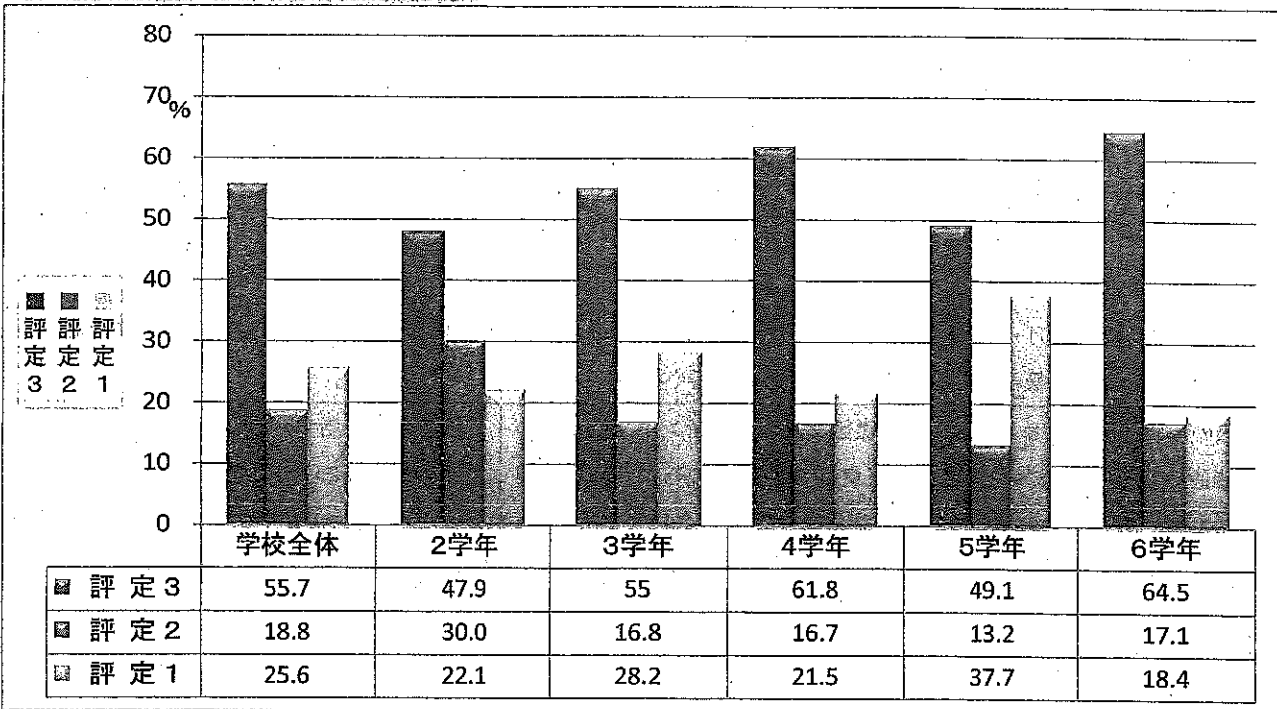
### 国語科〔学年ごとの評定別〕

本調査では、目標値の+5ポイントを評定3、-5ポイントを評定1としている。



評定3の児童は、各学年で45%を上回っている。しかし、評定1の児童も4つの学年で20%を超えており、学校全体としても評定2より評定1の児童が多い状況である。5学年では評定1の割合が学年の1/3を超え、結果の詳細を分析し個に応じた支援や補足的な授業を行う必要がある。

### 算数科〔学年ごとの評定別〕



国語科に比べ全体的に評定3の割合は高く、3つの学年で50%を超えているが、評定1の割合も少なくない。学校全体で見ても、国語科と同じように評定1の児童の割合が評定2を上回っている。算数科に限らず「確かな学力の定着」という視点から考えるならば、評定1の割合を少しでも減少させていく指導の必要がある。

# 第2学年 学力調査（4月）の分析と対策

## 【国語科】

### 学年全体の傾向と学年としての対策

- ・目標値76.7に対して平均正答率が82.2と8.5ポイント上回った。学級間の差は最大で9.7ポイントの開きがあった。
  - ・領域別に見ると、4領域で目標値を上回っているが、「話すこと聞くこと」「読むこと」で1.5ポイントと伸びが小さい。
  - ・問題の内容別に見ると、「物語を読み取る」が-4.3ポイントとなっている。
  - ・教科の達成率は82.9%で17.1%の児童が「評定1」ということになる。
- 学級間の差を縮めるために、学年共通のプリントを作成し指導に当たる。放課後の個別指導の時間を確保し、評定1の児童を引き上げていきたい。
- 読解力の基礎は音読であると考え。授業中に音読や教材文を視写する時間を確保したり「がんばりカード」で家庭と連携を図ったりすることによって、読む力を伸ばしていきたい。
- 朝読書の時間を中心として読書に対する関心を高め、読書を習慣づけていきたい。

	各学級における「重点課題」	「課題解決」の具体策
1組	昨年度同様、今回も学級正答率は低く、75.9%である。「評定1」の児童は、10名おり、標準偏差は18.27%と散らばりの度合いが高い。文意を理解しないための誤答や無回答もある。そんな中でも、「漢字の読み・書き」については正答率は目標値を上回っている。しかし、「ことばのきまり・物語の読み取り」が目標値を大きく下回っている。	学習へ対する意欲を高め、「話を聞く力」「自分の考えを話す・書くなどの表現力」を日常的に高めていくことから指導している。学習の進め方を示し、受け身の学習から自分から進んで学ぶ姿勢を強め、基礎・基本の確実な定着を図る。
2組	学級の平均正答率は81.7と目標値よりも5ポイント上回ったが、「評定1」の児童は5名いる。内訳は60%以上70%未満が4名、30%以上40%未満が1名である。これらの児童が苦手としている設問は「話を聞き取る」「物語や説明文を読み取る」「言葉のきまりを読み取る」であった。学級の傾向としてもこれらの設問を苦手としている児童は少なくない。	文章を読むことを習慣づけていきたい。具体的には、授業中や家庭学習での音読や視写の時間を確保し、文章をしっかりと読むことを習慣づけていきたい。また、教師の話や友だちの発表をよく聞くなど、「聞くこと」についての指導をこれまで以上に徹底していきたい。
3組	学級の平均正答率は85.6%と目標値を8.9ポイント上回っている。目標値を下回った児童が5名いる。目標値を下回った児童を観点別の正答率で見ると、「読む能力」と「書く能力」が目標値から大きく下回っていることが分かった。学級の平均正答率で見てもあまり高くない。	学習中の個別支援として、机間指導の際に重点を置いて声がけをしていく。 日記や感想文へ取り組ませ、文章を書く力を身に付けさせる。
4組	学級の平均正答率は85.2%と目標値を8.5ポイント上回っている。達成率は92.9%で評定1の児童は2名おり、そのうち1名が40%未満である。内容的に見ると、「話を聞き取る」「物語を読み取る」の正答率が低い。また観点別でも「話す・聞く能力」は他の領域に比べ目標値との差が少なく、これらが本学級の課題であると言える。	授業の中で話す・聞く場面を多く取り入れ、力を高めていけるように工夫していく。また国語だけでなく、他の授業や普段の生活の中でも自分の考えを話す力や話をしっかりと聞き取る力を高めていけるようにする。
5組	目標値より6.2ポイント上回っているが、市町村の平均正答率より0.3ポイント下回っている。校内平均より下回っているのは、「話を聞きとる」「漢字を書く」「説明文を読み取る」の問題であった。教科の評定別人数比で1の児童は17.9%で、1の児童に対する支援が必要である。	正確に読み取ることが課題であり、ふだんの授業から正確な読み取りを意識した指導が必要である。また、漢字のテストの結果をもとに、個別に漢字練習をするなど習熟するように支援する。

# 第2学年 学力調査（4月）の分析と対策

## 【算数科】

学年全体の傾向と学年としての対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値82.1に対して平均正答率が83.5と1.4ポイント上回った。学級間の差は6.6ポイントであった。</li> <li>・領域別に見ると「図形」が2.9ポイント目標値より下回っている。</li> <li>・問題別に見ると、「120までの数」(−0.7)、「かたち」(−2.9)の2つで下回った。「数と計算」領域では目標値を上回ったが、計算が得意である反面、数のしくみについての理解に課題があることが分かった。</li> <li>・教科の達成率は77.9%で、22.1%の児童が「評定1」ということになる。</li> </ul> <p>○定着の図られていない1年生の学習内容について復習プリントを作成し、計画的に指導を行う。</p> <p>○図形の指導においては、操作活動を取り入れることによって実感的に理解させる。</p> <p>○評定1の児童については放課後の個別指導の時間を確保し、1年生の学習内容を確実に定着させる。</p>		
	各学級における「重点課題」	「課題解決」の具体策
1組	<p>昨年同様、国語科とともに学年正答率は79.0%と目標値を下回っている。「評定1」の児童は昨年より2名減の8名となっている。「引き算と長さ」の正答率は目標値を上回っているが、「大きな数・時計・形」の正答率は、他の学級より10%も低い。無回答や求めている解答に合わない解答をしている児童もいて、文意を読み取る力が育っていないことがうかがえる。</p>	<p>国語科と同様「評定1」の児童に対する重点的な指導が急務である。1学年で学習した足し算・引き算の基本を操作活動に頼らずにできるようにさせることや繰り返し多くの問題に当たらせ正確さや速さを身につけさせたりしていくことに取り組んでいる。</p>
2組	<p>学級の平均正答率は84.3で目標値を2.2ポイント上回った。達成率は77.8で「評定1」の児童は6名である。内訳は70%~80%が4名、60%~70%が1名、10%~20%が1名である。これらの児童が苦手としている設問は「120までの数」「たし算・ひき算」「図形」である。学級全体として「図形」「たし算」を苦手としている児童が多い。</p>	<p>たし算やひき算の計算プリントを用意し、放課後指導や家庭学習で定着させていきたい。図形については色板を使っての操作活動を行うことで、実感的に理解させていきたい。評定1の児童については、放課後の個別指導の時間を確保していきたい。</p>
3組	<p>学級の平均正答率は84.7%と目標値を2.6ポイント上回っている。目標値を下回った児童が10名いる。そのほとんどは目標値から大きく下回っていないが、到達度50%未満の児童が1名いる。観点別正答率で見ると、「数学的な考え方」が目標値の−1.7と目標値を下回っており、これが本学級の課題であると言える。</p>	<p>操作活動などの算数的活動を授業の中で多く扱うことで、加法や減法の意味についての理解、量の感覚を身に付けさせる。放課後の個別指導を行う。既習の単元でも、繰り返し宿題に出すなどして定着を図る。</p>
4組	<p>学級の平均正答率は84.2%と目標値を2.1ポイント上回っている。達成率は78.6%で、評定1の児童は6名おり、そのうち1名が60%未満、40%未満も1名いる。内容別に見ると、「120までの数(−0.8)」「かたち(−1.4)」が目標値を下回り、観点別に見ると、「数量や図形についての知識・理解」が低い値となっており、これらが本学級の課題であると言える。</p>	<p>操作活動を多く取り入れたり、教具、掲示物を工夫したりすることで、図形の特徴を実感させる。また、定着が低い事項は繰り返し宿題に出して定着を図ったり放課後の個別指導を充実させたりする。</p>
5組	<p>平均正答率は85.6で目標値を3.5ポイント上回ったが、全国平均より0.3ポイント下回っている。問題の内容では、特に数と計算の領域が3.8ポイント下回っており、「たし算・ひき算」の計算の正確さが課題である。また、「時計」が目標値より2.1ポイント下回っており、時計の読み方が身に付いていない児童が多い。</p>	<p>計算の正確さを身に付かせるために、計算問題を繰り返して取り組ませている。また、検算をすることを指導して計算ミスを少なくさせる。時計については、時刻・時間の違いを押さえて指導し、実生活で活用する場面をつくり、身に付かせる。</p>

## 第3学年 学力調査(4月)の分析と対策

## 【国語科】

学年全体の傾向と対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値77.3に対して平均正答率80.4と3.1ポイント上回った。学級間の差は最大2.4ポイントである。</li> <li>・全ての領域・観点で目標値を上回っているが「言語事項」の平均正答率が他の観点に比較するとやや低い傾向にある。</li> <li>・問題の内容別に見ると「言葉の学習」や「物語の内容を読みとる」を苦手としている児童が多い。</li> <li>・教科の達成率は76.5である。23.5%の児童が「評定1」ということになる。</li> </ul> <p>○「評定1」の児童を引き上げるため授業中指導を配慮したり、放課後に個別指導したりする。</p> <p>○理解の低い内容は、学年で共通の問題プリントを印刷して家庭学習などで活用していきたい。</p>		
	各学級における「重点課題」	「課題解決」の具体策
1組	<p>学級の平均正答率は81.8と目標値よりも4.5ポイント上回っている。また、学年の正答率80.4よりも1.4ポイント上回っている。しかし、高い得点を取った児童がいる反面目標値の77.3に到達していない児童が12人もいる。それらの児童は特に読む能力と書く能力に課題があるということが分かった。</p>	<p>読解力を向上させるために、文章を読み取って書く問題を継続して行い、文章を読んで考える経験を積み重ねる。家庭での音読を引き続き励行し、さらに積極的に読書をするように、家庭にも呼びかけて習慣化させる。また、読み取ったことを自分の言葉でまとめる練習も行う。</p>
2組	<p>学級全体の平均正答率は80.8%で学年平均を上回っているが、目標値を下回った児童は9名おり、そのうち評定1は7名である。全領域において目標値を上回っているが、「言語についての知識・理解・技能」の観点でやや苦手としている。そのことについては、校内平均回答率から0.2ポイント下回っていることから伺える。</p>	<p>授業で国語辞典を積極的に活用し、一般的な意味の理解だけでなく、自分の生活に合わせた具体的な意味を理解できるようにする。読み取りについては、文章に即して内容を丁寧に読み取るなどして、文章内容の読み取りの仕方を指導していく。</p>
3組	<p>学級の平均正答率は79.4と目標値よりも2.1ポイント上回っている。学年の正答率80.4より1ポイント下回っている。目標値の77.3に到達していない児童が14人もいる。領域別では「読むこと」の正答率が低く、「説明文の内容を読みとる」「メモと絵日記を読みとる」の問題に課題があることが分かった。</p>	<p>「読む」「書く」「考える」活動をバランス良く取り入れた授業作りを目指し読解力を高める。評定1の児童への個別指導を授業や放課後の時間を活用して行う。</p>
4組	<p>学級平均正答率は79.5%で目標値を2.2ポイント上回っている。しかし、学年の正答率80.4よりも0.9ポイント下回っている。目標値を下回った児童は15名もいる。領域別では「書くこと」「読むこと」「言語事項」が目標値を上回っているのに対し、「話すこと・聞くこと」が0.6ポイント下回った。要点を押さえて話を聞いたり書いたりすることに課題があることが分かった。</p>	<p>大事なことを落とさずに最後まで聞き取りをさせるようにしていく。5W1H等の情報を選択して読み取る学習活動や日記等のミニ作文に定期的に取り組み、重要な情報を聞き手に分かりやすく伝えることを意識して話す活動、また文章を書く活動にも慣れさせる。</p>



## 第3学年 学力調査(4月)の分析と対策

## 【算数科】

学年全体の傾向と対策		
<p>・目標値72.9に対して平均正答率75.6と2.7ポイント上回った。学級間の差は最大5.2ポイントである。</p> <p>・全ての領域・観点で目標値を上回っているが「量と測定」の平均正答率が他の観点に比較するとやや低い傾向にある。</p> <p>・問題の内容別に見ると「長さ・かさ」や「時刻と時間」を苦手としている児童が多い。</p> <p>・教科の達成率は71.8%である。28.2%の児童が「評定1」ということになる。</p> <p>○1の段階の児童を授業中指導を配慮したり、放課後に個別指導したりする。</p> <p>○少人数指導により学級の実態や学習内容に応じて工夫し、指導を行っていく。</p> <p>○理解の低い内容は、学年で共通の問題プリントを印刷して家庭学習などで活用していきたい。</p>		
	各学級における「重点課題」	「課題解決」の具体策
1組	<p>学級の平均正答率は75.9と目標値よりも3.0ポイント上回っている。また、学年の正答率75.6よりもわずかではあるが、0.3ポイント上回っている。しかし、正答率が80%以上の高い得点を取った児童が18人もいる反面、目標値の72.9に到達していない児童が15人もいる。その中でも正答率が60%以下の低い得点を取った児童は6人もいた。領域別では「量と測定」の正答率が低く「長さやかさ」の問題に課題があることが分かった。</p>	<p>定着が図られていない領域においては、定義や基本に立ち返って指導をする。また、形成プリントによる反復学習で基礎・基本の着実な定着を目指す。目標値を下回って不安に感じている児童には、放課後などに個別指導の場を定期的に設けて、指導を充実させる。</p>
2組	<p>学級全体の平均正答率は78.5で目標値72.9を5.6上回っているが、目標値を下回った児童は10名おり、そのうち評定1は9名である。全領域において目標値を上回っているが、「数学的な考え方」の観点が苦手である。また、複雑な計算・活用的な事項で精度が落ちることが課題である。</p>	<p>問題解決方法を考えたり、文章問題を解いたりする学習を強化する。評定1の児童に対する個別指導を行う。</p>
3組	<p>学級の平均正答率は74.7と目標値よりも1.8ポイント上回っている。学年の正答率75.6より0.9ポイント下回っている。正答率80%以上の高い得点を取った児童が19人もいる反面、目標値の72.9に到達していない児童が9人いる。その中でも正答率が60%未満の児童は5人もいた。領域別では「図形」の正答率が低く、「三角形と四角形」の問題に課題があることが分かった。</p>	<p>図形の楽しさを感じ取ることができるよう学習を進め、図形に対する苦手意識をなくす。算数が不得意と感じている児童に対しては、放課後などに個別指導をしていく。</p>
4組	<p>学級の平均正答率は73.3%と目標値をやや上回っているが、学年の正答率75.6を2.3ポイント下回った。目標値を下回った児童は18名いる。領域別では「知識・理解」が目標値を2.8ポイント上回っているが、他の領域はすべてわずかに下回っている。基礎的な計算については概ね良好だが、複雑な計算や活用的な事柄になると精度が落ちる傾向があり、「時刻と時間」に関しては課題があることが分かった。</p>	<p>桁数が多い計算は、筆算の原理や手順について既習事項を確認しながら丁寧に指導する。宿題プリントで既習内容に繰り返し取り組ませ、基礎・基本を確実に身に付けさせるとともに、放課後に個別指導を行う。また、時刻や時間を意識させるような声掛けを行う。</p>

## 第4学年 学力調査（4月）の分析と対策

### 【国語科】

#### 学年全体の傾向と学年としての対策

- ・ほとんどの項目で目標数値を大きく上回っている。本校における達成率もほとんどの項目で、75%を超えており、数値的には概ね満足できる状況である。学級間でのポイント差は4.9%の開きがみられた。
- ・達成率では「目的や必要に応じて文章の内容を読む力」や「言語事項」において課題がみられ、個人差も大きい。音読や漢字、言語事項について著しくつまずきがみられる児童も各学級2～3名程度みられる。
- 読書活動の推進やスピーチ活動を日常的な活動として取り入れることで文章に親しませるとともに文脈に即した内容理解の力を育成する。
- ・国語の学習では、文章の主述関係をとらえさせ、言葉に着目させた読み取りを強化していく。また、読解のスキル学習の時間を設定し、読み取りに必要な知識と基礎的技能を定着させていく。

	各学級における「重点課題」	「課題解決」の具体策
1組	学級全体の平均正答率は71.0%で学年平均を3.5ポイントほど上回っている。9割以上到達している児童が4名いる一方、平均到達度の目標値(68.1)に達していない児童が12名、その中でも50%以下の児童が4名いた。観点別では5観点とも到達度が学年平均を下回った。	話をしっかり聞くことを重点に、自分の考えを理由を入れてノートにきちんと書くことを徹底して取り組ませる。自主学習の工夫などもしていく。課外での個別指導の場を設けて底上げを図る。
2組	学級全体の平均正答率は75.6%で学年平均を1.1ポイントほど上回っている。9割以上到達している児童が4名いる一方、平均到達度の目標値(68.1)に達していない児童が8名、その中でも50%以下の児童が1名いた。観点別では「話す・聞く」「読む」3観点で到達度が学年平均を若干下回った。	自分の考えや思いなどを根拠立てて伝えられるよう、書く活動の時間を授業の中で保障していく。授業以外では、日直によるスピーチや、今日の振り返りなど、日常的な取り組みを充実させていく。
3組	学級全体の平均正答率は75.9と目標値より1.4ポイントほど上回っている。9割以上到達している児童が4名いる一方、平均到達度の目標値(68.1)に達していない児童が9名、その中でも50%以下の児童が1名いた。観点別では、5観点で到達度が学年平均を若干上回った。	語彙力を増やし、文章から正確に読み取れるようにする。読書量を増やすことやさまざまな文章の課題に取り組ませることで、問題形式にも慣れさせながら読み取りの力を高めしていく。
4組	学級全体の平均正答率は75.3%で学年平均を0.8ポイントほど上回っている。9割以上到達している児童が4名いる一方、平均到達度の目標値(68.1)に達していない児童が11名、その中でも50%以下の児童が1名いた。観点別では「関心・意欲・態度」では4.0ポイント、「書く」観点では9.5ポイント下回る結果であった。	課題である「関心意欲態度」については、児童に次時の活動やねらいなどを知らせ、見通しをもたせることで、学習内容に関心をもたせていく。「書く」ことへの課題改善に向けて、日常的に文章を書く機会を多く取り入れ、相互評価や教師の励ましを継続して行うことで、改善を図っていくようにする。

## 第4学年 学力調査（4月）の分析と対策

### 【算数科】

学年全体の傾向と学年としての対策		
<p>・ほとんどの項目で目標数値を上回っており、数値的には、概ね満足できる状態であるといえる。しかし、学級間のポイント差が3.0～5.7%あり、学級の課題に応じた適切な対策が必要である。</p> <p>・本校における達成率では、「数と計算」の領域の数直線の読み取りと計算の仕方を説明する項目、「量と測定」での時こくと時間での数値が50%台と低くなっている。半数近くの児童が未定着となっており、苦手意識をもっている児童も多く見受けられ二極化の進行が考えられる。</p> <p>○定着が図られていない3年生学習内容の復習を単元の導入時や朝のスキルタイム等に計画的に行い理解と定着を図る。</p> <p>○「数と計算」の指導においては操作活動を取り入れたり、「数量関係」には、具体物を活用したりして、視覚的にとらえさせたり、考え方や解き方を文章や図で表現し、説明する場を設定したりして、より実感的な理解を図っていく。</p> <p>○算数支援や放課後の個別指導等の指導形態を取り入れ、理解を確実なものとする。また宿題プリント「ガッツ」を毎日実施し、習熟と定着を図る。</p>		
	各学級における「重点課題」	「課題解決」の具体策
1組	<p>学級全体の平均正答率は72.2%で学年平均を1.6ポイント下回っている。目標値(69.3)を下回っている児童は、13名であり、50%以下の児童が3人であった。領域別では「量と測定」「図形」「数量関係」で到達度が学年平均を下回っている。「時こくと時間」の正答率が60.7、「棒グラフと表」の正答率が27.1と低調であった。</p>	<p>教科書の問題をきちんと指導することと習熟の問題を多くしていき、基礎・基本の定着を図る。児童が興味をもって取り組むように、導入の工夫を行う。課外での個別指導の場を定期的に設けて底上げを図る。</p>
2組	<p>学級全体の平均正答率は74.9%で学年平均とほぼ同等である。目標値(69.3)を下回っている児童は、基礎8名、活用13名であり、50%以下の児童が2であった。領域別では「数と計算」「量と測定」で到達度が学年平均を若干下回っている。計算の仕方や考えの根拠を説明する問題や「棒グラフと表」の正答率が37.8と低調であった。</p>	<p>課外での個別指導の場を定期的に設けて底上げを図る。単元の導入では、既習学習を確認したり、ガッツやドリル等で基礎・基本の習熟と定着を図る。授業では、操作活動を通して、解き方や考え方を表現する場を設けていく。</p>
3組	<p>学級全体の平均正答率は74.4%で学年平均を0.4ポイント下回っている。目標値(69.3)を下回っている児童は11名であり、50%以下の児童は3名であった。領域別では「数と計算」「図形」「数量関係」で到達度が学年平均を若干下回っている。□を使った式や棒グラフと表の正答率が全体の中では低めであった。</p>	<p>目標値を下回っている内容については放課後に個別指導を行ったり、朝の学級の時間に繰り返し練習問題に取り組んだりして定着を図る。また、授業の中で以前に学習した内容を振り返りながら進めるよう配慮し、学習内容を習熟させる。</p>
4組	<p>学級全体の平均正答率は77.9%で学年平均を3.1ポイント上回っている。目標値(69.3)を下回っている児童は8名であり、基礎8名、活用11名であった。50%以下の児童が1名であった。領域別では全領域で学年平均を上回った。問題の内容別評価では、「割り算」の正答率が学年平均を下回った。</p>	<p>割り算に関しては、継続的にドリル学習に取り組みせ、計算力の向上を図っていく。目標値を下回っている児童への配慮・手立てとして、ペア学習や教師との小集団での解決の場を設定するなど、課題の内容によって場設と教師の関わりを工夫していく。</p>

## 第5 学年 学力調査（4 月）の分析と対策

### 【国語科】

#### 学年全体の傾向と学年としての対策

- ・ 目標値64.6に対して、平均正答率が65.4と0.8ポイント上回った。学級間の差は6.9ポイントであった。
- ・ 領域別にみると「話すこと・聞くこと」（-4.6）「書くこと」（+14.4）「読むこと」（-1.2）「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」（-1.0）であった。
- ・ 内容別正答率で目標値よりも低いものは「話合いの内容を聞き取る」（-4.6）「漢字を書く」（-11.7）「言葉の学習」（-4.6）「説明文の内容を読み取る」（-10.6）であった。
- ・ 評定3の児童が45.9%，評定2が15.7%，評定1が38.4%であり、学力の二極化が進んでいる。
- ・ 評定1の児童の底上げが必要である。分かる授業を行い、言葉の学習や文章の読み取りなどの指導を行っていく。
- ・ 家庭との連携を図りながら、音読や漢字練習を充実させる工夫していく。
- ・ 朝読書を基盤として、読書習慣を身に付けさせ、読書に対する関心を高めていく。

	各学級における「重点課題」	「課題解決」の具体策
1組	学級全体の平均正答率は63.0で、目標値の64.6を1.6ポイント下回っている。評定3の児童が18名いる半面、評定1の児童が19名もいる。観点別では話す・聞く能力、読む能力、言語についての知識・理解・技能の3観点が目標値を下回っている。特に読む能力に大きな落ち込みが見られた。	音読の機会を増やすとともに、大事な言葉を見つけたり、それを用いて文章をまとめたりする学習を行っていき読む能力の向上を図る。自他の考えを比較しながら話し合うように指導していく。
2組	学級全体の平均正答率は67.1で学年平均を1.7ポイント上回っている。評定3の児童が18名いる一方、評定1の児童が13名いた。観点別では「話す・聞く」で目標値よりも10.4ポイントも低い結果であった。テキスト全体の構成や主旨を理解する力（統合構成）で目標値から大きな落ち込みが見られる。	音読や読書など様々な文章を読む機会を多くするとともに、文章の構成を理解させる指導を行っていく。自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりするなど、話合いの活動を充実させていく。
3組	学級全体の平均正答率は69.2で、目標値の64.6を4.6ポイント上回っている。しかし、評定1の児童が11人いる。観点別では、「話す・聞く」で、目標値よりも2.4ポイント低い結果であった。さらに、活用の問題では、「表現力」について目標値に到達できなかった。	内容の読み取りと文章構成の理解も図っていく。また、大事な言葉や文に気を付けて読んだり、メモを取ったりできるようにしていく。また、他者との関わりの中で自分の考えを表現できるように指導する。
4組	学級全体においては、目標値の64.6に対して平均が62.3とやや下回っている。観点別では、関心・意欲・態度、書く能力は目標値を約4ポイント上回っているが、その他の3観点（話・聞、読む、言語）は約3ポイント前後下回っている。全体的な基礎基本の力に加え、思考力・判断力、表現力の問題でも、目標値を10ポイント以上下回っていることから「活用する力」についても大きな課題であるといえる。	「話す、聞く、読む」の基礎的な力の向上のために、習熟プリントや授業の中で音読の機会を多くするなど、継続して指導し積み重ねによってその力を高めていく。活用力は、自他の考えを比較するといった学習の習慣化を図り、個々の質を高め広げていくようにする。

## 第5 学年 学力調査（4 月）の分析と対策

### 【算数科】

学年全体の傾向と学年としての対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標値64.9に対して、平均正答率が67.0と2.1ポイント上回った。学級間の差は5.4ポイントであった。</li> <li>・ 領域別にみると「図形」で目標値より9.1ポイント下回った。そのほかの領域では目標値を上回った。</li> <li>・ 基礎的な問題では目標値を3.1ポイント上回ったが、活用的な問題では2.7ポイント下回っている。</li> <li>・ 評定3の児童が49.1%，評定2が13.2%，評定1が37.7%であり、国語同様、学力の二極化が深刻である。</li> <li>・ 評定1の児童の底上げが必要である。習熟度別少人数指導を行い、一人一人の理解に合わせた指導を行っていく。</li> <li>・ 宿題や計算プリントなどを活用して、習熟と定着を図っていく。</li> <li>・ 評定3の児童に対しても文章問題などの活用的な問題に取り組ませていく。</li> </ul>		
	各学級における「重点課題」	「課題解決」の具体策
1組	<p>学級の平均正答率は65.1ポイントで、目標値の64.9ポイントを上回った。しかし、評定1の児童が18名おり、学力が二極化している。下位群の底上げが必要である。領域別にみると、関心・意欲・態度、数学的な考え方が約2～3ポイント下回っている。</p>	<p>基礎基本の定着を図るために、習熟の時間を確保し、ドリルやプリントで反復学習を行っていく。また、習熟度別の少人数指導を活用して、子に応じた指導を心掛けていく。</p>
2組	<p>学級全体の平均正答率は、69.7で、学年平均を2.7ポイント上回った。しかし、目標値を下回っている児童は、基礎問題で15名、活用問題で26人であった。領域別でみると、「関心・意欲・態度」ので目標値を下回った。学習の意欲の向上と、下位群の底上げ必要であると考え。</p>	<p>基礎基本の定着を図るために、ドリルやプリント等で反復学習を行う。少人数指導を活用して、個に応じた指導を心掛けていく。さらに、自力解決や練り合いの時間を保障し、分かる喜びを味わわせていく。</p>
3組	<p>学級の平均正答率は69.0ポイントで、目標値の64.9ポイントを上回った。しかし、評定1の児童が11人であり底上げが必要である。領域別に見ると、「図形」に課題があった。また、「活用」の設問では、半数近くが目標値を下回った。</p>	<p>習熟度による少人数での学習を行ったり、放課後などに個別に指導をしたりしていく。また、スモールステップで確実な定着を目指す一方、応用問題にも取り組ませ、活用力の育成も図っていく。</p>
4組	<p>学級全体においては、目標値の64.9に対して平均が64.3とほぼ目標値に達している。しかし、観点別では、数学的な考え方と関心・意欲・態度は目標値を約3ポイント下回っている。このことから、算数に対する意識、学習への向上が課題としてあげられる部分であると考え。思考力に関しては、2極化の傾向にあることから、下位群に対する配慮が必要であると考え。</p>	<p>「基礎基本の定着」を図るために、継続して適応問題を行ったり、習熟プリントを活用したりしていく。意欲の向上に関しては、少人数指導を十分に活用し、レディネスによってグループ分けをして学習を進め、子どもの実態を配慮した指導を心掛ける。</p>

## 第6学年 学力調査（4月）の分析と対策

### 【国語科】

#### 学年全体の傾向と学年としての対策

- ・目標値66.4に対して平均正答率が70.5と4.1ポイント上回った。基礎が5.9ポイント上回ったのに対し、応用は3.9ポイント下回る結果となった。平均正答率における学級間の差は、7.0ポイントであった。
- ・全ての領域で目標値を上回っているものの、「話す聞く」では、わずか0.6ポイントにとどまっている。なお、「読むこと」は+4.7ポイントであった。
- ・問題の内容別に見ると「言葉の学習」が6.0ポイント下回った。
- ・教科の達成率は72.2で、27.8%の児童が「評定1」ということになる。
- 「評定1」の児童の引き上げが必要である。「学級の時間」等において読解のスキル学習の時間を設定して、読み取りに必要な知識や基礎的技能を定着させていく。
- 言語技能の向上を図った家庭学習の課題を工夫する。
- 校内研究と関連させた授業の改善を行う。目的を明確にした音読の工夫を行うとともに、家庭学習において日常的に音読するようにする。
- 学級間の差が7.0ポイントあるという現状から、学級毎の個に応じた指導の工夫を行う。
- 「朝読書の時間」を基盤として、読書の習慣化を図る。

	各学級における「重点課題」	「課題解決」の具体策
1組	学級の平均正答率は74.9と目標値を8.5ポイント上回っている。学級の達成率は80.0だが、正答率が50%以上60%未満の児童が5名、30%以上40%未満の児童が2名いる。領域別や観点別に見て目標値を下回るものはないが、内容別に見ると「言葉の学習（-1.3）」が目標値を下回っている。	敬語の使い方や漢字の成り立ち、同音・同訓異字の使い分けについて授業の中で触れ、理解を確実にさせる。また、国語辞典を用いた語句の意味調べに継続して取り組み、意味や用例の理解を深めさせる。
2組	学級の平均正答率は67.9と、目標値をやや上回る結果となった。学級の達成率は64.1であった。正答率が60%未満の児童が11名おり、個に応じた指導が必要である。また、論理の展開や前後の文脈を理解する力が劣っていることと、語彙・文法・など言語活動に必要な知識が十分に身につけていないことが課題である。	言語の学習をする単元の授業で、児童が言葉を集めたり、実際に言葉を使って文を作ったりする活動の時間を保証し、理解を深めさせる。敬語の使い方や同音異義語など理解が不十分で合った点をプリントで復習させる。
3組	学級の平均正答率は70.6と目標値を4.2ポイント上回っている。学級の達成率は79.5だが、正答率が50%以上60%未満の児童が6名、30%以上40%未満の児童が2名いる。内容別に見ると、「言葉の学習（-7.6）」が目標値を下回っている。	単元ごとに漢字の成り立ちや同音異義語などについて学習し、理解を深める。また意味調べや漢字の読み取りを定期的に継続して行い、理解を深めさせる。
4組	学級の平均正答率は68.7と、目標値をやや上回る結果となった。学級の達成率は65.0だが、正答率が60%未満の児童が12名いた。また、情報を分類整理し、意味段落を意識して読む力や、論理の展開や前後の文脈を理解する力が特に劣っている。	学力の個人差が大きいので、個に応じた指導が必要である。また、普段の授業で形式段落や意味段落のまとめりに内容を読み取らせたり、接続詞や文末表現などに気をつけて文章を読み取らせたりしていく必要がある。

## 第6学年 学力調査（4月）の分析と対策

### 【算数科】

学年全体の傾向と学年としての対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値69.7に対して平均正答率が76.6と6.9ポイント上回っており、数値的には概ね満足できる状態であるが、学級間の差は7.4ポイントと大きい。また、基礎（+8.2）、活用（+1.4）ともに目標値を上回った。</li> <li>・領域別正答率は、どの領域においても目標値を上回った。</li> <li>・問題の内容別正答率では、どの内容においても目標値を上回ったが、「図形の角・円周」は+0.8にとどまった。</li> <li>・教科の達成率は81.6で、18.4%の児童が「評定1」である。</li> </ul> <p>○個に応じた指導を進めていく。データベースを活用し、学力調査の結果を基に、個々の状況を踏まえた課題に取り組ませる。</p> <p>○月曜の放課後の時間などを活用して補習を行う。問題の内容別評価を基に、目標値を下回っている児童を対象に行うことで、基礎・基本の確実な定着を図る。</p> <p>○授業の進度に応じた宿題プリントを作成し活用することで、習熟と定着を図る。</p>		
	各学級における「重点課題」	「課題解決」の具体策
1組	<p>学級の平均正答率は74.9と目標値を11.9ポイント上回っている。学級の達成率は92.5だが、正答率が20%以上40%未満の児童が3名いる。領域別や観点別、内容別に見て目標値を下回るものはないが、小数の除法における除数と商の大小関係（-2.5）、円を使つての多角形のかき方（-2.5）の設問の正答率が目標値を下回っている。</p>	<p>宿題や「東書ライブラリ」のプリントによる反復学習を行い、理解を確実にさせる。また、正答率が低かった児童に対しては、放課後の個別指導を行い、基礎・基本の定着を図る。</p>
2組	<p>学級の平均正答率は、74.2と目標値を4.5ポイント上回っている。学級の達成率は79.5であった。正答率が60%未満の児童が8名いる。内容別では「分数と小数」「小数の計算」「図形の角・円周」で誤答が目立った。特に図形の問題は全体的に正答率が低く、復習が必要である。</p>	<p>正答率の低い児童に関しては、放課後に個別指導を行い、基礎・基本の定着を図る。学級全体においては、宿題や「東書単元ライブラリ」を活用して、反復学習を行い、計算を正確にできるようにし、確実な内容理解を図る。</p>
3組	<p>学級の平均正答率は、74.5と目標値を4.8ポイント上回っている。学級の達成率は79.5だが正答率が60%未満の児童は5名いる。内容別にみると「百分率とグラフ（-2, 2）」が目標値より下回っている。</p>	<p>グラフの読み取りや小数を百分率に直す学習の復習を継続して行う。また、単元ごとに東書単元ライブラリを活用して、個別に習熟を図ることができるようにする。</p>
4組	<p>学級の平均正答率は、76.1と目標値を6.4ポイント上回っている。学級の達成率は75.0であった。正答率が60%未満の児童が8名いる。内容別では「単位量あたりの大きさ」や「図形の角・円周」で目標値を下回った。</p>	<p>学力の個人差が大きいので、個別指導が必要である。単元ごとに東書単元ライブラリなどを活用して、反復学習を行い、基礎・基本の確実な定着を図る。</p>

## 成果目標と学力向上策

### 成果目標

12月の標準学力調査において、次の数値目標をめざす。

- 1 国語科の校内平均正答率を、目標値のプラス6.0ポイントにする。
- 2 国語科の「読むこと」の領域において校内平均正答率を、目標値のプラス4.0ポイントにする。
- 3 算数科の校内平均正答率を、目標値のプラス5.0ポイントにする。

### 目標達成に向けた学力向上策

学年、学級ごとに全体の傾向と児童一人一人の結果を分析し、特に、正答率の低い内容における補充的な指導、評定1の児童に焦点を当てた個に応じた指導を展開する。

さらに、今回の学力調査の結果と「宮城県学力向上推進プログラム(平成24年3月)」で示された“学力向上対策の3つの柱”を踏まえ、本校の学力向上の具体的な取組を次のように進める。

学力向上対策の柱	目標達成に向けた具体的な取組
(1) 教員の教科指導力の向上	<p>①文章を正しく読み、読みを深めるための授業づくり 国語科の「読むこと」の領域を中心とした校内研究の推進を通して、児童の読解力向上を図る。また、事前検討会において模擬授業を取り入れることにより話し合いを“授業の手だて”に焦点化し、研究の成果を職員で共有しやすくする。</p> <p>②確かな学力をはぐくむ授業改善サイクルの確立 4月と12月の年2回、全校で学力調査を実施し、「調査⇒検証⇒改善⇒調査⇒検証⇒改善」のサイクルによって授業改善、学力向上を図る。</p>
(2) 児童の学習習慣の形成・学ぶ意欲の形成	<p>①よりよい家庭学習習慣の形成 学年毎の家庭学習カードや町研究主任者会で作成した「家庭学習の手引き」を活用し、家庭でのよりよい学習習慣の形成を図る。また、問題ライブラリ(県教委、町事業)の有効活用を進め、学習の定着を図る。</p> <p>②読書習慣の形成 朝の10分間読書や読み聞かせなどの多様な読書活動を通して読書習慣の形成を図る。また、図書館司書や貸出ボランティア、児童の図書委員会の活動を通して図書館教育の充実を図る。</p>
(3) 教育環境基盤の充実	<p>①指導体制の工夫 一部教科担任制(高学年)、算数科の少人数指導(5年)、専科教員による理科の授業(3・4年)など指導体制の工夫を図る。また、月曜日を全学年5校時として放課後に国語や算数の個に応じた支援を行う時間を確保したり、大学生ボランティアによる学習支援の活用を図ったりする。</p> <p>②人とのかかわりを大切にした協働教育の推進 伝統文化教育(国立教育政策研究所指定)をはじめとして、地域の方々と協働した教育活動を展開する。(町学校支援事業の有効活用)</p>



# 結果の分析と今後の学力向上策

大河原町立大河原小学校

## 【全国学力・学習状況調査の目的（文部科学省のホームページより）】

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 【大河原小学校としての取組】

今回の全国学力・学習状況調査と4月11日に実施した町標準学力調査の結果を基に、実態に応じた指導や授業改善に生かす。

【実施日】 平成25年4月24日(水)

【実施学年】 第6学年 158名

- 1 調査結果の概要とこれまでの推移（2ページ）
- 2 〔国語A〕の結果（3ページ）
- 3 〔国語B〕の結果（4ページ）
- 4 〔算数A〕の結果（5ページ）
- 5 〔算数B〕の結果（6ページ）
- 6 結果の分析と活用方法について（7ページ）
- 7 10月以降のの学力向上策《第6学年》（8～9ページ）
- 8 10月以降のの学力向上策《第1～5学年》（10ページ～）  
《作成途中》

【平均正答率】

※青文字はプラス、赤文字はマイナスを表す。

		児童数	平均正答率(%)	全国比	宮城県比
国語A	大河原小学校	153	66.1	3.4	5.3
	宮城県	20,621	60.8		
	全国	1,108,245	62.7		
国語B	大河原小学校	153	48.6	0.8	1.0
	宮城県	20,621	47.6		
	全国	1,108,245	49.4		
算数A	大河原小学校	153	82.9	5.7	6.6
	宮城県	20,621	76.3		
	全国	1,108,245	77.2		
算数B	大河原小学校	153	60.5	2.1	4.0
	宮城県	20,621	56.5		
	全国	1,108,245	58.4		

【本校のこれまでの推移】

年度	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答率	全国比	平均正答率	全国比	平均正答率	全国比	平均正答率	全国比
平成25年度	66.1	3.4	48.6	0.8	82.9	5.7	60.5	2.1
平成24年度	83.7	2.1	54.9	0.7	79.2	5.9	62.2	3.3
平成23年度	79.0		35.3		83.0		47.3	
平成22年度								
平成21年度	68.5	1.4	49.0	1.5	81.8	3.1	53.7	1.1
平成20年度	65.9	0.5	50.1	0.4	72.2	0.0	50.1	1.5
平成19年度	83.3	1.6	64.0	2.0	86.3	4.2	63.6	0.0

※22年度は実施していない。

※23年度は東日本大震災の影響を受け調査が見送りとなったため、各平均は示されていない。(本校では10月に実施)

・以下の集計値は、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。  
※ただし、4月24日に調査を実施していない学校については、4月25日以降6月10日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

**集計結果** ※青文字はプラス、赤文字はマイナスを表す。

	児童数	平均正答率(%)	全国比	宮城県比
大河原町立大河原小学校	153	66.1	3.4	5.3
宮城県(公立)	20,621	60.8		
全国(公立)	1,108,245	62.7		

**分類・区別集計結果** ※数値は正答率(%)を表す。青系は全国平均以上。赤系は全国平均より-5%以上。

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			本校	宮城県(公立)	全国(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	51.0	45.4	43.2
	書くこと	4	58.5	50.1	53.0
	読むこと	3	69.3	60.7	60.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	15	65.5	60.8	62.6
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	1	53.6	42.4	44.9
	話す・聞く能力	1	51.0	45.4	43.2
	書く能力	4	58.5	50.1	53.0
	読む能力	3	69.3	60.7	60.1
	言語についての知識・理解・技能	15	65.5	60.8	62.6
問題形式	選択式	7	72.7	66.9	66.3
	短答式	10	62.7	58.3	61.9
	記述式	1	53.6	42.4	44.9

**設問別集計結果** ※数値は正答率(%)を表す。青系は全国平均以上。赤系は全国平均より-5%以上。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			評価の観点			問題形式			本校		宮城県(公立)		全国(公立)		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝説的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
1-(1)	漢字を読む (乗り物の差を買う)				58 (1)ウ (7)					○	○		100.0	0.0	98.9	0.5	98.9	0.5
1-(2)	漢字を読む (子孫のためにゴミをへらす)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む			58 (1)ウ (7)					○	○		80.4	3.3	77.0	2.4	79.2	2.2
1-(3)	漢字を読む (めずらしい植物を採集する)				58 (1)ウ (7)					○	○		89.5	0.0	78.6	1.4	64.9	3.1
1二(1)	漢字を書く (魚を釣く)				58 (1)ウ (7)					○	○		76.5	3.9	64.2	7.7	72.4	5.6
1二(2)	漢字を書く (バスケットボール)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く			58 (1)ウ (7)					○	○		79.1	11.8	34.1	14.4	46.9	11.0
1二(3)	漢字を書く (2月2日の日付)				58 (1)ウ (7)					○	○		77.7	42.5	43.7	38.3	53.5	27.4
2一	ことわざの意味として適切なものを選択する (石の上にも三年)				34 (1)ア (4)					○	○		79.7	0.0	77.1	0.8	71.1	1.2
2二	ことわざの意味として適切なものを選択する (急がば回れ)	ことわざの意味を理解する			34 (1)ア (4)					○	○		87.6	0.0	81.1	1.3	86.1	1.2
3一	文のはじめの文字を丸で囲む	文の定義を理解する			12 (1)イ (2)					○	○		77.7	15.7	28.7	22.3	36.5	20.2
3二(1)	接続語を使って1文を2文に分けて書く	文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く	58 ウ		34 (1)イ (2)			○		○	○		27.5	8.5	19.0	14.5	23.4	10.3
3二(2)	「だから」と同じような働きをする接続語として適切なものを選択する	接続語「だから」のもつ働きを理解する			34 (1)イ (2)					○	○		83.0	2.0	82.5	3.6	83.3	3.5
4ア	「言葉の使い方」に関する資料を読み取り、年代ごとの割合から分かることを書く		58 エ					○			○		75.8	9.8	71.1	14.1	72.4	11.9
4イ	「言葉の使い方」に関する資料を読み取り、全体から分かることを書く	目的に応じて資料を読み、分かったことを的確に書く	58 エ					○			○		77.1	15.0	67.9	20.9	71.3	18.1
4ウ	「言葉の使い方」に関する資料を読み取り、全体から分かることを書く		58 エ					○			○		53.6	15.0	42.4	22.3	44.9	20.3
5ア	マナーに関する広告を読み、編集の仕方の特徴をまとめたものとして適切なものを選択する	広告を読み、編集の特徴を捉える			56 ウ			○	○	○			72.5	2.0	62.7	7.6	51.1	9.2
5イ	マナーに関する広告を読み、編集の仕方の特徴をまとめたものとして適切なものを選択する				56 ウ			○	○	○			79.1	2.0	74.2	8.5	71.7	10.3
6アイ	焚火とその周りの景色との関係を表したのとして適切なものを選択する	俳句の情景を捉える			58 エ					○	○		58.2	3.9	45.2	12.1	47.5	14.4
7	選手宣誓文の表現の工夫とその効果を説明したのとして適切なものを選択する	スピーチの表現を工夫する	58 イ		56 (1)イ (2)			○		○	○		51.0	8.5	45.4	20.0	43.2	21.9

・以下の集計値は、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。  
 ※ただし、4月24日に調査を実施していない学校については、4月25日以降5月10日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

**集計結果** ※青文字はプラス、赤文字はマイナスを表す。

	児童数	平均正答率(%)	全国比	宮城県比
大河原町立大河原小学校	153	48.6	0.8	1.0
宮城県(公立)	20,618	47.6		
全国(公立)	1,108,075	49.4		

**分類・区別集計結果** ※数値は正答率(%)を表す。青系は全国平均以上。赤系は全国平均より-5%以上。

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			本校	宮城県(公立)	全国(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	58.4	63.1	64.8
	書くこと	4	42.3	41.7	43.8
	読むこと	4	50.5	46.1	47.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	71.9	63.7	63.8
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	2	37.9	40.6	42.5
	話す・聞く能力	3	58.4	63.1	64.8
	書く能力	4	42.3	41.7	43.8
	読む能力	4	50.5	46.1	47.9
	言語についての知識・理解・技能	1	71.9	63.7	63.8
問題形式	選択式	3	56.0	58.4	59.7
	短答式	5	48.5	43.9	45.9
	記述式	2	37.9	40.6	42.5

**設問別集計結果** ※数値は正答率(%)を表す。青系は全国平均以上。赤系は全国平均より-5%以上。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			本校		宮城県(公立)		全国(公立)	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
1-1	助言の際に6年生が...の助言の理由を説明して適切なものを選択する	相手の立場や状況を感じ取って聞く	56イ										73.7	0.7	77.3	1.2	78.8	1.2	
1-2	6年生の助言の仕方の説明として適切なものをそれぞれ選択する	話し手の意図を捉えながら聞き、適切に助言をする	56イエ										41.3	0.0	47.5	1.2	48.5	1.2	
1-3	川本さんの助言についての説明を書く	話し手の意図を捉えながら聞き、効果的に助言をする	56イエ	56ウ									50.1	7.2	64.4	10.9	67.2	9.7	
2-1	「打ち上げ花火の歴史」という見出しに合わせて必要な内容を書き加える	目的や意図に応じ、必要な内容を適切に書き加える	56ウオカ		34(イ)(ウ)								71.9	3.3	63.7	4.9	63.8	4.4	
2-2	【ずかんの一部】の中から花火師の苦労が具体的に書かれている内容を引用して書く	目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用して書く	56エオカ										21.6	5.2	21.6	16.1	26.2	13.3	
2-3	複数の内容を関係付けた上で、自分の考えを具体的に書く	目的や意図に応じ、複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に書く	56エオカ										15.7	14.4	16.9	22.5	17.8	20.4	
3-ア	【本間さんが書いたすいせん文】において推薦している対象を書く				56エカ								52.9	6.5	48.4	15.8	49.7	15.7	
3-イ	【花田さんが書いたすいせん文】において推薦している理由を書く	2人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を捉える			56エカ								51.6	20.3	43.1	30.3	45.3	28.8	
3-ウ	【本間さんが書いたすいせん文】において推薦している理由を書く				56エカ								44.4	24.8	42.7	32.2	44.6	30.6	
3-ニ	2人の推薦文を比べて読み、それぞれの読み方として適切なものを選択する	2人の推薦文を比べて読み、読み方の違いを捉える			56エカ								52.9	7.8	50.4	9.7	51.9	10.6	

・以下の集計値は、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。  
 ※ただし、4月24日に調査を実施していない学校については、4月25日以降5月10日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

集計結果 ※青文字はプラス、赤文字はマイナスを表す。

	児童数	平均正答率(%)	全国比	宮城県比
大河原町立大河原小学校	153	82.9	5.7	6.6
宮城県(公立)	20,623	76.3		
全国(公立)	1,108,272	77.2		

分類・区別集計結果 ※数値は正答率(%)を表す。青系は全国平均以上、赤系は全国平均より-5%以上。

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			本校	宮城県(公立)	全国(公立)
学習指導要領の領域	数と計算	8	87.7	80.0	80.2
	量と測定	4	73.2	66.7	68.3
	図形	3	76.5	70.9	72.5
	数量関係	4	87.9	82.7	83.4
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	0			
	数量や図形についての技能	8	93.5	87.0	86.2
	数量や図形についての知識・理解	11	75.3	68.5	70.5
問題形式	選択式	8	71.7	66.0	68.2
	短答式	11	91.1	83.8	83.6
	記述式	0			

設問別集計結果 ※数値は正答率(%)を表す。青系は全国平均以上、赤系は全国平均より-5%以上。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点		問題形式			本校		宮城県(公立)		全国(公立)	
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
1(1)	243-65 を計算する	繰り下がりのある減法の計算をすることができる	3A(2)イ					○		○		92.2	0.0	88.8	0.2	88.2	0.2
1(2)	0.75+0.9 を計算する	小数の加法の計算をすることができる	4A(5)イ					○		○		92.2	0.0	78.1	0.3	71.3	0.3
1(3)	9.3×0.8 を計算する	小数の乗法の計算をすることができる	5A(3)イ					○		○		89.5	0.0	82.1	0.3	83.7	0.4
1(4)	6÷5 を計算する	商が小数になる除法の計算をすることができる	4A(5)ウ					○		○		95.4	0.0	88.7	1.3	88.3	1.4
1(5)	16-(6+3)を計算する	( )を用いた整数の計算をすることができる			4B(2)ア			○		○		97.4	0.0	94.4	0.8	94.4	0.8
1(6)	2と5/7+1と1/7 を計算する	同分母の分数の加法の計算をすることができる	4A(6)イ					○		○		94.8	0.7	90.9	1.9	88.9	2.1
1(7)	2/9×4 を計算する	乗数が整数である場合の分数の乗法の計算をすることができる	5A(4)カ					○		○		97.4	0.0	87.3	2.2	89.5	1.7
2	一万の位までの概数にしたときに、2000になる数を選ぶ	示された位までの概数にする際、一つ下の位の数を四捨五入して処理する方法について理解している	4A(2)イ					○				62.1	1.3	54.5	2.1	60.2	1.9
3	除数と商と余りから被除数を求める式を選ぶ	余りのある除法の場面において、被除数を求める式について理解している	4A(3)ウ					○				78.4	1.3	69.4	1.9	71.6	1.8
4	AとBの2つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ	単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解している	5B(6)ア					○				62.7	0.7	48.0	0.8	50.0	0.8
5(1)	木のまわりの長さを測定する際に用いる計器を適切に選ぶ	曲線部分の長さを測定する際に用いる適切な計器を理解している	3B(2)					○	○			98.7	0.7	97.6	0.4	97.4	0.4
5(2)	1a(1アール)の面積と等しい正方形の辺の長さを理解している	1a(1アール)の面積と等しい正方形の辺の長さを理解している	4B(1)アイ					○	○			40.7	0.7	49.9	1.1	52.3	1.1
5(3)	上底3cm、下底8cm、高さ4cm、斜辺5cmの台形の面積を求める式と答えを書く	台形の面積の求め方を理解している	5B(2)ア					○		○		95.0	1.3	71.2	2.1	73.3	2.1
6	三角形ABCと合同な三角形をかくことができる条件を選ぶ	三角形ABCと合同な三角形をかくために必要な条件を理解している	5B(1)イ					○	○			59.5	1.3	58.1	0.9	60.7	1.0
7(1)	展開図に示された側面の長方形の縦の辺の長さを書く	円柱について、見取図の高さと展開図の側面の辺の長ささが対応していることを理解している	5B(2)ア					○		○		94.1	0.7	90.8	2.0	90.6	2.1
7(2)	展開図に示された側面の長方形の横の辺の長さを求める式と答えを書く	円柱について、底面の円周の長ささと展開図の側面の辺の長ささが対応していることを理解している	5B(1)エ 5B(2)ア					○		○		75.8	1.3	63.7	6.2	66.3	5.7
8(1)	200cmの50%に当たる長さを選ぶ	割合が50%のとき、基準量と比較量の大きさの関係を理解している	5B(3)					○	○			81.0	0.7	74.3	1.9	76.7	2.2
8(2)	500gの120%に当たる重さについて、適切なものを選ぶ	割合が100%を超えるとき、基準量と比較量の大きさの関係を理解している	5B(3)					○	○			84.3	0.7	76.4	2.3	76.9	2.8
9	最小目盛りが2に当たる棒グラフから、借りた本の冊数が一番多い曜日とその曜日に借りた冊数を書く	棒の長ささと最小目盛りに着目して、数値が最も大きい項目とその数値を読み取ることができる	3B(3)ア					○		○		88.9	0.7	85.7	2.1	85.7	2.8

以下の集計値は、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。  
 ※ただし、4月24日に調査を実施していない学校については、4月25日以降5月10日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

集計結果 ※青文字はプラス、赤文字はマイナスを表す。

	児童数	平均正答率(%)	全国比	宮城県比
大河原町立大河原小学校	153	60.5	2.1	4.0
宮城県(公立)	20,619	56.5		
全国(公立)	1,108,107	58.4		

分類・区分別集計結果 ※数値は正答率(%)を表す。青系は全国平均以上。赤系は全国平均より-5%以上。

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			本校	宮城県(公立)	全国(公立)
学習指導要領の領域	数と計算	3	50.8	46.7	48.3
	量と測定	7	58.5	54.0	56.0
	図形	3	79.3	78.2	79.3
	数量関係	7	55.8	52.9	54.9
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	8	48.9	44.1	46.8
	数量や図形についての技能	1	77.8	75.8	76.1
	数量や図形についての知識・理解	4	79.4	76.4	77.2
問題形式	選択式	4	75.7	72.7	73.8
	短答式	4	57.8	59.9	61.9
	記述式	5	50.5	40.7	43.2

設問別集計結果 ※数値は正答率(%)を表す。青系は全国平均以上。赤系は全国平均より-5%以上。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式		本校		宮城県(公立)		全国(公立)		
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
1(1)	残りの乗り物券の枚数と乗る予定の乗り物券の枚数を比較して、どの買い方が一番安いかを判断することができる。	情報を整理し、筋道を立てて考え、三つの条件全てに当てはまる乗り物券を判断することができる。	14 (2)イ			40 (4)ア								41.7	2.6	49.6	3.5	51.0	3.1
1(2)	三つの乗り物券の買い方を比較して、どの買い方が一番安いかを選択し、そのわけを書く。	三つの買い方の中から最も安くなる買い方を選択し、その選択が正しい理由を記述できる。	3A (2)イ 3A (3)イ											59.5	2.0	48.6	1.0	50.8	0.9
2(1)	示された式の値が何を表しているのかを書く。	示された平均を求める式から、その計算の結果が何を求めているのかについて理解している。	58 (3)ア			40 (2)ア								49.7	2.6	50.0	4.0	51.7	3.4
2(2)	正しく測定できなかった結果を除いて平均を求めるときの正しい式を選ぶ。	飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選択することができる。	58 (3)ア			40 (2)ア								82.4	0.7	74.4	1.2	75.6	1.3
2(3)	示された実験の結果から、ふりこの長さと10往復する時間が比例の関係になっていないことを表の数値を基に書く。	表から数値を適切に取り出し、二つの数量の関係が比例の関係ではないことを記述できる。	28 (1)ア 38 (3)ア			50 (1)ア								36.6	11.1	32.3	22.5	35.2	19.0
3(1)	三人の児童の説明に対応する、長方形を4等分した図をそれぞれ選ぶ。	図に示された分割の仕方とその説明とを対応させることができる。	48 (1)イ 58 (1)ア			20 (1)イ 50 (1)イ								90.2	0.0	87.1	0.7	87.3	0.8
3(2)	示された分け方が元の長方形を4等分していることの説明として、二つの三角形の面積が等しいことを書く。	示された分け方で二つの三角形の面積が等しくなることを記述できる。	58 (1)ア											46.4	4.6	38.7	17.8	42.7	15.6
3(3)	4等分になるための条件の中で、台形では当てはまらないわけを選ぶ。	長方形と台形の分割の仕方を比べて、台形の場合は4等分にならないわけを選択することができる。	58 (1)ア			40 (1)イ								52.3	0.7	53.4	3.7	56.3	3.6
4(1)	ワールドカップ後の1試合当たりの観客数がワールドカップ前の1試合当たりの観客数の約何倍になるのかを求めるときの方法を答える。	単位量当たりの大きさに着目して、二つの数量の求め方を記述できる。	4A (2)ア 4A (3)イ			58 (4)ア								51.6	5.2	41.8	12.0	43.1	11.4
4(2)	5列10番の座席の位置を基に、2列4番の座席の位置を表す。	示された情報から二つの要素の意味を解釈し、ものの位置を特定することができる。				40 (3)								95.4	1.3	94.2	2.4	94.2	2.6
4(3)	示された式を基に、二つの乗算の合計を求める式を書く。	示された式に数値を当てはめて計算し、計算の結果の大きさを基に判断することができる。				40 (2)イ 74								75	2.6	45.7	7.7	50.6	7.4
5(1)	棒グラフと折れ線グラフの両方が示されたグラフの説明に対して、その説明がグラフのどの期間を示しているのか、正しいものを選ぶ。	棒グラフと折れ線グラフの両方が示されたグラフから、必要な情報を読み取ることができる。				30 (3)ア 40 (4)イ								77.8	1.3	75.8	4.4	76.1	5.1
5(2)	棒グラフに示された割合と基準量の変化を読み取り、インターネットの貸出冊数の増減を判断し、そのわけを書く。	割合と同じで基準量が増えているときの比較量の大小を判断し、その判断の理由を記述できる。				50 (3)イ 50 (4)								58.2	0.7	42.2	7.6	44.4	7.8

## 平成25年度 全国学力・学習状況調査の結果の分析と活用方法について

### 1 活用についてのこれからの流れ

月 日 (曜)	内 容
9月24日 (火)	職員へ「結果の分析と考察」の提案 (担当: 主幹教諭)
9月25日 (水) ~	<p>学年会において、各学年毎に学力・学習状況調査の活用の仕方を検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 〈国語B〉の問題を中心に、実際に問題を解いてみる。</li> <li>2 問題が、各学年のどの単元・領域等に関連があるか検討する。</li> <li>3 9月までの学習の様子について成果と課題を洗い出す。</li> <li>4 1~3の作業を基に、学力向上の対策を次のようにまとめる。               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 6年生                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力・学習状況踏査の分析を基にした、学力向上の対策を別紙にまとめる。</li> </ul> </li> <li>(2) 2~5年生                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・9月までの学習の様子を基に、5月に作成した「学力調査(4月)の分析と対策」の「課題解決の具体策」の修正を別紙にまとめる。</li> </ul> </li> <li>(3) 1年生                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・4~9月の学習の様子を基にして、国語科と算数科の学力向上の取組を他学年に準じて別紙にまとめる。</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol> <p>*この日に、学年会を行うことができない学年は、9月中に学年会を行いまとめる。</p>
10月 7日 (月)	各学年の「課題解決の具体策(修正版)」の一覧を提案

### 2 対外的な発表やデータの提出、調査等の予定

- 10月 2日 (水) 学力向上緊急会議 (担当: 教務主任)
- 10月24日 (木) 学力向上フォーラム in 大河原 (担当: 主幹教諭)
- 11月 5日 (火) 第3回学力向上サポートプログラム事業 (授業学年: 第6学年)
- 12月 2日 (月) 国語科指導研修会《相澤秀夫先生来校》(授業提供: 1学年主任)
- 12月11日 (水) **第2回町学力調査(全学年実施)**
- 1月22日 (水) 授業づくり研修会 (担当: 研究主任)
- 2月上旬 「学力向上に向けた取組の成果と課題」を事務所に提出  
(担当: 主幹教諭)

【国語科】

学年全体の傾向と学年としての対策

【国語A】

- ・平均正答数は11.9/18と全国を0.6上回っている。平均正答率では、66.1%と全国を3.4ポイント上回る結果となった。
- ・分類・区別集計結果では、全ての領域、全ての観点、全ての問題形式において、全国平均を上回った。
- ・全国平均を5ポイント以上下回る結果となった設問は、漢字を書く問題および、文の定義を理解する問題であった。

【国語B】

- ・平均正答数は4.9/10と全国と同じであった。平均正答率では、48.6%と全国を0.8ポイント下回る結果となった。
- ・分類・区別集計結果では、「話すこと・聞くこと」の領域において、全国平均正答率を6.4ポイント下回る結果となった。また、「書くこと」においても1.5ポイント下回る結果となった。
- ・全国平均を5ポイント以上下回る結果となった設問は、相手の立場や状況を感じ取って聞く問題、話し手の意図を捉えながら聞き、適切に助言をする問題、話し手の意図を捉えながら聞き、効果的に助言をする問題であった。

○校内研究と関連させた授業の改善を行う。目的を明確にした音読の工夫を行うとともに、家庭学習において日常的に音読するようにする。

○現在、各学級で行っている朝のスピーチをより充実させ、ねらいを明確にして話をしたり、聞いた内容を簡潔にまとめてメモにとったりするなどの活動を行う。

○「朝読書の時間」を基盤として、読書の習慣化を図る。

	各学級の傾向	学力向上の具体策
1組	「国語A」の平均正答数は12.7/18と全国を1.4上回っている。最も正答率が低かったのは、文と文の意味のつながりを考えながら接続語を使って内容を分けて書くことができるかどうかをみる問題であった(21.1%)。「国語B」の平均正答数は5.4/10と全国を0.7上回っている。最も正答率が低かったのは、目的や意図に応じ、複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に書くことができるかどうかをみる問題であった(21.1%)。	説明的文章や物語の単元の指導において、2つ以上の内容が含まれた1文を内容ごとに複数の文に分けて書いたり、箇条書きにしたりと、言語を操作する活動を取り入れる。また、要点に注意しながら文章を読み、必要な内容を引用して文章を書くなど、読むことと書くことを関連付けた指導を行う。
2組	「国語A」の平均正答率は11.0/18と全国を0.3下回っている。正答率の低かったのは、文の定義を理解しているかを見る問題(26.3)と文と文のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことができるかどうかを見る問題であった(23.7)。「国語B」の平均正答率は4.2/10と全国を0.7下回った。最も正答率が低かったのは、目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用して書くことができるかどうかを見る問題であった(13.2%)。	国語の授業の中で、常に文を意識しながら読み取りをさせていく。段落の中心文を抜き書きさせたり、必要な情報が書かれた文を探させたりといった指導を繰り返し行う。さらに、宿題や放課後の補習の時間を使い、文の中の主語や述語や接続詞の使い方など、基礎的な知識が身に付くように指導を行う。
3組	「国語A」の平均正答数は12.4/18と全国を1.1上回っている。最も正答率が低かったのは、文と文の意味のつながりを考えながら接続語を使って内容を分けて書くことができるかどうかをみる問題であった(23.7%)。「国語B」の平均正答数は5.4/10と全国を0.7上回っている。最も正答率が低かったのは、目的や意図に応じ、複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に書くことができるかどうかをみる問題であった(15.8%)。	説明的文章や物語の単元の指導の中で、内容ごとに複数の文を一つの文にまとめたり、接続語を用いて1文を複数の文に分けて書いたりする言語活動を授業に取り入れる。また、目的や内容に応じて書く活動を授業内に設定し、自分の考えを具体的に書くように指導を行う。
4組	「国語A」の平均正答数は11.5/18と全国を0.2上回っている。最も正答率が低かったのは、文の定義を理解することができるかどうかをみる問題であった(17.9%)。「国語B」の平均正答率は4.5/10と全国を0.4下回っている。最も正答率が低かったのは、目的や意図に応じ、複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に書くことができるかどうかをみる問題であった(10.3%)。	授業中や宿題などで、言葉の特徴やきまりに関することや文の中における主語や述語との関係など、文の基礎的な定義を学習する機会を多く設ける。また、要点に注意しながら文章を読み、必要な内容を引用して文章を書くなど、読むことと書くことを関連付けた指導を行う。



## 【算数科】

### 学年全体の傾向と学年としての対策

#### 【算数A】

- ・平均正答数は15.8/19と全国を1.1上回っている。平均正答率では、82.9%と全国を5.7ポイント上回る結果となった。
- ・分類・区分別集計結果では、全ての領域、全ての観点、全ての問題形式において、全国を上回った。
- ・全国平均を下回る結果となった設問は、1aと等しい面積になる正方形の一边の長さを選ぶ問題(-5.9)および三角形ABCと合同な三角形をかくことができる条件を選ぶ問題(-1.2)の2問であった。

#### 【算数B】

- ・平均正答数は7.9/13と全国を0.3上回っている。平均正答率では、60.5%と全国を2.1ポイント上回る結果となった。また、学級間の平均正答数の差が1.0あった。
- ・分類・区分別集計結果では、全ての領域、全ての観点で全国を上回ったが、問題形式では、短答式が4.1ポイント下回る結果となった。
- ・全国平均を5ポイント以上下回る結果となった設問は、情報を整理し、筋道を立てて考え、三つの条件全ての当てはまる乗り物を判断することができるかを問う問題および、示された式に数値を当てはめて計算し、計算の結果の大小を基に判断することができるかを問う問題であった。

○個に応じた指導を進めていく。本調査の結果を基に、町で導入しているデータベースを活用して、個々の状況を踏まえた課題に取り組ませる。

○授業の進度に応じた宿題プリントを作成し活用することで、習熟と定着を図る。

	各学級の傾向	学力向上の具体策
1組	「算数A」の平均正答数は16.5/19と全国を2.0上回っている。最も正答率が低かったのは、1aの面積と等しい正方形の一边の長さを理解しているかどうかをみる問題であった(50.0%)。「算数B」の平均正答数は8.6/13と全国を1.0上回っている。最も正答率が低かったのは、情報を整理し、筋道を立てて考え、三つの条件全てに当てはまる乗り物を判断することができるかどうかをみる問題であった(44.7%)。	算数の授業において、問題場面の情報や条件を基に、筋道を立てて考え、図や絵などを用いて表現する活動を積極的に取り入れる。また、「量と測定」の単元の学習や宿題プリントにおいて、それぞれの単位の意味と大きさの関係や、それぞれの単位に基づく面積の大きさについて復習させ、理解が確実になるよう指導を行う。
2組	「算数A」の平均正答数は15.5/19と全国を0.8上回っている。最も正答率が低かったのは、1aの面積と等しい正方形の一边の長さを理解しているかどうかをみる問題であった(47.4%)。「算数B」の平均正答数は7.7/13と全国を0.1上回っている。最も正答率が低かったのは、情報を整理し、筋道を立てて考え、三つの条件全てに当てはまる乗り物を判断することができるかどうかをみる問題であった(42.1%)。	算数の授業において、問題を正しく読み取らせるために、分かっていることと訪ねられていることを確認した上で解決に臨ませる。また、宿題や補習時間を用いて、単位の換算に対する理解を深めさせ、習熟を図る。さらに、約分や四捨五入などを苦手とする児童に個別指導を行う。
3組	「算数A」の平均正答数は15.5/19と全国を0.8上回っている。最も正答率が低かったのは、一つ下の位の数を四捨五入して処理する方法を理解しているかどうかをみる問題であった(47.4%)。「算数B」の平均正答数は7.8/13と全国を0.2上回っている。最も正答率が低かったのは、情報を整理し、筋道を立てて考え、三つの条件全てに当てはまる乗り物を判断することができるかどうかをみる問題であった(31.6%)。	算数の授業において、条件を正しく読み取り、筋道を立てて自己解決する場面を設定する。また、概数の概念を理解させるために日常生活や他教科とも関連させながら、目的に応じて四捨五入し、処理する方法が理解できるように指導を行う。
4組	「算数A」の平均正答数は15.6/19と全国を0.9上回っている。最も正答率が低かったのは、1aの面積と等しい正方形の一边の長さを理解しているかどうかをみる問題であった(33.3%)。「算数B」の平均正答数は7.4/13と全国を0.2下回っている。最も正答率が低かったのは、表から数値を適切に取り出して、二つの数量の関係が比例の関係ではないことを教と言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題であった(23.1%)。	算数の授業において、問題場面の情報や条件を基に、筋道を立てて考え、図や絵などを用いて表現する活動を積極的に取り入れる。また、「量と測定」の単元の学習や宿題プリントにおいて、数量の関係を具体的な数値を事実として示すことができるように指導を行う。

これまでの学習の様子に基づいた10月以降の学力向上の対策について(1~5年)  
2013, 10, 7 大河原町立大河原小学校

	国語科	算数科
1年		
2年		
3年		
4年		
5年		

## 『学力向上に関する緊急会議』からの提言

宮城県教育委員会

本県の学力の状況については、これまで改善傾向にあったものの、今回の学力調査では一転してほとんどの教科で全国値を下回る結果となりました。

そのため、県教育委員会では、学力向上を図るための緊急会議を平成25年10月2日に開催しました。

この緊急会議においては、本県児童生徒の状況や学力等について、精神科医、大学教授、地教委教育長、PTA代表、小中学校教員等で話し合い、今の子供たちに対しては、心のケアを行いつつ、分かる授業を行うことが重要であることを確認しました。

子供たちが安心して学校生活を送り、学習意欲や自信を持たせるためには、教師と子供、子供同士の好ましい人間関係を築くとともに、分かる・できる授業づくりを積み上げていくことが必要です。人間関係づくりや授業改善は一朝一夕にはできませんが、その足がかりとして、すぐに着手できることはあります。

各学校のすべての先生方に、明日からすぐに取り組んでいただきたい事項を「学力向上に向けた5つの提言」としてまとめましたので、実践化に努めるようお願いいたします。

### 学力向上に向けた5つの提言

#### **1** どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること。

どの子供にも一日一回は声を掛け、子供の話をじっくり聞くことが、心のケアや人間関係づくりにつながります。

#### **2** 子供をほめること、認めること。

子供は、ほめられると集中力が高まります。授業中にほめたり認めたりすることは、学習評価のひとつです。

#### **3** 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。

本時のねらいをより具体的に設定し、1単位時間で育てる力を明確にします。授業の終末には、子供の学びを的確に把握し後の指導に生かすようにしましょう。

#### **4** 自分の考えをノートにしっかり書かせること。

黒板を書き写すだけでなく、自分の考えをノートに書くように指導します。書くことは、思考力、表現力を育てます。ワークシートではなく、ノートづくりを徹底しましょう。

#### **5** 家庭学習の時間を確保すること。

学校で学んだことを家庭で復習することは、知識や技能の定着につながります。予習は、授業での理解を早めます。保護者の協力を得て、家庭学習の時間を確保しましょう。各学校で作成している「家庭学習の手引き」の中に、家庭学習のメニューを具体的に記載するとともに、適度な量の宿題を課しながら家庭学習を習慣づけましょう。

## 平成２５年度公立高等学校「みやぎ学力状況調査」について

1 目的	生徒の学習状況等に係る意識調査を実施し、各学校における学習指導及び進路指導の改善に役立てる。
2 調査項目	・学力状況(国語, 数学, 英語:一部選択問題(基礎基本・発展応用)) 対象:2学年 ・学習状況、心身の健康状況・「志教育」に係る意識の変化 対象:1・2学年
3 調査対象	公立(県立, 仙台市立, 石巻市立)高校1年生約15,200人, 2年生約15,000人
4 実施期間	平成25年7月4日(木)～7月12日(金)

5 学力状況調査結果の主な特徴(2学年) → 【概要版 p2～3】		正答率 (前年)
国語	○基礎・基本は定着, 叙述に即して内容を的確に読み取る力に課題 ⇒ 正答率はやや低下:様々な表現に慣れさせる機会を増やし、言語知識を活用することで思考力・表現力を向上させるなどの工夫が必要	47.3 (54.2)
数学	○基礎・基本は定着, 条件を選択したり組み合わせたりして思考する力に課題 ⇒ 得手不得手の二極化拡大:知識や技能を反復して活用し体系的な理解を深めたり、論理的に課題を解決する姿勢を身につけさせるなどの工夫が必要	47.7 (48.7)
英語	○基本的な表現は身に付いているが, 要点や概要を把握する力に課題 ⇒ 得手不得手の二極化拡大:具体的な言語の使用場面を提示しながら、言語活動と効果的に関連付けて定着を図るなどの工夫が必要	47.0 (41.2)

6 意識調査結果の主な特徴(1・2学年) → 【概要版 p4～12】	
学習状況	○ 大学や短大への進学希望は微増, 震災前の水準に回復。未定は1年時から半減。 ○ 授業が概ね理解できる生徒の割合は増加, 2年時の家庭での学習時間は大幅に減少。 ○ 家庭学習の悩みは「集中できない」が最も多く、長続きしないと合わせると約半数。 ○ 「ゲームやインターネット」, 「電話やメール」の割合が増加。 ○ 平日2～3時間の家庭学習時間を確保すること, 宿題や小テストの頻度を上げることが、学習内容の定着につながっている。 ○ 朝食をきちんと食べる生徒が1年時比で減少。
心身の健康	○ 生活習慣・体調管理・食生活については、食欲もあり体調もよいと回答している生徒の割合は7割～9割と高く概ね良好であるが、1・2年生ともに昨年度より低下していることに注意が必要。 ○ 学校生活については、充実感や満足感を感じる生徒の割合は8割。 ○ 勉強に集中できている生徒は約半数、できていない生徒の割合が、1・2年生とも昨年度より増加。
志教育	○ 人が困っている時は進んで助けようとする生徒, 人の役に立つ人間になりたいと思っている生徒の割合は8～9割。 ○ 一方で、ボランティア活動や地域の活動に進んで参加している生徒の割合は3割弱。 ○ 自分の適性が分かっている生徒, 働くことの意義を理解している生徒, 自分の役割に責任を持って行動している生徒は、7～8割, いずれも昨年度よりも増加。

7 今後の取組 → 【概要版 p13】	
○授業改善の推進 ○教員の資質向上	○家庭学習時間の確保 ○志教育の充実 ○家庭と学校との連携 ○継続的な調査研究